

特定の課題に関する調査
(英語：「書くこと」)
調査結果 (中学校)



平成24年1月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

目次

特定の課題に関する調査 (英語：「書くこと」) 結果のポイント

I	調査の概要	1～4
1	調査の趣旨	1
2	調査実施学年と出題の範囲	1
3	調査実施期間	1
4	調査の内容	1
5	調査問題の構成と出題の意図	2
6	調査対象の抽出	2
7	調査実施学校数及び生徒数	3
8	調査対象学校における実施方法	3
9	採点及び集計	3
10	その他(用語の説明)	4
II	調査結果及び指導の改善の要点	5～6
1	新学習指導要領での主な改訂内容について	5
2	調査結果のポイントについて	5
3	今後の指導の改善方向について	6
III	分析・考察と指導の改善	7～48
1	各調査観点における分析・考察と指導の改善	7～37
(1)	基礎的・基本的な知識・技能について	7～21
問題1		7
問題5		11
問題5 1		11
問題5 2		15
問題2		18
(2)	読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力について	22～25
問題3		22
(3)	資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力について	26～28
問題6		26

(4)	文と文のつながりに注意してまとまりのある文章を書く力について	29～31
	問題4	29
(5)	自分の考えを明確にし、文と文のつながりを工夫して文章を書く力について	32～37
	問題7	32
2	コーパス分析から見た作文の特徴	38～43
3	学校質問紙から分かる指導の傾向と課題	44～48
IV	調査結果	49～83
1	問題1における調査結果	49
2	問題2における調査結果	56
3	問題3における調査結果	61
4	問題4における調査結果	64
5	問題5における調査結果	66
6	問題6における調査結果	73
7	問題7における調査結果	81
V	生徒質問紙調査における調査結果	84～88
1	英語学習に関する意識調査の結果	84
2	主として「書くこと」に関する意識調査の結果	86
VI	学校質問紙調査における調査結果	89～93
1	英語の指導に関する調査の結果	89
2	まとまりのある内容の文章を書くことに関する調査の結果	92
3	学習状況に関する調査の結果	93
	特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）委員名簿表	94～95

特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）結果のポイント

- 調査対象学年／中学校第3学年
- 調査実施日／平成22年11月8日～11月19日
- 調査実施学校数及び生徒数／101校 約3,300人
全国の国公私立中学校から無作為抽出

調査の内容

● 「書くこと」の基礎的・基本的な知識・技能とまとまりのある文章を書くことに焦点を当てた調査

■ 「書くこと」の基礎的・基本的な知識・技能

- ①文字、符号の使い方、語と語の区切りに注意して正確に筆記しているか(問題①),
 - ②語と語のつながりに注意しているか(問題⑤),
 - ③文と文のつながりに注意しているか(問題②),
- を出題方法を変えるなどして比較分析。

■ まとまりのある文章を書くこと

自分の考えや情報を発信するコミュニケーション能力について、

- ①読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力(問題③),
 - ②資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力(問題⑥),
 - ③まとまった内容の文章を書く力(問題④・⑦),
- を把握。一部に「平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査」(以下、「H15調査」とする。)と同一問題を使用し、経年比較から分析。

- ペーパーテストの結果に加えて、生徒の学習に対する意識や学習習慣及び問題を解答したときの状況等や学校における指導の実際等に関する質問紙調査の結果を関連させ考察

結果のポイント

≪「書くこと」の基礎的・基本的な知識・技能≫

- 疑問文や否定文の形式について理解している生徒の割合に比べ、コミュニケーションの中でそれらの文形式を正しく使うことができる生徒の割合が低いこと。(問題⑤②)
- 時間の経過や代名詞に着目して文と文のつながりを考えることが十分身に付いているとはいえないこと。(問題②②)

≪まとまりのある文章を書くこと≫

- H15調査との比較から、まとまった内容の文章を書くことができる生徒の割合が増加したこと。また、4文以上書けた生徒の割合が増加し、無解答の割合が減少したこと。(問題④)
- まとまった内容の文章は書けても、文と文のつながりを工夫して展開することが十分身に付いているとはいえないこと。(問題⑦)

≪生徒質問紙調査≫

- H15調査との比較から、「英語を学習すれば、好きな仕事につくことに役立つと思いますか。」において肯定的な回答をした生徒の割合が増加したこと。(質問紙⑩(10))

十分に評価される事項

<語と語のつながり（文の構造）>問題⑤…p. 16

- 疑問文や否定文の形式についての知識を問う問題の通過率は約7割

<文と文のつながり（文章の構成）>問題②…p. 19

- 前後の節のつながりから等位接続詞 but を補充する問題の通過率は、選択肢がある場合で約9割、選択肢がない場合で約8割

<まとまった内容の文章を書く力>問題④…p. 29, 30

- H15 調査の「まとまった内容の文章を書く問題」との比較では、通過率は約13ポイント増加し約5割、無解答率は約5ポイント減少し約2割
- H15 調査との比較から、通過・非通過を問わず4文以上書けた生徒の割合は約8ポイント増加し約7割

<英語学習に関する意識調査>…p. 85

- H15 調査との比較から、「英語を学習すれば、好きな仕事につくことに役立つと思いますか。」において肯定的な回答をした生徒の割合が約23ポイント増加し約7割

調査結果における主な課題と指導の改善事項

調査結果における主な課題

指導の改善事項

①文字、符号の使い方、語と語の区切り 問題①…p. 8

- 呼びかけの文において、符号「,」と「?」が必要となる位置を判断し、適切な符号を用いることができなかった生徒の割合は約7割

- 普段の指導の中で、文意や読み手を意識して符号を活用させる機会を増やすなど

②語と語のつながり（文の構造） 問題⑤…p. 12, 16

- 後置修飾（前置詞句の形容詞的用法）における語句整序の問題の通過率は約4割

- 日本語との対比の中で語の配列の違いにふれながら書かせ、後置修飾を使って身の回りのものを表現させるなど

- 疑問文や否定文をコミュニケーションの中で正しく使うことが十分身に付いているとはいえない

- 場面設定を明確にし、対話や文章のながれにふさわしい文形式や時制を考えさせるなど

③文と文のつながり(文章の構成) 問題2…p. 19

- 従属接続詞 because, if を正しく補充する問題の通過率は約4～5割
- 時間の経過や代名詞に着目し文と文のつながりを考える問題の通過率は約6割
- 普段の授業の中で接続詞に着目して英文を読んだり, 単語や文をつなぐ語を意識してまとまりのある文章を書いたりさせるなど
- 文と文のつながりに注意させながら, 文章を理解したり書いたりさせるなど

① 読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力 問題3…p. 23

- 読み取った内容に関して, 書きたい内容を適切な語彙や文の構造が分からず書けなかった, と回答した生徒の割合は約3割
- 自分の意見・感想等を書くために必要となる語彙や文の構造等の知識を深めるとともに, 読み取った文章中の表現を活用して書かせるなど

②資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力 問題6…p. 27

- 与えられた資料・状況のみを基に(日本語の指示なし)内容を考えて書けた生徒の割合は約3割
- 自分の意向を伝える内容が書くことができたが, 正しく伝わるように表現することができなかった生徒の割合は約2割
- マッピングを取り入れ思考の活性化を図った上で, アイディアの取捨選択を行わせるなど
- ペアやグループでメモや手紙の交換を行い, 書かれた内容がどのように伝わっているのかを確かめさせるなど

③まとまった内容の文章を書く力 問題4・7…p. 30, 34

- 問題4
- 誤答には, 文構造等の誤りを含むものが多い
- 問題7
- まとまりのある内容の文章を書けた生徒のうち, 文と文のつながりを工夫して展開して書くことができなかった生徒の割合は約7割
 - 文構造等を繰り返し指導したり, まとめて取り扱ったりして, 理解の体系化を図り, 適切な表現を選択させるなど
 - 文の羅列に対して, 内容に一貫性をもたせるように配列を考えるとともに, 代名詞やつなぎ言葉などを効果的に使って文章にさせるなど

I 調査の概要

1 調査の趣旨

特定の課題に関する調査は、平成 15 年 10 月 7 日の中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」において提言され、児童生徒の学力の総合的な状況を把握するために、従来から実施してきた「教育課程実施状況調査」の枠組みでは把握が難しい内容について調査研究を行い、今後の教育課程や学校における指導の改善に資するものである。

国立教育政策研究所（以下、「研究所」とする。）では平成 17 年度に英語における「話すこと」に関する調査を実施し（平成 19 年度に調査結果を報告）、今回は「書くこと」に焦点を当てることとした。

また、一部に「平成 15 年度小・中学校教育課程実施状況調査」（以下、「H15 調査」とする。）の問題を使用することで、「書くこと」の経年比較を行うこととした。

2 調査実施学年と出題の範囲

(1) 調査実施学年

中学校第 3 学年（中等教育学校前期課程第 3 学年を含む。）

(2) 出題範囲

中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月告示）第 2 章各教科第 9 節外国語に示された英語の「書くこと」を出題範囲とした。

3 調査実施期間

平成 22 年 11 月 8 日（月）～平成 22 年 11 月 19 日（金）

4 調査の内容

本調査は、学習指導要領に示された「書くこと」の内容がどの程度身に付いているかを把握しようとするものである。同学習指導要領には、3 学年間を通して主として次の事項について指導することとされている。

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと。
- (イ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること。
- (ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。
- (エ) 伝言や手紙などで読み手に自分の意向が正しく伝わるように書くこと。

このように、「書くこと」の能力は、与えられた語や文を書き写すことができるだけでなく、自分の考えなどを書くことができることを重視している。その能力を測定・評価するために、本調査では以下の5つの観点から調査を行った。

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能について
- (2) 読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力について
- (3) 資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力について
- (4) 文と文のつながりに注意してまとまりのある文章を書く力について
- (5) 自分の考えを明確にし、文と文のつながりを工夫して文章を書く力について

5 調査問題の構成と出題の意図

問題	問題の概要	A・B間の相違	出題の意図
調査Ⅰ	1 文字、符号、語と語の区切りに注意して書く ※4線(英語罫線)使用		「書くこと」の基礎・基本である。文字(大文字・小文字の別)、符号の使い方、語と語の区切りに注意して正確に筆記しているかを把握する
	1 与えられた英文を正確に書き写す	共通問題	文字や符号、語と語の区切りに注意しているかを把握する
	2 与えられた英文に符号を加えながら正確に筆記する	【A】符号の位置を示さない 【B】符号の位置を示す	特に、大文字・小文字の別、符号の使い方を適切に判断して筆記しているかを把握する
	3 与えられた英語の文字の連なりを適切に区切りながら正確に筆記する	【A】英文の内容をイメージさせるイラストを示さない 【B】英文の内容をイメージさせるイラストを示す	文字、符号に加えて、語と語の区切りを適切に判断して筆記しているかを把握する
調査Ⅱ	2 文・文章中の空欄に適切な語・文を補充する		まとまりのある文章を書くための基礎的・基本的な知識・技能である。文と文のつながりに注意して書く力を把握する
	1 文中の空欄に適切な1語(接続詞)を補充する	【A】接続詞の選択肢を示す 【B】接続詞の選択肢を示さない	前後の節のつながりに注意し、適切な接続詞を用いているかを把握する
	2 文章中の空欄に入る適切な1文を選択する	共通問題	前後の文のつながりに注意し、適切に文章を構成しているかを把握する
	3 文章を読んで理解し、内容に関して自分の意見・感想を書く	共通問題	文章を正しく読み取るとともに、読んだ文章に関して自分の意見・感想を英語で書いているかを把握する
4 指定されたトピックについて自由に書く ※H15調査と同一問題	共通問題	文と文のつながりに注意してまとまりのある英語で文章を書いているかを把握する	
調査Ⅱ	5 対話が成り立つように、整序、書き換え、補充する		文を構成するための基礎的・基本的な知識・技能である。語と語のつながりに注意して書く力を把握する
	1 与えられた語句を並べ替えて対話中の一部を完成する	見るべきポイント(文法事項)計10問を、内容A・Bに分ける	主な文法事項を理解しているかを把握する
	2 対話が成り立つよう文の一部を書き換える、又は補充する	同じ対話について、①日本語の指示に従い英文を書き換える問題、②対話の流れを理解し適切な英語を考えて補充する問題、に分けて出題する	①疑問文や否定文の構造について理解しているかを把握する ②対話の流れを理解し、コミュニケーションを図れるよう、文の形式や時制を適切に判断して表現しているかを把握する
	6 与えられた資料・状況を基に手紙を完成する	【A】日本語の指示を示す 【B】日本語の指示を示さない	資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書いているかを把握する
7 示された異なる意見について自分の考えを書く	【A】単語リストを示さない 【B】単語リストを示す	自分の考えを明確にし、文と文のつながりを工夫して文章を書いているかを把握する	

6 調査対象の抽出

中学校第3学年の生徒について、約3,000人(内容A、内容Bについて、それぞれ約1,500人)の調査結果を得ることとして、無作為に抽出した全国の国公私立中学校の対象学年の全学級から、研究所が示す方法によってそれぞれ1学級を抽出し、その学級の生徒全員を調査対象とした。

7 調査実施学校数及び生徒数

種類	学校数 (校)	生徒数 (人)
内容A	51	1,644
内容B	50	1,581
	101	3,225

8 調査対象学校における実施方法

(1) 調査問題

本調査においては、出題の意図に対して一部内容A・内容Bで出題方法を変え、把握したい力を調査した。また、H15調査における「トピック指定問題」と同一問題を出題し、経年比較を行った。

(2) 生徒質問紙調査

調査対象学級の生徒に対して、英語の学習に対する意識や学習内容に関する意識などについて調査した。

(3) 学校質問紙調査

調査対象学級で英語の指導を行っている教員に対して、指導の工夫や生徒の学習状況などについて調査した。

9 採点及び集計

本調査においては、研究所が設定した問題ごとの解答類型に従って採点し、集計を行った。

(参考) 調査結果を見るに当たって

(1) 正答，準正答

解答については、「正答」のほか、問題により、完全な正答とはいえないが、学習指導要領の目標や内容に照らして学習の実現状況を判断しようとする際、その問題のねらいからは正答したものと同等に扱ってよいと判断できるものとして「準正答」を設けた。

(2) 通過率

調査実施生徒数（有効な解答を行ったものとして、集計対象とした生徒の人数。無解答も含まれる。）に対して、正答又は準正答いずれかであった生徒数の割合を「通過率」とした。

(3) 解答類型

生徒の具体的な解答の状況から学習上の課題をとらえ、学習指導の改善につなげることができるよう、設問ごとの正答，準正答，予想される誤答などを分類したものを「解答類型」とした。

(4) 反応率

調査実施生徒数のうち、それぞれの解答類型に属する解答をした生徒数の割合を「反応率」とした。

10 その他（用語の説明）

本報告書における以下の用語は，ここに示す内容で使用している。

「文構造」

新学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）の「言語材料」の中で示す「文構造」を指す。「主語＋動詞」「主語＋動詞＋補語」などがこれに該当し，現行の学習指導要領では「文型」としているものである。

「文の構造」

上記「文構造」に疑問文，否定文などの文形式も含め，より広い意味で，いわゆる文の組立て（つくり）のことを指す。（参考：「中学校学習指導要領解説 外国語編」（平成 20 年 9 月） p. 20 の 2 行目）

「文構造等の誤り」

文構造の誤りを含むものに加えて，動詞・助動詞について文法・語法等の誤りが連続しているもの，一見英文のようであるが意味内容が理解できないもの，単語の羅列に終わっていて意味をなす文になっていないものがこれに該当する。

「時制」

新学習指導要領の「言語材料」の中で示す「動詞の時制など」，すなわち，現在形，過去形，現在進行形，過去進行形，現在完了形及び助動詞などを用いた未来表現を指す。

Ⅱ 調査結果及び指導の改善の要点

1 新学習指導要領での主な改訂内容について

今回の中学校学習指導要領改訂（平成20年3月告示）に先立って平成19年に学校教育法が一部改正されたが、その中で学力の重要な要素の一つとして「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」が掲げられた。さらに、この思考力・判断力・表現力等を育成するためには、すべての教科等において言語活動を充実させ、子どもたちの言語に関する能力を高める必要があることを、中央教育審議会答申（平成20年1月）では強調している。

このような状況を踏まえ、中学校外国語科の改訂に当たっては、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実することなどを基本方針とし、各領域で課題となっている事項に対応させる形で言語活動を再編成した。併せて、一層幅広いコミュニケーションを図ることができるようにするため、授業時数や指導する語数を増加する一方で、指導事項の更なる定着を図るため、文法事項等の指導内容は概ね従来そのままとしている。

「書くこと」の領域においては、単語の意味や働きから単語間の結び付きを理解して適切な語順で文を書くことや、まとまった内容の文章を書くことといった点で課題があることを考慮し、言語活動の示し方を現行のものより細分化した。具体的には、「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」や「文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」などを明記することで、課題の克服をねらっている。

言語材料の面でも、文法事項については、実際に活用できるように指導すること、語や連語及び慣用表現については、活用することを通して定着を図るようなことをそれぞれ規定しており、具体的な場面や状況で適切に用いるようにして定着を図ることを重要視している。

2 調査結果のポイントについて

今回の調査は、大きく分けると、「書くこと」の基礎的・基本的な知識・技能とまとまりのある文章を書くことの2点に焦点を当てて実施した。それぞれの点について、調査問題の結果に加え、生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果との関連も分析することによって判明した主なポイントは以下のとおりである。

「書くこと」の基礎的・基本的な知識・技能については、

- 疑問文や否定文の形式について理解している生徒の割合に比べ、コミュニケーションの中でそれらの文形式を正しく使うことができる生徒の割合が低いこと。

○時間の経過や代名詞に着目して文と文のつながりを考えることが十分身に付いているとはいえないこと。

等が分かった。

一方、まとまりのある文章を書くことについては、

○H15 調査との比較から、まとまった内容の文章を書くことができる生徒の割合が増加したこと。また、4文以上書けた生徒の割合が増加し、無解答の割合が減少したこと。

○まとまった内容の文章は書けても、文と文のつながりを工夫して展開することが十分身に付いているとはいえないこと。

等が分かった。

さらに、生徒質問紙調査から、

○H15 調査との比較から、「英語を学習すれば、好きな仕事につくことに役立つと思いますか。」において肯定的な回答をした生徒の割合が増加したこと。

等が分かった。

3 今後の指導の改善方向について

本調査結果報告では、現行の学習指導要領（平成10年12月告示）下での「書くこと」に関わる実現状況を、上記2に掲げるような成果や課題を中心として浮き彫りにした上で、課題となる部分についての指導の改善事項、授業実践アイデア例を示している。

なお、この指導の改善事項等は、上記1の新学習指導要領での改訂内容に留意しつつまとめている。大きくは次の二つの視点を基本とした。

○実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を通して定着を図るようにすること。

○生徒が思考・判断する場面を活動の中に取り入れるようにすること。

例えば、「書くこと」の基礎的・基本的な知識・技能のレベルでは、与えられた場面や状況の中で、文の形式や動詞の形（時制）を適切に判断させるような活動を取り入れたり、まとまりのある文章を書くことにおいては、実際に文章を構成していく中で、どういった文の配列にし、どのようなつながり言葉を用いれば効果的かを焦点化して考えさせたりするなど、様々な工夫が考えられる。

このような方向で授業を改善するには、「書くこと」における一つ一つの活動に対して従来以上に時間をかける必要がある。しかし、今次改訂により、授業時数の増加に伴って言語活動を充実させることが可能となったこともあり、各学校・地域の実態に合わせ、年間指導計画や単元の指導計画等の策定段階において、上記の視点を意識しながら「書くこと」の指導を改善していくことが必要と考えられる。

Ⅲ 分析・考察と指導の改善

1 各調査観点における分析・考察と指導の改善

(1) 基礎的・基本的な知識・技能について

問題 1

【調査問題 問題1 内容A】

1 次の1～3の各問いに答えなさい。

1 次の(1)～(3)の各文を、文字や符号、語と語の区切りなどに注意して書き写しなさい。

(1) You must study hard.
(2) Is that boy Saki's brother?
(3) Naoki said, "This cake is great!"

2 次の(1)・(2)の各文を、文字や符号などに注意して、英語の文として正しい形になるように書き直しなさい。その際、必要に応じて、このページの下の [] の中から適切な符号を選んで加えること。また、(1)・(2)とも1文とすること。

(1) its an interesting story
(2) what are you reading tomoko

3 次は、ルーシー (Lucy) とジョン (John) の会話です。[] 内のすべての文字を順番をかえずに用いて、英語の文として正しい形になるように書き直しなさい。その際、必要に応じて、このページの下の [] の中から適切な符号を選んで加えること。

Lucy: [doyouplaybaseball]
John: [noidont]

<符号>
[. , ? ' " " !]

【調査問題 問題1 内容B】

1 次の1～3の各問いに答えなさい。

1 次の(1)～(3)の各文を、文字や符号、語と語の区切りなどに注意して書き写しなさい。


(1) You must study hard.
(2) Is that boy Saki's brother?
(3) Naoki said, "This cake is great!"

2 次の(1)・(2)の各文を、文字や符号などに注意して、英語の文として正しい形になるように書き直しなさい。その際、() には、このページの下の [] の中から適切な符号を選んで加えること。また、(1)・(2)とも1文とすること。

(1) it () s an interesting story ()
(2) what are you reading () tomoko ()

3 次は、ルーシー (Lucy) とジョン (John) の会話です。右下のイラストを参考にしながら、[] 内のすべての文字を順番をかえずに用いて、英語の文として正しい形になるように書き直しなさい。その際、必要に応じて、このページの下の [] の中から適切な符号を選んで加えること。

Lucy: [doyouplaybaseball]
John: [noidont]



<符号>
[. , ? ' " " !]

問題1は、「書くこと」の基礎・基本である、文字（大文字・小文字の別）、符号の使い方、語と語の区切りに注意して正確に筆記できるかを問う問題である。

これは、現行の学習指導要領「書くこと」の言語活動(ア)「文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと」に関する内容である。(新学習指導要領「書くこと」の言語活動(ア)に相当する。)

1は、与えられた英文を正確に書き写す問題であり、内容A・Bは共通問題である。

2は、必要に応じて大文字や符号を使用しながら英文として正確に筆記する問題である。内容Bでは符号の位置を示すが、内容Aでは符号の位置を示さない。

3は、与えられた英語の文字の連なりから語を判別し、適切に区切りながら英文として正確に筆記する問題である。内容Bでは英文の内容をイメージさせるイラストを示すが、内容Aではイラストを示さない。

○ 分析・考察

【十分に評価される事項】

英文を書く際に、文字、符号、語と語の区切りに注意して筆記した生徒は、8割以上であった。

1 (1)～(3)の通過率は、それぞれ91.3%、81.1%、84.0%であり、8割以上の生徒が英文を正確に書き写すことができたと考えられる。

なお、3 (Lucy)・(John)では内容A・Bともに通過率が7割以上であり、誤答の中で「語としてのまとまりが不明瞭又は不正確であるもの」の割合が1割未満であった。これは、語と語の区切りを適切に判断することができたことを示している。

これらのことから、生徒の多くが大文字・小文字や「.」「?」「'」といった符号、語と語の区切りに注意して筆記することができると考えられる。ただし、1 (3)では、通過の中で準正答である「文字や符号の形に正確さを欠くところがあるもの」の割合が30.4%であった。具体的には、「a」と「u」の判別が困難であったり、「“」や「”」の向きがあいまいであったりするなど、文字や符号の形に正確さを欠くものがみられた。

【課題となる事項】

文意に応じて、符号が必要となる位置を判断し、適切な符号を用いることが十分とはいえない。

2 (2)では、通過率が内容Aで12.3%、内容Bで41.7%であり、29.4ポイントの差がみられた。これは、内容Bにおいて、符号の位置を明示したことが文意を理解する手助けとなったためと考えられる。実際、内容Aの誤答の中で「文中の符号「,」を正しい位置に筆記していないもの」の割合が最も高かった。

一方、内容Bでは、誤答の中で「固有名詞の初めの文字が大文字でないもの」の割合が3割程度であった。この原因として、tomoko が人物名であることや相手に対する呼びかけとして用いられていることに気付かず What are you reading との関係を理解できなかったり、呼びかけの前では「,」で区切ることを知らなかったりしたことなどが考えられる。

これらのことから、文意に応じて、符号が必要となる位置を判断し、適切な符号を用いることは十分とはいえないと考えられる。

○ 分析結果からみた指導の改善事項

文意に応じて、大文字・小文字の区別や符号の使い方を意識させる指導を工夫することが大切である。

生徒質問紙2(8)「英文を書くとき、大文字と小文字の使い方に注意していますか。」、(9)「英文を書くとき、「?」や「,」などの符号の使い方に注意していますか。」において、2・3の全ての問題で、肯定的な回答をした生徒の通過率が否定的な回答をした生徒の通過率を上回った。

【生徒質問紙2(8), (9)における肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

内容A		生徒質問紙2(8)			生徒質問紙2(9)		
問題番号		肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差	肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差
2	(1)	74.2	54.7	19.5	74.5	60.8	13.8
2	(2)	12.7	7.4	5.3	13.1	5.7	7.4
3	Lucy	85.2	51.6	33.6	85.1	65.8	19.3
3	John	78.3	44.2	34.0	78.6	55.1	23.5

内容B		生徒質問紙2(8)			生徒質問紙2(9)		
問題番号		肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差	肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差
2	(1)	73.7	49.2	24.5	74.5	50.8	23.7
2	(2)	43.2	25.0	18.2	44.5	20.9	23.6
3	Lucy	82.3	56.7	25.6	83.2	58.8	24.4
3	John	72.2	48.3	23.9	73.9	42.2	31.7

このことから、英文を正しく筆記するためには、大文字・小文字の区別や符号の使い方を意識して正確に筆記する習慣を身に付けさせることが大切であると考えられる。一つの單元の中でまとめて取り上げるのではなく、普段の指導の中で常に意識させていくことが必要である。特に符号については、初出時に意味や表記上のルールについて意識付けを行うとともに、その後も、文意に応じて活用する機会を増やす工夫が必要である。また、英文を書き写す活動においては、単に書き写すのではなく、内容を理解しながら読み手に伝える活動とするなどの工夫も大切である。例えば、用意した文字や符号に関するチェックリストに従って、ペアでお互いが書いた英文を修正し合うことや、ペアでスキットを書く際に様々な符号を活用させることなども有効であると考えられる。

授業実践アイデア例

～文意に応じて、文字や符号を正しく使わせる指導～

暗号を解読しよう!

～文章の内容を考えて、大文字・小文字や符号を正しく使う～

○このメールの文章を解読し、質問に答えよう。

HAPPYBIRTHDAYKEN
PLEASECOMETOMYHOUSEAT3PM
WELLHAVEAGREATPARTYFORYOU
MARY

Question1 だれ宛のメールですか?

Question2 だれが書いたメールですか?

Question3 何のパーティーがありますか?

Question4 パーティーはいつありますか?

○大文字・小文字を区別し、必要な符号を正しい位置に入れて書いてみよう。

○チェックリストを見ながら、ペアの相手の文章をチェックしよう。

《ワークシート》

あなたの友達に下のようなメールが届いた。アドレスからはだれからなのか分からない。この暗号を解読しよう。

HAPPYBIRTHDAYKEN
PLEASECOMETOMYHOUSEAT3PM
WELLHAVEAGREATPARTYFORYOU
MARY

○大文字・小文字を区別し、必要な符号を正しい位置に入れて書いてみよう。

H _____

Mary

<Check List>

- 単語ごとにスペースを一文字分入れる
- 文や人の名前は大文字で書き始める
- 文の終わりには、文意に応じて「.」「?」「!」などを付ける
- 文の途中には、意味の区切りを分かりやすくするため、必要に応じて「,」を付ける
- 短縮形を書く場合は、「'」を付ける

○友達の代わりに返事を書こう。

To _____

From _____

※学習段階により返事を書かせる活動もあり

文字や符号の形や大きさなど、読む相手のことを考えて、読みやすい記述を心がけさせたい。そのためにも、チェックリストを使ったペアでのチェックは有効です。



問題 5

問題5は、文を構成するための基礎的・基本的な知識・技能である、語と語のつながりに注意して書くことができるかを問う問題である。

これは、現行の学習指導要領「書くこと」の言語活動(ア)「文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと」及び(ウ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」に関する内容である。(新学習指導要領「書くこと」の言語活動(ア)・(イ)に相当する。)

問題 5 1

【調査問題 問題5 1 内容A】

5 次の1・2の各問いに答えなさい。

1 次の(1)~(5)のAとBの会話が成り立つように、それぞれ [] 内に与えられた語句を並べかえて () 内に入る英語を完成させ、それを書きなさい。ただし、文頭に来るものも小文字になっています。

(1) A: Let's play basketball in Sakura Park.
B: OK. ()?
[that park / is / where]

(2) A: How long were you in Kyoto, Mr. Smith?
B: ().
[I / for a week / there / stayed]

(3) A: It was sunny all morning here.
B: Really? It was ().
[left my house / raining / I / when]

(4) A: Your bag looks heavy.
B: Yes. () read.
[have / a lot of / to / I / books]

(5) A: Excuse me. Who wrote this book?
B: Let me see. ().
[Natsume Soseki / written / it / by / was]

【調査問題 問題5 1 内容B】

5 次の1・2の各問いに答えなさい。

1 次の(1)~(5)のAとBの会話が成り立つように、それぞれ [] 内に与えられた語句を並べかえて () 内に入る英語を完成させ、それを書きなさい。ただし、文頭に来るものも小文字になっています。

(1) A: When do you usually play soccer?
B: () on Sunday.
[it / play / we]

(2) A: Look! () cute.
B: Oh, it's my cat.
[under the tree / that cat / is]

(3) A: Tomorrow is Risa's birthday.
B: Really! ().
[give / her / some flowers / I'll]

(4) A: It's cold today.
B: How about some hot tea? ().
[you / it'll / warm / make]

(5) A: I forgot our new English teacher's name.
B: Me, too. ().
[difficult / it's / English names / remember / to]

1は、与えられた語句を並べ替えて対話の中の一部を完成させる問題である。内容A・Bでみるべきポイント(文法事項)を分けて、内容A 5問、内容B 5問の計10問を出題している。

【設問ごとの通過率(通過率順)】

内容	番号	並替 語句 数	対象文	主な文法事項	通過率 (%)
A	(1)	3	(Where is that park)?	疑問詞で始まる疑問文	91.1
A	(5)	5	(It was written by Natsume Soseki).	受け身	85.0
B	(1)	3	(We play it) on Sunday.	S + V + O	75.4
B	(3)	4	(I'll give her some flowers).	S + V (give) + I O + D O	71.0
A	(2)	3	(I stayed there for a week).	S + V + 場所 + 時	67.0
A	(4)	5	(I have a lot of books to) read.	to 不定詞の形容詞的用法	59.2
A	(3)	4	It was (raining when I left my house).	従属接続詞 when を用いた複文	58.5
B	(4)	4	(It'll make you warm).	S + V (make) + O + C (形容詞)	44.7
B	(5)	5	(It's difficult to remember English names).	It + is + ~ + to 不定詞	42.4
B	(2)	3	(That cat under the tree is) cute.	前置詞句の形容詞的用法(後置修飾)	40.2

○ 分析・考察

【十分に評価される事項】

疑問詞で始まる疑問文 Where is that park? と受け身の文 It was written by Natsume Soseki. における語句整序の問題の通過率は、約9割であった。

内容A(1)・(5)の通過率は、それぞれ91.1%、85.0%であった。

通過率が最も高かった内容A(1)は、疑問詞 where で始まる疑問文の問題である。誤答の中で、日本語の語順に影響されたと考えられる「That park is where と解答しているもの」の割合は1.1%であり、疑問詞を文頭に置くことは定着していると考えられる。

通過率が2番目に高かった内容A(5)は、受け身の問題である。受け身は、教科書の初出が2年の3学期から3年の1学期と比較的遅い上に、本問題は並べ替え語句数が5つと多い。しかし、It was written by ～ (動作主)は多くの教科書で用いられている典型的な文であるため、比較的良好に定着していると考えられる。

【課題となる事項】

① 後置修飾（前置詞句の形容詞的用法）の正確な使用に課題がみられる。

内容B(2)は、後置修飾（前置詞句の形容詞的用法）であり、最も通過率が低かった。前置詞句の形容詞的用法は、教科書への初出が1年生と早く、of, in を用いたものは何度も繰り返し使われている。その上、本問題の並べ替え語句数は3つと少ないにもかかわらず、通過率が40.2%であった。

誤答のうち、「That cat is under the tree と解答しているもの」の割合は38.3%であった。that cat under the tree (木の下にいるネコ) という後置修飾が構成できないために、cute を除いて考え、このような解答になったと考えられる。さらに、前置詞句によって修飾されている名詞が主語であることも通過率が低い要因となった可能性があると考えられる。

生徒質問紙3(7)「この問題に解答したときのあなたの状況に最も近いものは次のどれですか。」において、本問について「会話の内容は分かったが、語句の並べ方が分からなかった」と回答した生徒の割合が3割以上であり10問中最も高かったことから、後置修飾の定着に課題があると考えられる。さらに、同質問において「会話の内容が分かり、語句の並べ方も分かった」と回答した生徒の通過率が、本問では54.1%であったのに対し、本問以外ではほぼ8割以上であった。このことから、生徒自身が後置修飾についての理解が十分ではないことに気付いていない可能性もある。

② 「主語＋動詞＋目的語＋補語（形容詞）」や「It + be 動詞 + ～ + to 不定詞」の文構造が十分定着しているとはいえない。

内容B(4)「主語＋動詞＋目的語＋補語（形容詞）」、内容B(5)「It + be 動詞 + ～ + to 不定詞」の通過率は、それぞれ44.7%、42.4%であった。

生徒質問紙3(7)「この問題に解答したときのあなたの状況に最も近いものは次のどれですか。」において、本問2問について「会話の内容は分かったが、語句の並べ方が分からなかった」と回答した生徒の割合がどちらも約3割であり、これらの文構造

は、多くの生徒にとって十分定着しているとはいえないと考えられる。

内容B(4)の誤答の中で「It'll you make warm と解答しているもの」の割合が25.0%であり、それぞれの語の品詞、果たす役割が理解できていないと考えられる。

内容B(5)は、to不定詞の問題であるが、誤答の中で「It's difficult remember to English names と解答しているもの」の割合は11.5%と最も高く、to不定詞の名詞的用法が正確に使えていない。

なお、①の課題とも関わるが、後置修飾やto不定詞は、H15調査の「文構造問題」(本問と同じ形式の語句整序の問題)においても課題として挙げられている。

○ 分析結果からみた指導の改善事項

① 後置修飾は、意味のまとまりのある名詞句をつくる活動をするなど、その構造に習熟させる指導の工夫が必要である。

後置修飾は、特に日本語との語順の違いにより、生徒にとってその構造を理解することが難しいと考えられる。そのため、これらが使われている文からその構造を理解させ、日本語との対比の中で語の配列の違いにふれながら書かせる活動を行うことが重要である。

前置詞句の形容詞的用法は、to不定詞、現在分詞、過去分詞などを用いた後置修飾、接触節や関係代名詞節といった節レベルでの後置修飾につながる基礎とも考えられる。そのため、修飾の構造や意味のまとまりとしての理解を定着させ、活用できるまで高めることが必要である。

例えば、ある人物や物について相手に伝える文の中で、the man in a hat や the bag on the bed などと表現させる活動などがある。このような意味のまとまりのある名詞句をつくる活動は、他の後置修飾を学習する度に、繰り返し行うことができる。

② 「主語＋動詞＋目的語＋補語」や「It＋be動詞＋～＋to不定詞」などの文構造は、繰り返し活用させる中で定着を図る指導の工夫が必要である。

これらの内容は、いずれも教科書における初出が3年生と遅く、初出の単元では基本文となって練習問題もあるが、その後は教科書本文にあまり現れない。したがって、活用される機会が少ないと考えられる。そのため、学習した単元の後でも、繰り返し活用する活動の工夫が必要である。

例えば、日本語を英語に直す活動ではなく、これらの文構造が求められる場面や状況を与えて「読むこと」と「書くこと」を行わせたり、生徒に暗唱させた基本文が答えとなる問いを作らせるペア活動により、「話すこと」から「書くこと」へとつなげたりすることで定着を図るなどの工夫が考えられる。

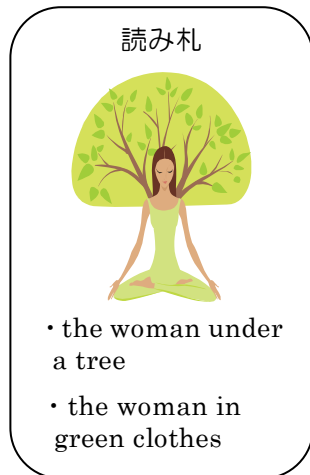
特に3年生後半で学習する文法事項(文構造等)は、できる限り活用させる機会を設けるとともに、高等学校において継続的な指導が行われることが望ましい。

授業実践アイデア例

～後置修飾に習熟させる指導～

『人物描写カルタ』

- いろいろな状況・条件の人物を表しているカルタを用意する。
※絵から分かる後置修飾の例がいくつか書いてある読み札を用意するなどの工夫もあり
- 読み手はカルタの人物を後置修飾を使って描写し、それを他のメンバーがとる。
- カルタをとった人は、描写された後置修飾を使って文を作り、ワークシートにまとめる。
- 読み手は交代していく。



The girl skating on the ice...

The girl skating on the ice is Asada Mao.
I like her skating very much.



The woman in a red dress...

The woman in a red dress is eating salad.



問題 5 2


【調査問題 問題5 2 内容 A】

2 次の(1)~(5)は、中学生のコウジ (Koji) と日本に来たばかりのカナダ人の留学生マイク (Mike) の会話です。それぞれ〈 〉内に示された場面での会話で、右のイラストはその様子を表したものです。


(1)~(5)については、() 内の指示にしたがって_____の引かれた文を書きかえ、会話が成り立つようにしなさい。なお、解答用紙には文の一部がすでに書かれています。

(4)・(5)については、_____に必要な英語を書き、会話が成り立つようにしなさい。その際、() 内の語を適切な形で用いること。


(1) < 休憩時間に教室で >
 Koji: You speak Japanese very well. You studied it in Canada.
(疑問文にしなさい。)
 Mike: Yes. I studied it every day.




(2) < 図書室で >
 Mike: That woman is reading an English book. She is our English teacher.
(疑問文にしなさい。)
 Koji: Yes. She is Ms. Suzuki.




(3) < 歌舞伎公演のポスターを見て >
 Koji: Do you know about *kabuki*?
 Mike: Yes, but I have seen it.
(否定文にしなさい。)
 Koji: Really! Then you should see it. Let's go together.



(4) < 昼休みに校庭で >
 Mike: Do you play soccer?
 Koji: No. _____ it. But I like tennis.
(like)



(5) < 放課後音楽室で >
 Koji: You play the piano very well! _____ it for a long time?
(play)
 Mike: Yes. For ten years. I practice it every day.




【調査問題 問題5 2 内容 B】

2 次の(1)~(5)は、中学生のコウジ (Koji) と日本に来たばかりのカナダ人の留学生マイク (Mike) の会話です。それぞれ〈 〉内に示された場面での会話で、右のイラストはその様子を表したものです。


(1)・(2)については、() 内の指示にしたがって_____の引かれた文を書きかえ、会話が成り立つようにしなさい。なお、解答用紙には文の一部がすでに書かれています。

(3)~(5)については、_____に必要な英語を書き、会話が成り立つようにしなさい。その際、() 内の語を適切な形で用いること。


(1) < 昼休みに校庭で >
 Mike: Do you play soccer?
 Koji: No. I like it. But I like tennis.
(否定文にしなさい。)




(2) < 放課後音楽室で >
 Koji: You play the piano very well! You have played it for a long time.
(疑問文にしなさい。)
 Mike: Yes. For ten years. I practice it every day.




(3) < 休憩時間に教室で >
 Koji: You speak Japanese very well. _____ it in Canada?
(study)
 Mike: Yes. I studied it every day.



(4) < 図書室で >
 Mike: That woman is reading an English book. _____ our English teacher?
(be)
 Koji: Yes. She is Ms. Suzuki.



(5) < 歌舞伎公演のポスターを見て >
 Koji: Do you know about *kabuki*?
 Mike: Yes, but _____ it.
(see)
 Koji: Really! Then you should see it. Let's go together.



2は、対話が成り立つよう文の一部を書き換える、又は補充する問題である。

同じ対話について、日本語の指示に従い英文を書き換える問題（以下、「形式既定型」とする。）と、対話のながれを理解し適切な英語を考えて書く問題（以下、「形式判断型」とする。）に分けて出題している。なお、内容Aと内容Bでは両方の型の問題が混在した形で出題している。

「形式既定型」の例

<昼休みに校庭で>
 Mike: Do you play soccer?
 Koji: No. I like it. But I like tennis.
 (否定文にきなさい。)

「形式判断型」の例

<昼休みに校庭で>
 Mike: Do you play soccer?
 Koji: No. _____ it.
 (like)
 But I like tennis.

○ 分析・考察

【十分に評価される事項】

疑問文や否定文の形式についての知識を問う問題の通過率は、約7割であった。

形式既定型の問題では、内容A(1)の一般動詞の過去時制の疑問文を除き、通過率は約7割であった。内容A(1)においては、誤答のうち Do you studied や Did you studied のような「一般動詞の過去時制の疑問文としているが、誤っているもの」の割合が20.7%であり、文の構造は約7割が理解していると考えられる。

【「形式既定型」の設問ごとの通過率】

内容 問題番号	形式既定型	通過率 (%)
A (1)	You studied it in Canada. (疑問文に)	48.9
A (2)	She is our English teacher. (疑問文に)	76.3
A (3)	I have seen it. (否定文に)	65.3
B (1)	I like it. (否定文に)	72.6
B (2)	You have played it for a long time. (疑問文に)	66.5

【課題となる事項】

疑問文や否定文をコミュニケーションの中で正しく使うことが十分とはいえない。

形式判断型の通過率は like を除き約2～3割であり、また誤答の中で「疑問文や否定文となっていないもの」の割合は、一般動詞の疑問文46.5%、be動詞の疑問文38.6%、現在完了形の否定文35.7%、一般動詞の否定文13.3%、現在完了形の疑問文18.4%であった。書き換えの元の文や日本語の指示がない場合に、疑問文や否定文をコミュニケーショ

【形式判断型の問題ごとの通過率と

「疑問文や否定文となっていないもの」の反応率】

形式判断型	通過率 (%)	「疑問文や否定文となっていないもの」の反応率(%)
study	22.6	46.5
be	28.7	38.6
see	24.5	35.7
like	59.4	13.3
play	15.9	18.4

ンの中で正しく使うことが十分とはいえないと考えられる。

併せて、内容A(1)と内容B(3)においては、正答に加え、「一般動詞の過去時制の疑問文としているが、誤っているもの」を、文章のながれから求められる動詞の時制を正しく判断していると考えた。これに従い、求められる動詞の時制を正しく判断した生徒の割合を形式既定型と形式判断型で比べると、形式判断型における反応率が低く、文形式の使用と同様の課題がみられる。

【求められる時制を正しく判断して解答していると
考えられる生徒の割合】

動詞	時制	形式既定型 における 反応率 (%)	形式判断型 における 反応率 (%)	差
study	過去	69.6	28.9	40.7
be	現在	76.6	30.3	46.3
see	現在完了	80.4	27.8	52.6
like	現在	89.7	74.4	15.3
play	現在完了	84.3	21.9	62.4

○ 分析結果からみた指導の改善事項

与えられた場面や状況の中で、文の形式や動詞の形（時制）を適切に判断することができるよう、指導を工夫することが大切である。

正しくコミュニケーションを図ることができるような文を書くためには、適切な文の形式や時制を文脈から判断することが大切である。

指導に当たっては、相手からの質問や依頼などを聞いたり読んだりして、その意図を正しく理解し、適切に応じることができるように指導することが必要である。具体的には、文脈に適切な英文1文を多肢選択方式で選ばせる段階から、生徒の理解度に応じて形式判断が必要な段階へと指導内容を工夫することが考えられる。

また、時制については、さまざまな動詞の形の中から対話のながれにふさわしいものを考えさせるような指導が考えられる。その際、1文のみを示して空欄の動詞の形を変えさせるのではなく、場面設定を明確にした上で、対話や文章のながれからふさわしい時制を考えさせることが大切である。

これらの学習内容を繰り返して指導し、定着を図ることが大切である。

授業実践アイデア例

～適切な文の形式を判断させる指導～

例えば、一般動詞の疑問文や疑問詞 where を用いた疑問文の定着を図る場合、例のように会話のながれの中でどういう内容を表現すればよいかを考えて文を作らせると、1文であっても「考える力」が付きます。



例)

Ken: You speak English well.

_____ every day?

Miho: Yes, it's my favorite subject.

例)

Ken: I play soccer every Sunday. Will you come and see us?

Miho: _____

Ken: We play at Sakura Park.

問題2

【調査問題 問題2-1 内容A】

2 次の1・2の各問いに答えなさい。

1 次の(1)~(3)について、各文の意味が通るように()内にあてはまる最も適切な語をそれぞれア~エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

(1) I like dogs, () I don't have a dog.

ア and
イ because
ウ but
エ if

(2) I study English hard () I want to go to America.

ア because
イ but
ウ or
エ when

(3) Let's go to the beach tomorrow () it's sunny.

ア and
イ if
ウ or
エ that

【調査問題 問題2-1 内容B】

2 次の1・2の各問いに答えなさい。

1 次の(1)~(3)について、各文の意味が通るように()内に適切な語を一つずつ入れなさい。

(1) I like dogs, () I don't have a dog.

(2) I study English hard () I want to go to America.

(3) Let's go to the beach tomorrow () it's sunny.

【調査問題 問題2-2 内容A・B共通】

2 次の(1)~(3)について、各文章の意味が通るように()内にあてはまる最も適切な文をそれぞれア~エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

(1) Tokyo is a big city. () I want to go there someday.

ア I live there.
イ I've never been there.
ウ I go there every day.
エ I don't like big cities.

(2) Ken lost his tennis racket last Monday. () He'll buy a new one if he can't find it.

ア He's still looking for it.
イ He found it.
ウ He has it now.
エ He'll give it to his friend.

(3) Keiko was in New York last week. () She showed them to her family after she came back to Japan.

ア She wrote a letter there.
イ She met some Japanese there.
ウ She went to a park there.
エ She took many pictures there.

問題2は、まとまった文章を書くための基礎的・基本的な知識・技能である、文と文のつながりに注意して書くことができるかを問う問題である。

これは、現行の学習指導要領「書くこと」の言語活動(ウ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」に関する内容である。(新学習指導要領「書くこと」の言語活動(ア)・(オ)に相当する。)

1は、文中の空欄に適切な1語(接続詞)を補充する問題である。内容Aでは選択肢を示すが、内容Bでは選択肢を示さない。

2は、文章中の空欄に入る適切な1文を選択する問題であり、内容A・Bは共通問題である。

○ 分析・考察

【十分に評価される事項】

前後の節のつながりから等位接続詞 but を補充する問題の通過率は、選択肢がある場合で約9割、選択肢がない場合で約8割であった。

1の内容A(1)～(3)の通過率はそれぞれ89.0%、79.0%、70.6%、内容B(1)～(3)の通過率はそれぞれ75.3%、50.2%、39.5%であった。

(1)の but を補充する問題の通過率は、他よりも高かった。内容A(選択肢あり)では約9割、内容B(選択肢なし)では約8割の生徒が、等位接続詞 but の使い方を正しく理解していると考えられる。

【課題となる事項】

① 従属接続詞 because, if を正しく用いることに課題がみられる。

1の内容B(1)の等位接続詞 but を補充する問題と比べると、(2)・(3)の従属接続詞 because, if を補充する問題の通過率は低かった。誤答の中で「その他の接続詞の機能を有する語句を解答しているもの」と「接続詞の機能を有する語句以外の語句を解答しているもの」を合わせた割合が、(2)では27.8%、(3)では36.7%であった。これらのことから、従属接続詞 because, if を正しく用いることに課題があると考えられる。

② 時間の経過や代名詞に着目して文と文のつながりを考えることが十分とはいえない。

2(1)～(3)の通過率はそれぞれ79.1%、56.1%、61.9%であった。(1)に比べて、(2)・(3)の通過率が低かった。(2)は時間の経過、(3)は代名詞を手がかりに文と文のつながりを判断しなくてはならない。これらのことから、時間の経過や代名詞に着目して文と文のつながりを考えることが十分身に付いていないと考えられる。

○ 分析結果からみた指導の改善事項

① 「読むこと」や「書くこと」の活動を通して従属接続詞の習得を図るよう、指導を工夫することが大切である。

生徒質問紙2(11)「英文を書くとき、単語や文をつなぐ語 (and, because, if, when などの接続詞) を使うことを意識していますか。」において、1の内容B(2)・(3)で、肯定的な回答をした生徒の通過率は否定的な回答をした生徒の通過率を30ポイント以上上回った。

【生徒質問紙2(11)における肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

内容B		生徒質問紙2(11)		
選択肢なし		肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差
	1	(2)	59.6	23.5
1	(3)	47.5	17.2	30.3

このことから、接続詞の習得には、普段の授業の中で接続詞に着目して英文を読んだり、単語や文をつなぐ語を意識してまとまりのある文章を書いたりすることが大切であると考えられる。従属接続詞の意味や用法の理解にとどまらず、それを活用して英文の内容を理解したり、英語で表現したりする活動を通して、確実な習得を図るよう指導を工夫することが大切である。

② 教科書の本文を理解する時に時制や代名詞に着目したり，英作文をする時に時間の経過や話のつながりに従って適切な時制や代名詞を使用したりして，適切に文章を構成するよう指導を工夫することが大切である。

生徒質問紙 2 (14) 「英文を書くとき，時制（過去，現在）などを意識していますか。」において，2 (2) で，肯定的な回答をした生徒の通過率は否定的な回答をした生徒の通過率を 26.9 ポイント上回った。

【生徒質問紙2(14)における肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

		生徒質問紙 2 (14)		
問題番号		肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差
2	(2)	61.3	34.4	26.9

また，生徒質問紙 2 (13) 「英文を書くとき，代名詞（that, it など）を使うことを意識していますか。」，(15) 「代名詞（that, it など）や，場所を表す言葉（there など）が出てきたとき，それが何を指すか，考えるようにしていますか。」において，2 (3) で肯定的な回答をした生徒の通過率は否定的な回答をした生徒の通過率を，それぞれ 15.8 ポイント，23.9 ポイント上回った。

【生徒質問紙2(13)(15)における肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

		生徒質問紙 2 (13)			生徒質問紙 2 (15)		
問題番号		肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差	肯定的回答者の通過率(%)	否定的回答者の通過率(%)	差
2	(3)	66.5	50.7	15.8	66.7	42.8	23.9

これらのことから，時制や代名詞の正しい活用には，普段の授業の中で時制や代名詞に着目して英文を読んだり，時間の経過を踏まえ，適切に代名詞を用いて文章を書いたりすることが大切である。単一の文を理解したり書いたりする活動にとどまらず，複数の文を相互の意味のつながりに注意しながら理解したり書いたりする活動を通して，時制や代名詞の確実な習得を図るよう指導を工夫することが大切である。

具体的には，時制や代名詞を意識していくつかの文を整序し，まとまった文章にする活動をするを手始めとして，適切に文章を構成する活動を普段の授業の中で取り入れることが望ましいと考える。

授業実践アイデア例

～時制や代名詞などに着目させ、文章を構成させる指導～

Yuiの1日のストーリーを組み立てよう!

～時間のながれや話のつながりから文章を組み立てる～

○次の文に続く文章を、①～⑦の文を並べ替えて組み立てよう。

Yui got up at 7:00 this morning. She had rice and miso soup for breakfast.

● ① She went to a restaurant for dinner with her family. ●

● ② She cleaned her room in the morning. ●

● ③ So she studied math very hard after dinner. ●

● ④ He played very well. ●

● ⑤ They ate a lot in the restaurant. ●

● ⑥ In the afternoon, she went to a park and played tennis with her friend Ken. ●

● ⑦ She will have a math test tomorrow. ●



時間の経過（時制）や人物、状況を
手がかりにすると、つながりのよい文
章を作ることができるぞ。



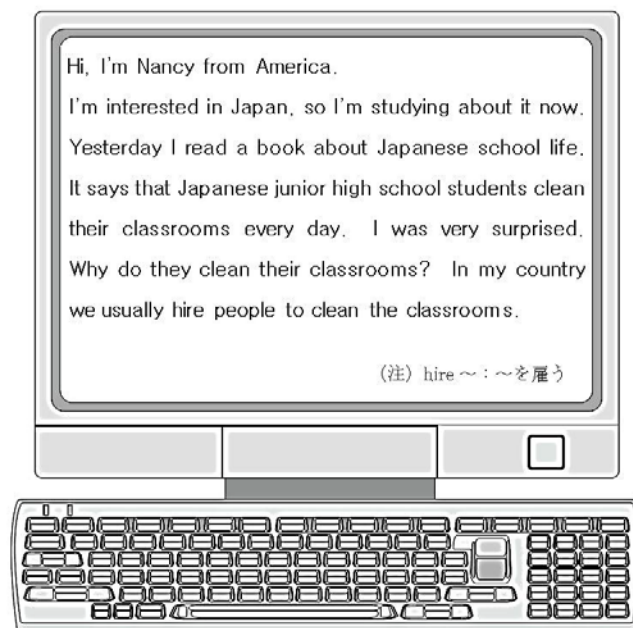
学習段階により、並べ替えてできた文章に、文と文をつ
なぐ語などを考えてつながりを工夫させたり、自分で考え
た文を付け加えさせたりすることもできます。

(2) 読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力について

問題3

【調査問題 問題3 内容A・B共通】

- ③ あなたは、インターネットの意見交換の掲示板に、アメリカ人の中学生ナンシー（Nancy）による次のような書き込みを見つけました。これをよく読んで、あとの問いに答えなさい。



- (1) この英文の内容に関する次の質問に日本語で答えなさい。
〔質問〕ナンシーは日本の中学校での生活のどんなことに驚いたのですか。
- (2) ナンシーが掲示板に書いていることについて、あなたはどんな感想や意見を持ちましたか。1.5語以上の英語で書きなさい。文の数はいくつになってもかまいません。ただし、符号は語数に数えないこととします。

問題3は、文章を正しく読み取るとともに、読んだ文章に関して自分の意見・感想を英語で書くことができるかを調査する問題である。内容A・Bは共通問題である。

これは、現行の学習指導要領「読むこと」の言語活動(ウ)「物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること」、「書くこと」の言語活動(イ)「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること」に関する内容である。(新学習指導要領「読むこと」の言語活動(ウ)及び「書くこと」の言語活動(イ)に相当する。)

○ 分析・考察

【十分に評価される事項】

英語の文章を読み取ることができた生徒のうち、読んだ文章に関して自分の意見・感想をもつことができた生徒は、約9割であった。

(1)を通過した生徒は1,881人(全体の58.3%)であった。このうち、生徒質問紙3(3)「この問題に解答したときのあなたの状況に最も近いものは次のどれですか。」において、「書く内容が思い浮かんだ」と回答した生徒の割合は、91.2%であった。

このことから、英語の文章を読み取ることができた生徒のうち、読んだ内容に関して自分の意見・感想をもつことができた生徒は、約9割であったと考えられる。

【(1)で通過した生徒のうち「書く内容が思い浮かんだ」生徒の割合と内訳】

	生徒質問紙3(3)「書く内容が思い浮かんだ」と回答した生徒※	その他	合計
(1)を通過した生徒	1,716人 (91.2%)	165人 (8.8%)	1,881人 (100%)

※「書く内容が思い浮かんだ」と回答した生徒:「書く内容が思い浮かび、英文で書くことができた」又は「書く内容は思い浮かんだが、単語が分からず書けなかった」又は「書く内容は思い浮かんだが、文の組立て方が分からず書けなかった」と回答した生徒を示す

【課題となる事項】

読み取った内容に関して、自分の意見・感想など書きたい内容を適切な語彙や文の構造を用いて書くことに課題がみられる。

(2)を通過した生徒は1,295人(全体の40.2%)、無回答の生徒は952人(全体の29.5%)であった。

本問において(1)を通過した生徒のうち、(2)を通過しなかった生徒の割合が43.3%であった。このうち、「文構造等に誤りがみられるもの」と「無解答」の割合は、それぞれ18.9%、13.6%であった。

【(1)を通過した生徒の(2)の通過状況】

	(2)			合計
	通過した生徒	通過しなかった生徒		
(1)を通過した生徒	1,067人 (56.7%)	文構造等に誤りがみられるもの	無回答	その他
		355人 (18.9%)	256人 (16.7%)	203人 (10.8%)
		814人(43.3%)		

また(1)を通過した生徒のうち、生徒質問紙3(3)「この問題に解答したときのあなたの状況に最も近いものは次のどれですか。」において、「書く内容は思い浮かんだが、単語が分からず書けなかった」と回答した生徒の割合は15.8%、「書く内容は思い浮かんだが、文の組み立て方が分からず書けなかった」と回答した生徒の割合は17.9%であり、合わせて約3割であった。

【(1)を通過した生徒の生徒質問紙3(3)における選択肢の反応率】

(1)を通過した生徒	生徒質問紙 3 (3)				合計
	書く内容が思い浮かび、英文で書くことができた	書く内容は思い浮かんだが、単語が分からず書けなかった	書く内容は思い浮かんだが、文の組立て方が分からず書けなかった	その他	
	1,082人 (57.5%)	298人 (15.8%)	336人 (17.9%)	165人 (8.8%)	1,881人 (100%)
		634人 (33.7%)			

これらのことから、読んだ内容に関して書く内容をもちながら、その内容を表す適切な語彙や文の構造が分からないため表現できなかつたと考えられる。

○ 分析結果からみた指導の改善事項

自分の意見・感想等を書くために必要な語彙や文の構造等に関する知識を深め、活用させるとともに、読み取った文章中の表現を活用することを促すような指導を工夫することが大切である。

伝えたい内容を適切な英文で表現するには、語彙を拡充することや、文法、文の構造等についての知識を深めることが必要である。指導に当たっては、「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を工夫・充実させることが大切である。「読むこと」と「書くこと」を統合した活動を計画的に設定し、自分の考え・感想等をまとめ、それを適切に書いて表現することに慣れ親しむよう指導する工夫が有効であると考えられる。

具体的には、教科書に限らず、各学年のレベルに応じた多様な英文を取扱いつつ、意味が分からない語句、表現等については推測させたり、辞書指導を行ったりするなど、英文の読み取り方に関する指導の工夫が考えられる。また、読んだ英文の一部を書き写させたり、英文の一部を用いた文を書かせたりするなど、読んだ英文を活用させることも基礎的な活動として大切である。

その上で、教科書に示される基本表現を用いて自分のことを書いて表現する活動を毎時間の終わりに設定する、既習の文法事項を用いてまとまりのある文章を書く、スキットの台本作りをするなど、生徒が興味を持って取り組めるような活動を意図的・計画的に設定する工夫が考えられる。さらに、英文を読む際には、図や表、絵、写真等によって内容理解の支援をしながら、自分の意見・感想をもたせるといった配慮も考えられる。

授業実践アイデア例

～読み取った文章中の表現を活用させる指導～

『海外からのメールに返信しよう！』

- 下記のメールを読んで、あなたはどのような考えを持ちましたか？
- そのように考えた根拠となる部分に下線を引こう。
- 下線を引いた部分を使って、日本（自分）の実情に書き換え、理由を含めた自分の意見・感想を加えて返信用の文章としてまとめてみよう。

《送られてきたメール》

Dear Class,

Hello! Here in America our school system is different from yours. For example, our schools only go from early September to early June. At our schools we have two major vacations. One is winter vacation. We get a week off to celebrate Christmas and New Year, and the other is summer vacation. We have three months off until we have to go back to school in fall.

Please tell me about your school life.

Sincerely,
Robbie

※ _____ は生徒Aが, _____ は生徒Bが, _____ は生徒Cが引いたこととする。

《生徒の返信例》

生徒A

<My opinion and comment>

Our schools go from early April to late March. I'm interested in starting schools in September.



生徒B

<My opinion and comment>

At our schools we have three major vacations. we have spring vacation without any homework.



生徒C

<My opinion and comment>

American school system is great. I'm surprised your summer vacation is so long. In Japan, we have only about 40 days off.



(3) 資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力について

問題6

【調査問題 問題6 内容A】

6 あなたのところに、近所に住んでいる友人のキム・メイソン (Kim Mason) さんから、次のようなお茶会 (tea party) への招待カードが届きました。しかし、その日は理由があって行けません。「あなたからの返事の手紙」を、(1)~(3)の [] にそれぞれ適切な英語を書いて完成させなさい。その際、() 内の指示にしたがうこと。なお、行けない理由は自分で考えること。

<キム・メイソンさんからの招待カード>


Please Come to My Tea Party

Date: Saturday, December 18, 2010

Time: 2:00 p.m.

Place: My House

Kim Mason



<あなたからの返事の手紙>

November 30, 2010

Dear Kim,

Thank you for inviting me to your tea party.

It sounds great, but (1) [] .
(行けないことを伝える。)

On that day, (2) [] .
(行けない理由を伝える。)

(3) [] next time.
(次回は行きたいというような内容を伝える。)

Thank you.

Your friend,
○○○

(注) ○○○にはあなたの名前が書いてあるものとします。

【調査問題 問題6 内容B】

6 あなたのところに、近所に住んでいる友人のキム・メイソン (Kim Mason) さんから、次のようなお茶会 (tea party) への招待カードが届きました。しかし、その日は理由があって行けません。「あなたからの返事の手紙」を、(1)~(3)の [] にそれぞれ適切な英語を書いて完成させなさい。なお、行けない理由は自分で考えてよい。

<キム・メイソンさんからの招待カード>


Please Come to My Tea Party

Date: Saturday, December 18, 2010

Time: 2:00 p.m.

Place: My House

Kim Mason



<あなたからの返事の手紙>

November 30, 2010

Dear Kim,

Thank you for inviting me to your tea party.

It sounds great, but (1) [] .

On that day, (2) [] .

(3) [] next time.

Thank you.

Your friend,
○○○

(注) ○○○にはあなたの名前が書いてあるものとします。

問題6は、資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書くことができるかを調査する問題である。内容Aでは書く内容について日本語の指示があるが、内容Bでは指示がない。

これは、現行の学習指導要領「書くこと」の言語活動(ウ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」及び(エ)「伝言や手紙などで読み手に自分の意向が正しく伝わるように書くこと」に関する内容である。(新学習指導要領「書くこと」の言語活動(イ)・(エ)・(オ)に相当する。)

(1)~(3)の各文から内容としての適切さや英語としての正確さを調査した上で、返事の手紙全体を通した内容の適切さを調査することとした。

○ 分析・考察

【課題となる事項】

① 与えられた資料・状況のみを基に（日本語の指示なし）内容を考えて書くことに課題がみられる。

内容Aの通過率は45.7%であり、内容Bの通過率は32.8%であった。また、内容Aで無解答の割合は16.4%であるのに対し、内容Bでの無解答の割合は25.4%であった。日本語の指示が生徒の思考を手助けする一因となり、無解答率が9.0ポイント下回ったと考えられる。

さらに、生徒質問紙3(11)「この問題に解答したときのあなたの状況に最も近いものは次のどれですか。」において、「何を書いたらよいか分かった」と回答した生徒の割合を内容A・Bで比較すると、(1)～(3)の全てにおいて内容Aが内容Bより高く、特に(2)・(3)においては、10ポイント以上の差がみられた。

【生徒質問紙3(11)において「何を書いたらよいか分かった」と回答した生徒の割合】

問題番号	前後の英語	日本語の指示	内容A (指示あり) 反応率(%)	内容B (指示なし) 反応率(%)	差
(1)	It sounds great, but	行けないことを伝える	81.8	74.0	7.8
(2)	On that day,	行けない理由を伝える	81.4	68.7	12.7
(3)	next time.	次回は行きたいという ような内容を伝える	75.8	57.4	18.4

※「何を書いたらよいか分かった」と回答した生徒:「何を書いたらよいか分かり、英文で書くことができた」又は「何を書いたらよいかは分かったが、単語が分からず書けなかった」又は「何を書いたらよいかは分かったが、文の組立て方が分からず書けなかった」と回答した生徒を示す

これらのことから、与えられた資料・状況に加えて日本語の指示を基に書くことに比べ、資料・状況のみを基に内容を考えて書くことに課題があると考えられる。

② 自分の意向を伝える内容は書けても、正しく伝わるように表現することが十分とはいえない。

内容A・Bの通過率は、それぞれ45.7%、32.8%であった。その中で、(1)の「行けない」(I can't come to the party.) に対して I don't go to your party. や、(3)の「次回は行きたい」(I'd like to see you next time.) に対して See you next time. のように意図が十分には伝わらない恐れがある表現がみられた。このように、自分の意向を伝える内容を書いているが、正しく伝わらない表現を含むものを準正答とした。その割合は内容A・Bでそれぞれ17.5%、16.0%であり、全体の約2割であった。

【問題6における通過状況】

通過解答の内容	内容A通過者の内訳 反応率(%)		内容B通過者の内訳 反応率(%)	
(1)～(3)全てについて、自分の意向を伝える内容を適切な表現で書いているもの	465人 (28.3%)	752人 (45.7%)	266人 (16.8%)	519人 (32.8%)
(1)～(3)において、自分の意向を伝える内容を書いているが、正しく伝わらない表現を含んでいるもの	287人 (17.5%)		253人 (16.0%)	

このことから、自分の意向を伝える内容は書けても、正しく伝わるように表現することが十分とはいえないと考えられる。

○ 分析結果からみた指導の改善事項

① 与えられた資料・状況の内容を理解し、自分の考えや気持ちを書かせる指導を工夫する。

内容Bにおいて、問題5-2の形式判断型(3)・(4)・(5)全てを通過している生徒のうち、本問を通過している生徒の割合は、82.5%であった。

【「形式判断型」問題を全問通過した生徒の問題6の通過状況】

内容B	問題6		合計
	通過した生徒	通過しなかった生徒	
問題5-2 (3)・(4)・(5) 通過した生徒	160人(82.5%)	34人(17.5%)	194人(100.0%)

このことから、資料・状況を基に自分の意向を伝える文章を書くためには、文章のながれを理解し適切な英語を考えて書くことが必要であると考えられる。

指導に当たっては、与えられた資料・状況の内容を理解し、自分の考えや気持ちを書かせる指導の工夫が大切である。具体的には、与えられた資料・状況に関連する語句を連想的に書き出すマッピングの手法を取り入れて生徒の思考の活性化を図り、もう一度与えられた資料・状況に戻ってアイディアの取捨選択を行わせた上で、自分の考えや気持ちを書かせるなどの活動が考えられる。

② 伝えるべき必要な情報を、伝える相手の立場や状況に応じた表現で書けるよう指導を工夫する。

自分の意向が正しく伝わるように書くためには、伝える相手の立場や状況を踏まえ、自分の意向を明確にした上で適切な表現を用いることが大切である。

指導に当たっては、言語の使用場面や言語の働きを明確にすると効果的である。例えば、「特有の表現がよく使われる場面」や「生徒の身近な暮らしにかかわる場面」を例に場面設定を行い、生徒の思考の活性化を図りながら、与えられた資料・状況を基に自分の考えや気持ちを書かせるといった指導の工夫が考えられる。また、「コミュニケーションを円滑にする」ように適切で正確な英語を書く指導を計画的・系統的に行う必要がある。

具体的には、ペアやグループで与えられた状況を基に書いたメモや手紙の交換を行い、読み取った内容やその内容についての印象を聞き合い、書かれた内容がどのように伝わっているのかを確かめるような活動が考えられる。

(4) 文と文のつながりに注意してまとまりのある文章を書く力について

問題4

【調査問題 問題4 内容A・B共通】

4 あなたは自分の友達のことを英語クラブで発表することになりました。その原稿を I have a friend. に続けて、4文以上のまとまった内容の英語でできるだけたくさん書きなさい。ただし、I have a friend. の文は1文として数えませ
ん。

問題4は、内容のつながりを考えてまとまりのある文章を書くことができるかを調査する問題である。内容A・Bは共通問題である。

これは、現行の学習指導要領「書くこと」の言語活動(ウ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」に関する内容である。(新学習指導要領「書くこと」の言語活動(イ)・(エ)・(オ)に相当する。)

また、現行の学習指導要領に沿って実施したH15調査の「第3学年 英語C 問題8」(トピック指定問題)と同一問題である。

【平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査との経年比較】

解答類型	反応率 (%)			
	H15 調査		本調査	
5文以上書いてあり、文章の内容のつながりがよいもの	19.9	34.9	29.2	48.0
4文書いてあり、文章の内容のつながりがよいもの	15.0		18.9	
4文以上書いてあるが、文章の内容のつながりが悪いもの	25.9		21.0	
3文以下の英文が書いてあるもの	13.2		10.7	
上記以外の解答(日本語・記号などが書いてあるもの)	0.5		0.2	
無解答	25.5		20.1	

○ 分析・考察

【十分に評価される事項】

① H15調査との比較では、4文以上書けた生徒の割合が増加し、無解答の割合が減少した。

本問の通過率は48.0%であった。本問は、H15調査と同一問題であり、当時の通過率が34.9%であったことから、本調査では通過率が13.1ポイント上回ったことが分かる。

H15調査では、4文以上書いた生徒の割合が60.8%、無解答率が25.5%であったのに対して、本調査ではそれぞれ69.1%、20.1%であり、文を多く書ける生徒の割合が増加し、無解答率が減少した。無解答率については、その高さがH15調査で課題となっていた。

② H15 調査との比較では、「内容のつながりが悪いもの」の割合が減少し、「内容のつながりがよいもの」の割合が増加した。

H15 調査では、「まとまった内容の文章を書くこと」が弱いと分析された。「まとまった内容の文章を書くこと」について、H15 調査同様の「内容のつながり」を観点に用いた。「内容のつながりがよいもの」とは、「①話題の一貫性があり、他の話題に脱線していないもの」「②同じ内容の文を、無用に繰り返していないもの」「③内容理解に支障を来たすような、語順・時制等の誤りがないもの」の全てに当てはまる場合である。

H15 調査との比較では、「4 文以上で書いてあり、内容のつながりがよいもの」の割合が 13.1 ポイント増加し、「4 文以上書いているが、内容のつながりが悪いもの」の割合が 4.9 ポイント減少している。このことから、「まとまった内容の文章を書くこと」が改善されてきていると考えられる。

なお、H15 調査では、例えば生徒の解答として「I like banana. I like cat. I like dog.」のように文の一部を変えただけの話題に発展性のない英文の羅列が目立つことが課題として挙げられていた。

【課題となる事項】

主な誤答である「内容のつながりが悪いもの」には、文構造等の誤りを含むものが多い。

本調査において、前述のように「内容のつながりがよいもの」の割合が増加したが、「4 文以上書いているが、内容のつながりが悪いもの」の割合は 21.0%であり、誤答の中で最も高い値を示した。

H15 調査の「内容のつながりが悪いもの」は、「①話題の一貫性がなく、他の話題に脱線しているもの」「②同じ内容の文を、無用に繰り返しているもの」「③内容理解に支障を来たすような、語順・時制等の誤りがあるもの」の少なくとも一つ以上に当てはまる場合であった。本調査では、誤答の分析をより細かく行うため、「内容のつながりが悪いもの」を「文章としての適切さを欠くもの」(上記①・②の場合)と「文構造等の誤りがみられるもの」(上記③の場合)に分けた。その結果、「4 文以上書いているが、内容のつながりが悪いもの」のうち、「文構造等の誤りがみられるもの」の割合は、約 6 割であることが分かった。

このことから、「内容のつながりが悪いもの」には、文構造等の誤りを含むものが多いことが分かった。

【問題4の「4文以上書いているが、内容のつながりが悪いもの」の解答状況】

	問題4「4文以上書いているが、内容のつながりが悪いもの」		合計
	文構造等の誤りあり	文構造等の誤りなし	
人数（割合）	429 人 (63.5%)	247 人 (36.5%)	676 人 (100.0%)

○ 分析結果からみた指導の改善事項

文構造等の理解の体系化を図り、適切な表現を用いて文をつくる力を育成するための指導を工夫する。

文構造を理解して文をつくる力を育成するためには、語順に注意して文を書いたりする活動を行うことが重要である。指導に当たっては、文構造の学習は分析のためではなく、あくまでもコミュニケーションを行うための基礎的な力として必要であるという認識を持って臨むことが重要である。

具体的には、同一の文構造を繰り返して学習したり、時制や修飾といった文法は個別事項の学習後にまとめて取り扱ったりすることによって理解の体系化を図り、適切な表現を選択する活動を取り入れることなどが考えられる。必要に応じて、日本語との比較により、英語の文構造の理解を促す活動も考えられる。

また、生徒質問紙3(5)「この問題の英文を書くとき、どんなことを最も意識して書こうとしましたか。」において、「できるだけたくさんの英文を書くこと」や「正しい英文を書くこと」と回答した生徒のうち、本問を通過した生徒は、それぞれ51.4%、59.7%であった。一方、「特に意識したことはない」と回答した生徒のうち、本問を通過した生徒は26.8%であり、20ポイント以上の差がみられた。このことから、英語で文章を書く際には、「できるだけ多く書くこと」や「正しく書くこと」を生徒に意識させることも大切であると考えられる。

【生徒質問紙3(5)におけるそれぞれの選択肢を回答した生徒の問題4の通過率】

	選択内容		
生徒質問紙3(5)	できるだけたくさんの英文を書くこと	正しい英文を書くこと	特に意識したことはない
通過率(%)	51.4	59.7	26.8

(5) 自分の考えを明確にし、文と文のつながりを工夫して文章を書く力について

問題7

【調査問題 問題7 内容A】

7 日本を訪れるとしたら夏と冬のどちらがよいかを、イギリスの友人にメールで尋ねられました。あなたならどちらの季節を勧めますか。解答用紙にある英文 I think (summer / winter) is better. の () 内のどちらかの季節を○で囲み、そのあとに続けて、あなたの考えを3文以上のまとまった内容の英語でできるだけたくさん書きなさい。ただし、I think (summer / winter) is better. の文は1文として数えません。

【調査問題 問題7 内容B】

7 日本を訪れるとしたら夏と冬のどちらがよいかを、イギリスの友人にメールで尋ねられました。あなたならどちらの季節を勧めますか。解答用紙にある英文 I think (summer / winter) is better. の () 内のどちらかの季節を○で囲み、そのあとに続けて、あなたの考えを3文以上のまとまった内容の英語でできるだけたくさん書きなさい。ただし、I think (summer / winter) is better. の文は1文として数えません。なお、必要があれば下の□の中

camp (キャンプ/キャンプをする)	swim (泳ぐ)
ski (スキー/スキーをする)	
skate (スケート/スケートをする)	
fish (魚/魚釣りをする)	enjoy (楽しむ) eat (食べる)
tree (木)	flower (花) snow (雪)
sea (海)	beach (砂浜) mountain (山)
food (食べ物)	
cold (寒い)	hot (暑い)
fireworks (花火)	festival (祭り)
rice cake (もち)	shrine (神社) temple (寺)
the U.K. (イギリス)	Japan (日本)

問題7は、自分の考えを明確にし、文と文のつながりを工夫して文章を書くことができるかを調査する問題である。内容Bでは語彙リストを示すが、内容Aでは語彙リストを示さない。

これは、現行の学習指導要領「書くこと」の言語活動(ウ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」に関する内容である。(新学習指導要領「書くこと」の言語活動(イ)・(エ)・(オ)に相当する。)

○ 分析・考察

【十分に評価される事項】

自分の考えを3文以上の文章で書けた生徒は、約7割であった。

イギリスの友人に日本訪問の季節として夏又は冬のどちらの季節を勧めるか3文以上で書くという内容で、自分の考えを明確にし、つながりがよい文章を書くことができた生徒の割合は、内容A(語彙リストなし)では38.2%、内容B(語彙リストあり)では40.7%であった。

また、通過、非通過を問わず、「夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについて3文以上書けたもの」の割合は、内容Aで68.9%、内容Bで73.5%であり、指定された数以上の文を書いた生徒の割合が全体で約7割いたことになる。なお、内容Bにおいて4.6ポイント上回ったことについては、語彙リストを示したことが文章作成の一助になったのではないかと考えられる。

無解答率は内容Aで14.5%、内容Bで13.5%であり、問題4の無解答率20.1%と比較すると、それぞれ5.6ポイント、6.6ポイント下回った。

【課題となる事項】

① because や if などの従属接続詞を用いた文の構造等に課題がみられる。

誤答の中で「3文以上で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについて自分の考え、あるいはそれと思われる文を書いているが、文構造等の誤りが認められるもの」の割合は、内容A・Bでそれぞれ24.3%、27.3%であり、誤答の中で最も割合が高かった。また、問題

4における「4文以上書いているが、文構造等の誤りがみられるもの」の割合と比べると、10ポイント以上上回っていた。この原因の一つとして、根拠を明確にすることが、生徒に長い1文を作らせ、文構造等の誤りを生じさせたと考えられる。

問題4と使用単語頻度を比べると、本問は接続詞の種類が多く、特にbecauseの使用頻度が目立つことから、本問は単文だけではなく、複文

などの文も使って表現する傾向があったことが考えられる。ifの使用頻度は、それぞれ0.38%、0.34%であり、こちらも問題4と比べて高かった。

さらに、内容Bの「3文以上で文構造等の誤りが認められた」の生徒の問題2-1（前後の節のつながりに注意し、適切な接続詞を用いる）における解答状況では、because, ifをともに正しく用いることのできなかつた生徒の割合が最も高かった（内容Aは、問題2-1で選択肢を示していたため、除外して考えた）。

以上のことから、becauseやifなどの従属接続詞を用いた文において、正しい文の構造で書くことに課題があると考えられる。

【「トピック指定問題」の使用単語頻度 TOP20】

	問題4 内容A・B共通問題		問題7内容A 単語リストなし		問題7内容B 単語リストあり	
	語彙(使用頻度(%))		語彙(使用頻度(%))		語彙(使用頻度(%))	
1	is	6.25	is	6.23	is	5.74
2	I	4.68	I	5.02	I	5.19
3	friend	4.08	very	4.44	summer	4.14
4	very	4.06	summer	4.22	very	4.00
5	he	3.54	in	3.09	in	3.38
6	she	3.46	winter	2.88	can	2.98
7	my	3.31	you	2.58	and	2.69
8	to	2.21	can	2.57	like	2.53
9	a	1.76	like	2.53	the	2.42
10	like	1.63	to	2.25	you	2.31
11	and	1.37	because	2.18	to	2.19
12	play	1.32	and	2.14	sea	2.06
13	me	1.28	the	1.84	enjoy	2.03
14	the	1.18	it	1.75	winter	1.91
15	with	1.13	sea	1.70	festival	1.81
16	her	1.08	we	1.37	because	1.71
17	friends	1.05	hot	1.25	fireworks	1.66
18	likes	0.89	a	1.18	It	1.49
19	name	0.87	but	1.18	We	1.49
20	so	0.83	beautiful	1.03	swim	1.41

※使用頻度(%):総語数における使用回数を割合で示したもの

【問題7と問題2-1の解答状況】

内容B(選択肢なし)			問題7「3文以上で文構造等の誤りが認められた」生徒 人数(割合(%))
問題2-1解答状況			
(1) and	(2) because	(3) if	
○	○	○	74(4.7)
○	○	×	95(6.0)
○	×	○	34(2.2)
×	○	○	3(0.2)
○	×	×	116(7.3)
×	○	×	8(0.5)
×	×	○	4(0.3)
×	×	×	98(6.2)
合計			432(27.3)

※「○」:通過,「×」:非通過

② 文と文のつながりを工夫して展開することが十分とはいえない。

「文と文のつながりを工夫して展開している」とは、その季節を勧める理由の羅列ではなく、接続詞や副詞、つなぎ言葉を効果的に使い、文と文の順序や相互の關係に注意を払って書いているものとした。これに対し、「文と文のつながりを工夫して展開しているとはいえない」とは、具体的な文章の展開において、深めたりまとめたりして展開している箇所がみられないものとした。

本問の内容A・Bの通過率は、それぞれ38.2%、40.7%であり、このうち「3文以上で書いているが、文と文のつながりを工夫して展開しているとはいえないもの」の割合は、内容A・Bでそれぞれ65.1%、68.3%であった。

【問題7】における通過状況

通過解答の内容	内容A通過者の内訳 反応率(%)		内容B通過者の内訳 反応率(%)	
	人数	反応率(%)	人数	反応率(%)
3文以上、文と文のつながりを工夫して展開している	219人 (34.9%)	628人 (100%)	204人 (31.7%)	644人 (100%)
3文以上、文と文のつながりを工夫して展開していない	409人 (65.1%)	38.2% (通過率)	440人 (68.3%)	40.7% (通過率)

このことから、内容のつながりがよい文章を書くことができる生徒でも、つなぎ言葉などを適切に用いて文と文の関連に注意を払ったり、前文の内容を更に深めたりするなど、文と文のつながりを工夫して展開することが十分とはいえないと考えられる。

○ 分析結果からみた指導の改善事項

① まとまりのある文章を書かせる活動において、必要な語彙を自発的に使用できるよう活用させるよう指導を工夫する。

語彙リストの有無によって、使用頻度に違いがみられなかった語彙は、生徒にとって自発的に使用できる語彙（発表語彙）となっていると考えられる（food, eat など）。一方、内容Bにおいてのみ使用頻度が高い語彙については、多くの生徒にとって発表語彙として十分に定着しているといえないと考えられる（camp, shrine など）。

【参考語彙の使用頻度(100,000語中)】

語彙	A	B
	リストなし	リストあり
food	390	395
eat	682	658
camp	3	548
shrine	7	166

幅広い言語活動ができるようになるためには、語彙の充実を図るとともに、その語彙を自発的に使用できるまで高める指導の工夫が必要である。具体的には、まとまりのある文章を書かせる活動の中で、目的に応じて必要な語彙を示し、その語彙を意識的に活用させながら定着を図るなどの工夫が考えられる。

② まとまりのある文章を書くことにおいて、正しい文構造で文を書く力を育成する指導が大切である。

自分の意見を、文と文のつながりが良く、まとまりのある文章で表現することにおいては、問題4と同様に正しい文構造で文を書く力を育成することが大切である。

そのためには、何よりも実際に「書く」ことである。そのことが、文構造の理解と

定着につながる。その際のポイントは、必ず2文、そして徐々にそれ以上の文を書くように段階を上げていくことが考えられる。1文1文を正しく書くだけでなく、文と文の順序や相互の関係にも注意を払い、全体として内容に一貫性のある文章を書かせるようにすることが大切である。その対応として、一貫性があるかどうかを再考させるなどのフィードバックを施す必要があると考えられる。さらに、それを書き直させることで学習効果が上がると期待される。これらの活動を英文日記のように日常的な活動として位置付け、必要に応じて辞書を活用させながら継続的に行うようにしたい。

また、重文や複文などは、SVCやSVOなどの基本的な文構造との比較から、主語(部)・述語(部)の関係を明確にして、文の構造の理解を深めることが考えられる。例えば、「読むこと」では、複雑だと思われる文を節や句で区切り、主語(部)・述語(部)を意識しながら、全体を理解させ、「書くこと」では、与えられたいくつかの文を、文脈のながれから適切な副詞や接続詞を考え、2文を1文にさせるなどの活動が考えられる。

③ 文と文のつながりを工夫し、まとまりのある文章を書く力を育成する指導が求められる。

実際に英語で書く場合、文構造の正しい文を書く指導と並行して、文と文のつながりを工夫して、まとまりのある文章を書けるように指導することは重要である。

指導に当たっては、どのように文と文をつなぐとよいかを、普段の学習の中で焦点化して考えさせる活動を行うことが考えられる。

指導の初期段階では、文章において、代名詞の使用や言い換えなどの手法によって語や文がどのように関係し合い、構成されているかを考えながら読ませ、関係性を図示させるような活動が考えられる。また、文章中の接続詞や副詞などを空欄にして、どのような語句を入れれば前後がつながるかを考えさせたり、逆に、接続詞や副詞の後の部分を空欄にして、どのような英語がくればつながるかを考えさせたりするなどの活動が考えられる。注意して読むことによって得られた知識を使い、正しい文構造で文を作り、つながりに注意してまとまりのある文章を書く練習を繰り返し行うことが大切である。

文章を書くことに慣れてきたら、①与えられたトピックについて関連した語句を連想的に書き出すマッピングにより書く内容のアイデアを生み出す、②それらを与えられたトピックに合致するよう選択してグループ化する、③テーマに沿った英語の語彙・表現を *useful expressions* などとして提示し、日本語で出てきたアイデアを英語に表現しやすくする、④代名詞や別の単語で言い換えたり、つなぎ言葉を使ったりして、結束性を高める工夫をする、⑤情報の配列を考えて内容に一貫性をもたせるようにする、⑥読み手を意識し、内容が伝わるように配慮する、といったステップを踏むことが考えられる。

このような指導の他に、日常の様々な話題について興味・関心をもたせ、その話題を英語ではどう表現するかを普段から考える姿勢を育成することが大切である。

授業実践アイデア例

～文と文のつながりを工夫し、まとまりのある文章を書かせる指導～

『絵から物語を作ろう』

登場人物：Taro, Maki, Yuri, Mary(dog)

○概要

Pre-writing (事前指導)

- ・ 役立つ語彙の提示
- ・ 接続詞の復習

Step 1～5 (原稿作成)

Post-writing (事後指導)

- ・ 生徒の作品回収
- ・ 掲示及び生徒同士の話し合い
- ・ 生徒へのフィードバック (コメントなど)



○Step 1～5

Step 1 第1原稿作成「与えられた視点についてできるだけたくさんの文を作る」(グループ活動)

※3～4人のグループを作り、グループリーダーを中心にブレインストーミングを行う。
※以下のような視点を与え、絵から考えられること(単語でも文でも)を自由に出し合う。

A：天候

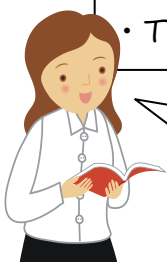
- ・ The sun is shining. ・ It is a fine day. ・ It is very hot.
- ・ The sky is blue. ・ It is a summer day.

B：風景(周囲の様子)

- ・ There are a lot of fish in the river. ・ Yellow flowers are open.
- ・ There are beautiful mountains. ・ A white bird is flying.

C：人物等の様子(中心話題)

- ・ Maki and Yuri are laughing. ・ Taro is fishing. ・ Taro is camping.
- ・ Taro caught a glass and a toothbrush. ・ Mary is disappointed.



Step1～Step4では、誤りについて気にしないで取り組みましょう。
消しゴムを使わないで書いたプロセスを残すようにしましょう。
分からない単語などについては、先生に聞いたり、辞書を活用したり
しましょう。

Step 2 第2原稿作成「書きたい文章の内容を整理する」(グループ活動)

※第1原稿から必要な情報を取捨選択し、文章として書くための順序を考える。

- ① It is very hot.
② It is a summer day.
③ The sun is shining. ~~It is a fine day.~~
~~The sky is blue.~~
- ① There are beautiful mountains. ~~A white bird is flying.~~
② Yellow flowers are open.
③ There are a lot of fish in the river.
- ① Taro is camping.
② Taro is fishing.
③ Taro caught a glass and a toothbrush.
④ Mary is disappointed.
⑤ Maki and Yuri are laughing.

Step 3 第3原稿作成「各文をまとめて物語を作る」(グループ活動)

※「代名詞」を活用し「時制」に注意するなど工夫して文章にまとめる。

- ① It is a hot summer day. The sun is shining.
was was
- ② There are beautiful mountains. Yellow flowers are open. There are a lot of fish in the river.
were were were
- ③ Taro is camping. He was fishing. He caught a glass and a toothbrush. Mary is disappointed. Maki and Yuri are laughing. laughed
was

Step 4 第4原稿作成「自分の考えを付け加えて書く」(個人活動)

※この先物語がどう展開するかなど、個人の思いや考えを書き加える。

※接続詞を使って、文と文のつながりを工夫する。

It was a hot summer day. The sun was shining. There were beautiful mountains, and yellow flowers (Nikko Kisuge) were open. There were many other flowers.

Taro was camping in this beautiful place. He was fishing because there were a lot of fish in the river. But he couldn't fish well. When he caught a glass and a toothbrush, his dog Mary was disappointed. Maki and Yuri laughed and said, "Congratulations! You got a glass and a toothbrush for tomorrow morning." Then he laughed, too.

Step 5 第4原稿修正「つづりや文の構造等の誤りを直す」(個人活動)

※生徒自身が誤りを発見したり、教師が誤りに気付かせたりする。

2 コーパス分析から見た英作文の特徴

問題4, 7の英作文の解答をコーパス（電子化したファイル）化し、主に語彙や語彙連鎖の頻度等を中心に分析し、「書くこと」における生徒の英作文の特徴を、問題の設定方法も考慮しながら検討した。

(1) 使用された語彙に関する統計から

問題4は内容A・Bが同一問題のため、両方の解答を合わせて集計した。「総語数」(tokens)は使用された延べ数を、「異なり語数」(types)は使用された語彙の種類を表している。「標準化した TTR」(standardized type/token ratio)とは、語彙のバリエーションを示す指数で、ここでは100語ごとに使用語彙を区切ってTTRを算出した数値を示した。一般的に、数値の高いほうがより多くの種類の語彙を使用していることを示している。

【解答で用いられた語彙に関する統計】

	問題4 (AB)	問題7 (A)	問題7 (B)
参加生徒数	3,225	1,644	1,581
総語数	73,866	29,766	30,110
生徒一人の平均使用語数	22.90	18.11	19.04
異なり語数	3,466	1,778	1,312
標準化した TTR	26.37	22.70	19.33
一文の平均語彙数	6.02	6.26	6.41

出題方法によって語彙の豊富さに違いがある。

記述内容の大枠のみ決まっている問題のほうが、記述内容や方法に制約が多い問題よりも豊富な種類の語彙を使用していた。後者の問題では、的確な語彙使用が求められ、生徒にとっては難しい課題と考えられる。

この結果は、生徒からどのような英語を引き出したいかに合わせて問題形式や指示を変えていく必要があることも示唆している。例えば、指導した特定の語彙や文構造の定着が目的であれば、参考となる語彙や文構造のヒントや枠組みを与えるが、総合的な書く力の育成や定着が目的であれば、内容や使用語彙・文構造の自由度をより広げて書かせることなどが考えられる。

【標準化された TTR の比較】

問題	標準化された TTR	問題の特徴
問題4	26.37	書く内容の大枠のみが決まっている
問題7 内容A	22.70	書く内容の枠や論旨が決まっている
問題7 内容B	19.33	書く内容の枠や論旨が決まっている +語彙リストあり

(2) 問題別使用語彙リストの比較から

書く内容によって使用する語彙の制限を受けることが多い名詞[例:friend, summer, sea]を除いては、どのようなトピックや出題方法でも、使用頻度の高い語彙はある程度限定されていた。

【使用単語頻度 TOP20】

	問題4 内容A・B同一問題		問題7内容A 単語リストなし		問題7内容B 単語リストあり	
	単語	語彙(使用頻度(%))	単語	語彙(使用頻度(%))	単語	語彙(使用頻度(%))
1	is	(6.25)	is	(6.23)	is	(5.74)
2	I	(4.68)	I	(5.02)	I	(5.19)
3	friend	(4.08)	very	(4.44)	summer	(4.14)
4	very	(4.06)	summer	(4.22)	very	(4.00)
5	he	(3.54)	in	(3.09)	in	(3.38)
6	she	(3.46)	winter	(2.88)	can	(2.98)
7	my	(3.31)	you	(2.58)	and	(2.69)
8	to	(2.21)	can	(2.57)	like	(2.53)
9	a	(1.76)	like	(2.53)	the	(2.42)
10	like	(1.63)	to	(2.25)	you	(2.31)
11	and	(1.37)	because	(2.18)	to	(2.19)
12	play	(1.32)	and	(2.14)	sea	(2.06)
13	me	(1.28)	the	(1.84)	enjoy	(2.03)
14	the	(1.18)	it	(1.75)	winter	(1.91)
15	with	(1.13)	sea	(1.70)	festival	(1.81)
16	her	(1.08)	we	(1.37)	because	(1.71)
17	friends	(1.05)	hot	(1.25)	fireworks	(1.66)
18	likes	(0.89)	a	(1.18)	it	(1.49)
19	name	(0.87)	but	(1.18)	we	(1.49)
20	so	(0.83)	beautiful	(1.03)	swim	(1.41)

使用頻度(%):総語数における使用回数を割合で示したもの

① 代名詞 I の使用が非常に頻繁である。

I の使用が上位を占めたが、初級の日本人英語学習者コーパスの特徴の一つとしてよく指摘される点である。これは、比較的早い時期に I を学習し、自分を中心に表現することから始め、その後も繰り返し使用する機会が多いことが理由と考えられる。

英語母語話者の場合は、例えば、British National Corpus (BNC: イギリス英語の話し言葉と書き言葉 1 億語をコーパス化したもの) では、the, of, and, a, in などの頻度が高い。

② 動詞の使用で頻繁なのは、is, like である。

BNC で動詞だけを拾うと、is が 7 位、was が 9 位、are が 22 位、had が 23 位と続き、39 位には been が入っている。生徒の作文でも is は同様に上位であるが、like の使用が目立っている。BNC では like は 339 位である。また、BNC では動詞の過去形が上位に入っていることを考えると、例えば、問題4では、I have a friend. Her name is Keiko. We always study together. Yesterday we studied English at the library. のように、時制の幅を広げた文章でより豊かな表現ができるようにしたい。

③ 助動詞 can が上位にある。

can の使用頻度が高かった。can とほぼ同時に will も指導することを考えると、will を使って、未来のことや推測、依頼・勧誘などを英語で書かせる機会をもつことが必要であろう。BNC では、will が 42 位、can が 47 位である。

④ 文をつなげる接続詞を使用している。

問題④では and と so が、問題⑦では and, but, because が「使用単語頻度 TOP20」に入っていた。つながりのある文章を書くための方策の一つである接続詞の使用は、これらの基本的なものであれば、ある程度できていると考えられる。

⑤ 文字数が比較的少ない単語の使用頻度が高い。

上位 20 位に入っている語彙の多くが 2～4 文字の単語である。文字数の多い語彙には、スペルの誤りも多い。例えば、問題⑦内容 A では、because は 650 回も正確に使用されているが、becouse (38 回)、becase (10 回)、becuse (6 回)、becose (5 回)、becaus (4 回)、becous (3 回)、bcause (2 回)、bacaue (1 回)、becese (1 回) の誤用があり、約 1 割のつづりが不正確であった。聞いたり、話したりする場合にはコミュニケーションが可能でも、書く場合には読み手が判読に苦勞することがあるため、書くことの基本となる正確なつづりへの配慮が重要である。

⑥ 参考となる語彙を与えても、使用できる語彙と使用できない語彙がある。

問題⑦において、語彙のリストなし(内容 A)と、リストあり(内容 B)の該当語彙の使用頻度を比較した。ここでは参考語彙の形をそのまま使用した場合のみを比較している。内容 A と内容 B では、解答した生徒数が違うため、右表には 100,000 語中に使用した回数を示した。

内容 B では参考語彙の使用は、100,000 語中の 17,515 語であるが、内容 A では 9,558 語であった。内

内容 B が内容 A の 2 倍以上の使用があった語彙は、beach, camp, enjoy, festival, fish, fireworks, mountain, rice cake, shrine, skate, ski, temple, the U.K. であった。これらの多くは、語彙リストがあったため使用できたと考えられる。受容語彙(receptive vocabulary)とはなっているが、自発的に使用できる発表語彙(productive vocabulary)にはなっていない可能性が高い。内容 A・B 間の使用回数にほとんど差がなかった語彙や、内容 A の方の使用回数が多かった eat, tree, snow, cold, food, Japan などの語彙は、発表語彙としてかなり定着していると考えられる。

【問題⑦における参考語彙の使用回数(100,000 語中)】

語彙	A	B	語彙	A	B
camp	3	548	mountain	81	332
swim	934	1411	food	390	395
ski	329	807	cold	870	933
skate	10	342	hot	1,253	1,232
fish	104	359	fireworks	118	1,661
enjoy	595	2,033	festival	517	1,810
eat	682	658	rice cake	10	392
tree	30	33	shrine	7	166
flower	44	56	temple	20	63
snow	716	787	the U.K.	13	43
sea	1,703	2,039	Japan	1,005	1,103
beach	124	312	計	9,558	17,515

(3) 単語連鎖の比較から

単語と単語をどのように組み合わせて使用していたかを調べるために、単語連鎖について分析を行った。問題4・7について、単語の N-gram 統計をとって検討した。N-gram 統計とは、単語の連鎖に関する頻度統計で、2語、3語、4語、5語などの連鎖の出現をみることである。どのようなフレーズや文構造がコロケーション（よく使われる組合せ）として定着しているのかを観察することができる。単語の組合せの中で、主に2桁以上の頻度を示したもののなかから、注目したいコロケーションを抽出した。

2～5語の連鎖として用いられたフレーズとなっているコロケーションと文構造を示すコロケーションを以下にまとめた。各欄の数字は、出現回数を表し、誤用もそのままの形で示した。

① フレーズとなっているコロケーションから

動詞を中心としたフレーズでは、主語の I に続けて like, have, want, love, enjoy 等の動詞の使用が多く、これらはかなり定着していると考えられる。動詞の play に続けてよく用いられるスポーツは soccer, tennis, baseball であった。一方、スポーツをすることを表すのに play を過剰使用する例 (play ski など) も見られた。過剰使用は外国語を習得する際に通過するプロセスの一つで、生徒自身がある英語のルールを内在化して、

そのルールに従って新しい表現を創り出している証拠である。このような例が見られた時には、例えば、play できるスポーツにはどんなものがあるかをリストにしたり、どうして play できるスポーツとそうでないスポーツがあるのかを考えてみたりすると良い。不定詞の使用を示唆するような want to, like to の出現や動詞の前に助動詞 can を加えた表現がよく用いられていることも注目できる。

前置詞を用いたフレーズには、good at, talk with がある。英

【フレーズとなっているコロケーション】

	問題4		問題7			
			内容 A (リストなし)	内容 B (リストあり)		
2語	I like	717	I like	552	I like	568
	she likes	268	I think	217	I think	224
	he likes	255	I love	39	I enjoy(ed)	55
	I have	347			I love	26
	I want	244				
	I think	223				
	I love	209				
	play(s) soccer	209	play ski	19	play ski	53
	play(s) tennis	183	play baseball	15	play swim	19
	play(s) baseball	166			play skate	12
play(s) basketball	91					
good at	102					
go to	172	go to	199	go to	208	
talk with	133			come to	56	
in Tokyo	20	in summer	146	in Japan	108	
in Japan	20	in winter	129			
		in Japan	103			
		think that	26	think that	17	
3語	I want to	217	I want to	63	I want to	54
					I like to	41
			I think that	24	I think that	15
			so I like	24	so I like	35
	he can play	53	you can see	31	you can see	29
		we can swim	31	we can enjoy	31	
play the piano	96					

語学習の早い時期から繰り返し使用された結果ではないかと考えられる。加えて、**come** や **go** と共に用いる方向を示す **to** や場所や時を表す **in** が、フレーズの構成要素として用いられている。

その他のフレーズである **so I like** の出現は、文と文をつなぐ結果・結論を表す接続詞の使用として注目される。

② 文構造を示すコロケーションから

be 動詞を用いた文はかなり定着していると考えられる。基本の **SVC** に副詞を加え **she is very kind** を使うこともできている。さらにこれが **my friend is very kind** や **she is my best friend** へと展開されている。また、代名詞 **it** を主語とした **it is (very)+** 形容詞の構造や代名詞以外の名詞を主語として **summer is ~** のような構造も出現している。

限られた種類の動詞ではあるが、**SVO** の構文の頻度が高い。例えば、**I like her** に副詞句を加えて **I like her very much** への展開も見られる。また、特に **I** を主語とした **SVO** の否定文の使用も見られた。

その他として、**she is the tallest in** や **summer is better than winter** などの比較表現や **there is** 構造も使っていることが分かる。

【文構造を示すコロケーション】

	問題4		問題7			
			内容A (リストなし)	内容B (リストあり)		
2語	there is	13	there are	63	there is	25
3語	I like her	129	I like winter	67	I like summer	84
			I like swimming	35	I like winter	30
					I like swimming	30
	I like to play	15			I like snow	45
	I want to play	20			I like festival	24
4語	she is very kind	127	summer is very hot	95	summer is very hot	95
			winter is very cold	53	winter is very cold	53
					summer is very interesting	15
					fireworks is very beautiful	18
			I don't like cold	28	I don't like cold	36
			I don't like winter	20	I don't like winter	21
		I don't like summer	15			
	it is very interesting	12	it is very interesting	22	it is very interesting	16
			it is very beautiful	23	it is very beautiful	34
			it is very fun	19	it is very fun	16
5語	I like her very much	73	I like winter very much	32	I like summer very much	9
	I like him very much	25				
	my friend is very kind	78				
	my friend is very interesting	77				
	she is my best friend	47				
	he is my best friend	27				
she is the tallest in	12	summer is better than winter	11	summer is better than winter	9	
(she is taller than)	12			summer is hotter than winter	8	

(4) まとめ

作文のコーパス分析により、生徒の語彙・フレーズ・構造の使用の特徴を概観した。学習指導要領が「書くこと」に関して目標としている「コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力」，「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力」をどのように伸ばし，定着させていけば良いのかを考察してみたい。

① コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力について

語彙については，早い時期に学習し，繰り返し使用するものの定着度が高いといえる。また，good at のように，慣用句としてチャンク（かたまり）で学習した語句もよく活用されている。

文構造については，SVC，SVO，there is 等は，基本的な型に修飾語を加えたり，目的を不定詞や文に展開したりして書く工夫をしていることが分かった。しかし，SVOO，SVOC 等のより複雑な文構造の出現率は低い。限られた語彙や文構造のみを使った表現で英文を書くのではなく，英語で何かを伝えたいという気持ちを大切にしてい，知っている語彙や文構造を基に，辞書を活用して新しい語彙やフレーズを加えたり，ほかの表現から類推したりして，より豊かな表現を工夫させたい。

② 内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力について

語と語のつながりの点では，SVC，SVO の語順や，名詞・動詞を中心としたフレーズ，前置詞の使用等もある程度基本的な部分は定着していると考えられる。また，文と文のつながりに関しても，基本的な接続詞の使用も行われていた。しかし，より複雑な文構造を使って叙述したり，自分の考えや意見を書いたりするためには，ある一文のみを引き出して文法的な正確さに重点を置いて英語を書くだけでなく，内容的にまとまりがあり，文と文のつながりが良く，読み手に理解できる文章を書く機会を増やすことが必要であろう。

指示内容によって，引き出される生徒の英文に違いがあることを考慮すれば，「書くこと」を行う際には，活動目的に沿った指示をすることが重要である。また，さまざまな目的をもったバラエティーに富んだ「書くこと」の活動を「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」と組み合わせて行うことへの配慮も重要であろう。

3 学校質問紙から分かる指導の傾向と課題

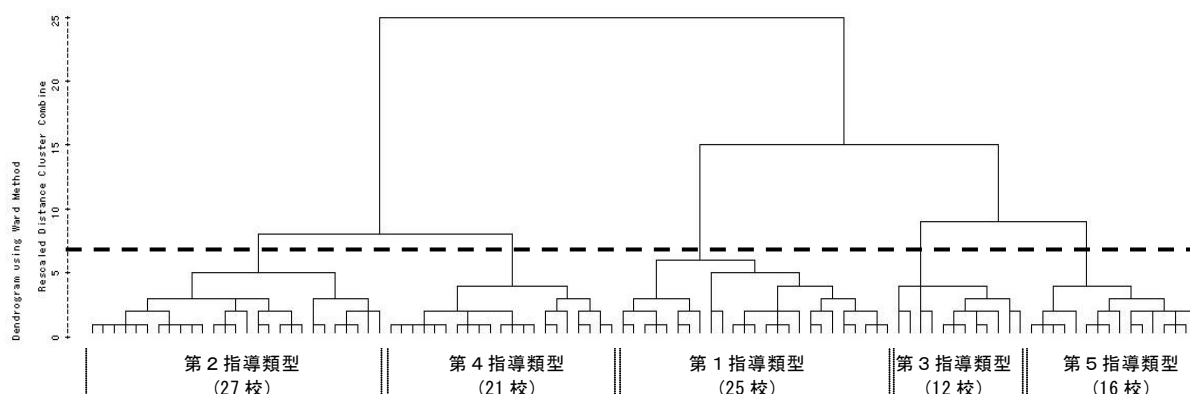
実際の指導の場面でいつどのように指導事項を扱うかは、学習集団の特性や教師集団の特徴などの様々な要因が関係している。そのことから、指導を見直し改善を検討するには、指導法、指導時間、教材等の多角的な視点から検討することが必要である。

そこで、学校質問紙調査の結果を基にして、調査実施学校において実際に行われている指導の様子を類型化し、得られた指導類型別に分析することとした。学校質問紙調査の問題1では、23の項目について、どのくらいの頻度でそのような指導を行っているかを「1 よくしている」「2 どちらかといえばしている」「3 どちらかといえばしていない」「4 していない」で尋ねた。

類型化には、階層的クラスター分析（平方ユークリッド距離を用いたウォード法）を用いた。クラスター分析には様々な方法があるが、比較的広く用いられる階層的クラスター分析を選択した。また、比較的まとまったクラスターが得られるとされるウォード法を使用した。

全101校の回答を似ているものから順に結合することで得られたデンドログラム（樹状図）を検討し、点線部をカッティング・ポイントとして5つの指導類型に分類した。デンドログラムにおいては、類似している学校ほど下部で結合しており、類似していないものほど上部で結合している。例えば、図の左端の学校（第2指導類型）から5つ右までの計6校の指導は傾向が極めて類似しており、図の右端に位置する第5指導類型に分類された学校とはかなり異なる指導をしていると解釈できる。

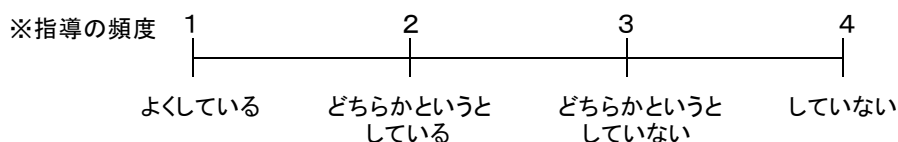
【階層的クラスター分析による指導の類型化(デンドログラム)】



この5つの指導類型に基づき、学校質問紙の選択肢番号を点数化し、各項目について指導類型ごとの平均値を求めた。各指導類型の平均値については、便宜上0.3の差を目安として、全体の平均との違いに着目した。数値が低いほど、その指導が頻繁に行われていることを示している。各指導類型において、全体の平均よりも積極的にその指導が行われていると考えられるものを青で示し、消極的と考えられるものを黄で示した。

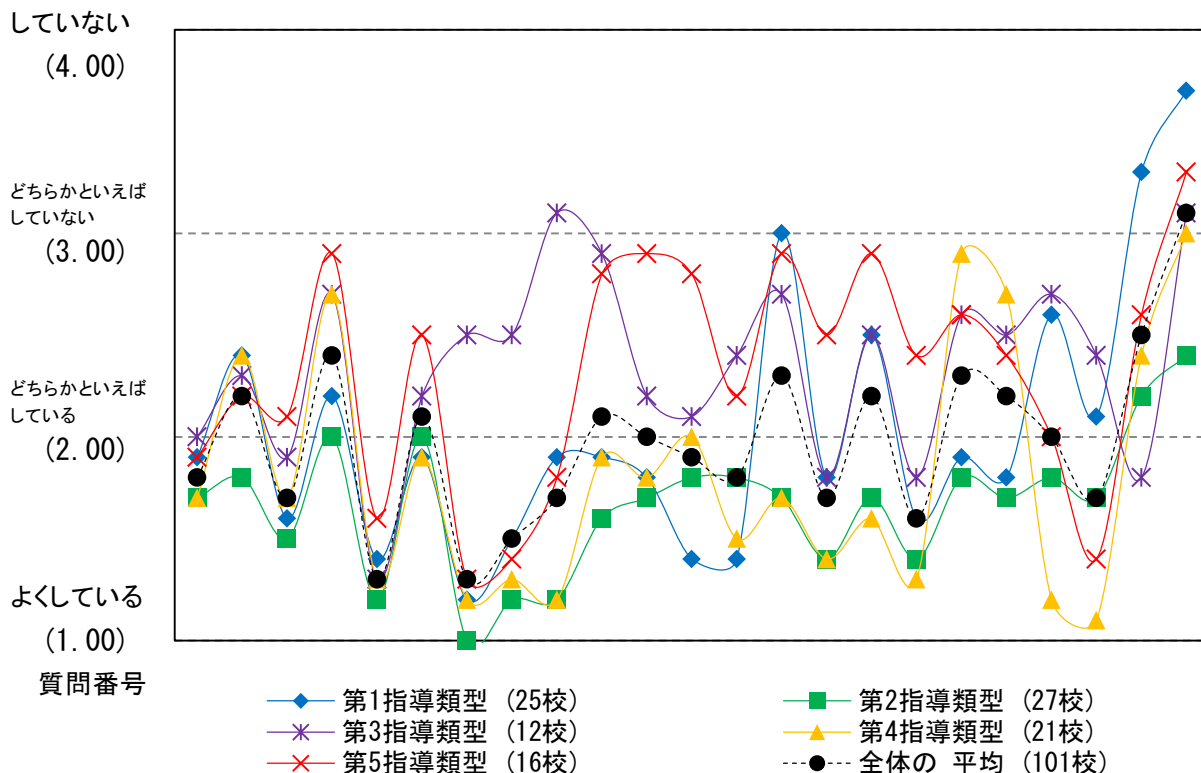
【学校質問紙の内容及び各指導類型の指導の傾向】

学校質問紙 質問内容 23 項目	第1指導 類型 (25校)	第2指導 類型 (27校)	第3指導 類型 (12校)	第4指導 類型 (21校)	第5指導 類型 (16校)	全体の 平均 (101校)
1 英語の学習で、どこをどのように勉強すればよく分かるようになるかについて、日ごろから個々の生徒にアドバイスや説明をしていますか。	1.9	1.7	2.0	1.7	1.9	1.8
2 積極的に英語を使って授業をしていますか。	2.4	1.8	2.3	2.4	2.2	2.2
3 強勢、イントネーション、区切りなど英語を正しく聞き取れるようになる指導を授業で行っていますか。	1.6	1.5	1.9	1.7	2.1	1.7
4 スピーチなど生徒が自分の気持ちや考えを話す活動を授業で行っていますか。	2.2	2.0	2.7	2.7	2.9	2.4
5 音読指導を授業で行っていますか。	1.4	1.2	1.3	1.3	1.6	1.3
6 物語や説明文などまとまりのある文章を読んで、あらすじや大切な部分を読み取るような活動を授業で行っていますか。	1.9	2.0	2.2	1.9	2.5	2.1
7 生徒に英文を書かせるとき、大文字と小文字の区別について指導していますか。	1.2	1.0	2.5	1.2	1.3	1.3
8 生徒に英文を書かせるとき、符号の区別について指導していますか。	1.5	1.2	2.5	1.3	1.4	1.5
9 生徒に英文を書かせるとき、語と語の区切りについて指導していますか。	1.9	1.2	3.1	1.2	1.8	1.7
10 単語や文などをつなぐ語 (and, because, if, when などの接続詞) を使うことを意識するように指導していますか。	1.9	1.6	2.9	1.9	2.8	2.1
11 単語や文などをつなぐ語 (and, because, if, when などの接続詞) を使う問題を定期試験に出題していますか。	1.8	1.7	2.2	1.8	2.9	2.0
12 英文を書かせるとき、文と文のつながりを意識するように指導していますか。	1.4	1.8	2.1	2.0	2.8	1.9
13 英文を書かせるとき、代名詞 (that, it など) を意識して使うように指導していますか。	1.4	1.8	2.4	1.5	2.2	1.8
14 前後の会話の内容を考えながら、空欄にふさわしい文や語句を補うことを授業で行っていますか。	3.0	1.7	2.7	1.7	2.9	2.3
15 前後の会話の内容を考えながら、空欄にふさわしい文や語句を補う問題を定期試験に出題していますか。	1.8	1.4	1.8	1.4	2.5	1.7
16 前後の会話の内容を考えながら、語句を並べかえて正しい文にすることを授業で行っていますか。	2.5	1.7	2.5	1.6	2.9	2.2
17 前後の会話の内容を考えながら、語句を並べかえて正しい文にする問題を定期試験に出題していますか。	1.6	1.4	1.8	1.3	2.4	1.6
18 まとまりのある文章で自分の考えや気持ちなどを書くことを授業で行っていますか。	1.9	1.8	2.6	2.9	2.6	2.3
19 まとまりのある文章で自分の考えや気持ちなどを書く問題を定期試験に出題していますか。	1.8	1.7	2.5	2.7	2.4	2.2
20 つづりを正確に書く練習を授業で行っていますか。	2.6	1.8	2.7	1.2	2.0	2.0
21 つづりを正確に書く問題を定期試験に出題していますか。	2.1	1.7	2.4	1.1	1.4	1.7
22 ディクテーションを授業で行っていますか。	3.3	2.2	1.8	2.4	2.6	2.5
23 ディクテーションの問題を定期試験に出題していますか。	3.7	2.4	3.1	3.0	3.3	3.1



また、各指導類型の数値をグラフ化し、各指導類型の特徴を捉えやすくした。

【各指導類型のプロファイル】



第1指導類型は、特に質問12・13・18・19について積極的な回答をしている。文章のつながりやまとまりを意識した指導を行っていると考えられる。

第2指導類型は、全般的に積極的な回答をしているが、他の指導類型と比べて特に質問2・23に対する積極性が特徴的である。指導に英語をを使いつつ、質問で示されたような指導を全般的に行っていると考えられる。

第3指導類型は、質問22について積極的であるが、質問7～10・13・14・16・18～21は他の指導類型と比べて消極的である。授業でディクテーションを取り入れる一方で、筆記の正確さ、文章のつながりやまとまりに関する指導は、あまり重視していないと考えられる。

第4指導類型は、質問13～17は積極的であるが、質問2・18・19については他の指導類型と比べて最も消極的である。指導に英語をあまり使わず、文章のつながりやまとまりについては空所補充や語句整序を中心に指導を行い、話すことと書くことのどちらにおいても生徒に自己表現をさせることをあまり行っていないと考えられる。

第5指導類型は、質問7～9については全体の平均程度、質問21については全体の平均よりもやや積極的な回答をしている一方で、質問10～19のような文章のつながりやまとまりを意識した項目には消極的な回答をしている。筆記の正確さについては重視するものの文章としてのつながりやまとまりに関する指導はあまり行っていないと考えられる。

これらの指導類型に基づき、内容A・Bに共通する問題について、その通過率を集計した。内容A・B間で出題内容や出題方法が異なる問題については、指導類型に分けた場合に属する学校数が少なくなってしまう、平均を分析することが妥当ではないと判断されたため、共通問題だけに限定することとした。便宜的に3.0%の差を基準として、全体の平均値より高いものに青、低いものを黄で示した。

【各指導類型の共通問題の通過率(%)】

問題番号	出題のねらい	第1指導 類型 (25校, 779人)	第2指導 類型 (27校, 855人)	第3指導 類型 (12校, 402人)	第4指導 類型 (21校, 668人)	第5指導 類型 (16校, 521人)	全体の 平均 (101校, 3225人)
問題1 1 (1)	文字や符号、語と語の区切りに注意しているかを把握する	91.5	92.3	90.0	91.2	90.6	91.3
問題1 1 (2)	文字や符号、語と語の区切りに注意しているかを把握する	81.1	81.3	79.9	81.0	81.8	81.1
問題1 1 (3)	文字や符号、語と語の区切りに注意しているかを把握する	84.3	84.7	82.6	82.9	84.6	84.0
問題2 2 (1)	前後の文のつながりに注意し、適切に文章を構成しているかを把握する	83.2	79.1	77.9	77.7	76.0	79.1
問題2 2 (2)	前後の文のつながりに注意し、適切に文章を構成しているかを把握する	59.2	55.4	57.2	56.4	51.4	56.1
問題2 2 (3)	前後の文のつながりに注意し、適切に文章を構成しているかを把握する	66.6	60.1	58.7	64.1	57.2	61.9
問題3 (1)	与えられた文章を正しく読み取っているかを把握する	63.5	57.0	54.0	59.0	55.3	58.3
問題3 (2)	読んだ文章に関して自分の意見・感想を英語で書いているかを把握する	46.1	38.1	40.0	39.7	35.3	40.2
問題4	文と文のつながりに注意してまとまりのある英語で文章を書いているかを把握する	53.5	49.2	47.8	43.7	43.6	48.0

ここまでの分析や集計を踏まえ、各指導類型の傾向と共通問題の通過率の傾向をまとめた。

第1指導類型は、文章のつながりやまとまりに関する指導に積極的であり、これを把握する問題2や問題3・4の通過率の高さに通じていると考えられるが、正確な筆記については他の指導類型と比較して積極的というわけではなく、問題1の通過率は平均とほとんど差がない。第2指導類型は、幅広い指導方法に積極的であり、特に他の指導類型と比べて授業内での英語使用やディクテーションを取り入れることについては顕著であるが、通過率においてはおおむね平均に近い。第3指導類型は、正確に筆記できることや、文章のつながりやまとまりについて積極的に指導を行っているとはいいがたく、このような点を把握する問題1や問題2で通過率が低い。第4指導類型は、自己表現活動に消極的で、空所補充や語句整序によって文章のつながりやまとまりの指導を行っているようであり、問題4の通過率が低い。第5指導類型は、文章のつながりやまとまりに関する指導に消極的であり、他の指導類型と比べて問題番号2・3・4の通過率が一貫して最も低い。

【指導類型別の指導と通過率の傾向】

指導類型	指導の傾向	共通問題の通過率の傾向
第1指導類型 (25校, 779人)	全般的に平均程度である中で、文章のつながりやまとまりを特に意識した指導	問題2・3・4の通過率が一貫して高い
第2指導類型 (27校, 855人)	全般的に積極的であることに加え、指導に英語を用いることや定期試験にディクテーションを取り入れることが特徴的な指導	平均と特に差異がない
第3指導類型 (12校, 402人)	授業でディクテーションをよく取り入れる一方で、筆記の正確さ、文章のつながりやまとまりにはあまり重視していない指導	問題1の全てや問題2の一部で通過率が低い
第4指導類型 (21校, 668人)	話すことや書くことによる自己表現をあまりさせておらず、文章のつながりやまとまりは空所補充や語句整序で行っている指導	問題4の通過率が低い
第5指導類型 (16校, 521人)	文章のつながりやまとまりに関する指導があまり行っているとはいえない指導	問題2・3・4の通過率が一貫して最も低い

指導類型と通過率を基に指導の改善を検討するに当たっては、これらが単純な原因と結果の関係（ある指導類型のような指導をすれば必ずその通過率が得られるというような関係）ではないことにある程度留意しつつ、解釈を進める必要がある。

文章のつながりやまとまりに関しては、第5指導類型の「消極的な指導」と「通過率が低いこと」の組合せと、第1指導類型の「積極的な指導」と「通過率が高いこと」の組合せが顕著といえる。筆記の正確さに関しては第3指導類型の「消極的な指導」と「通過率が低いこと」の組合せが、自己表現に関しては第4指導類型の「消極的な指導」と「通過率が低いこと」の組合せがみられ、それぞれ他の指導類型ではより積極的な指導が行われて高い通過率を示している。一方、第2指導類型では本調査の通過率においては平均程度であったが、他の指導類型では見られないほど多様で積極的な指導がみられた。

これらの事実を総合すると、指導の重点が置かれている事項については定着の度合いが高い傾向がある一方で、逆の事項については低い傾向があることが指摘できる。指導上の重点を定める際には、教科の趣旨や目標を踏まえてできるだけ偏りないものとするとともに、重点を置かないこととした事項については必要に応じて診断的にテストを行ったり補充的な指導を行ったりすることが肝要であろう。

IV 調査結果

1 問題1における調査結果

解答類型と結果

① 問題1

文字や符号，語と語の区切りなどに注意して書き写しなさい。

(1) You must study hard.

【解答類型ごとの反応率】

通過率：91.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	反応率 (%)
◎1	文字，符号，語としてのまとまりについて，正確に筆記しているもの	82.9
○2	文字や符号の形に正確さを欠くところがあるもの	5.1
○3	文字や符号の大きさや高さが不適切であるもの	3.0
○4	類型2及び3の両方に該当するもの	0.3
5	大文字・小文字の書き分けその他文字の筆記が不正確なもの	2.9
6	符号の筆記が不正確なもの	2.3
7	語としてのまとまりが不明瞭であるもの	0.6
8	類型5～7の2以上に該当するもの	0.3
9	上記以外の解答	0.9
0	無解答	1.7

通過率91.3%のうち，正答と準正答はそれぞれ82.9%，8.4%であった。

(2) Is that boy Saki's brother?

【解答類型ごとの反応率】

通過率：81.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	反応率 (%)
◎1	文字，符号，語としてのまとまりについて，正確に筆記しているもの	69.7
○2	文字や符号の形に正確さを欠くところがあるもの	8.3
○3	文字や符号の大きさや高さが不適切であるもの	2.6
○4	類型2及び3の両方に該当するもの	0.5
5	大文字・小文字の書き分けその他文字の筆記が不正確なもの	11.3
6	符号の筆記が不正確なもの	2.7
7	語としてのまとまりが不明瞭であるもの	0.8
8	類型5～7の2以上に該当するもの	1.0
9	上記以外の解答	1.2
0	無解答	1.9

通過率81.1%のうち，正答と準正答はそれぞれ69.7%，11.4%であった。誤答のうち，類型5は11.3%であり，文中の固有名詞（Saki）のSを小文字で書き写した解答が目立った。

(3) Naoki said, "This cake is great!"

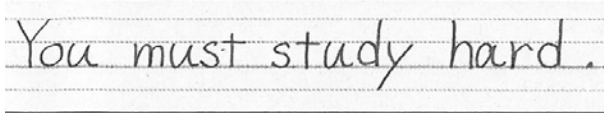
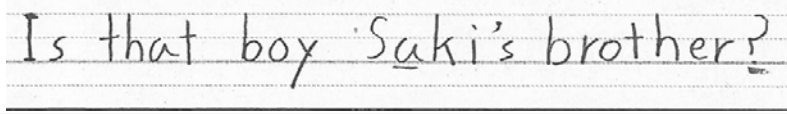
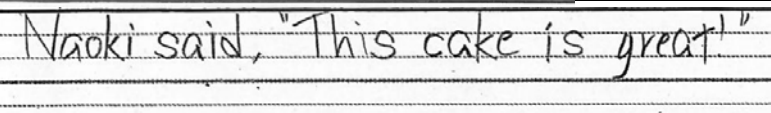
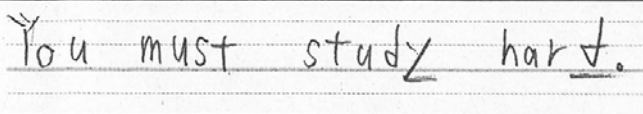
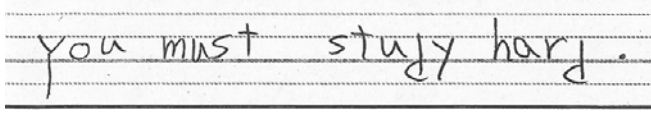
【解答類型ごとの反応率】

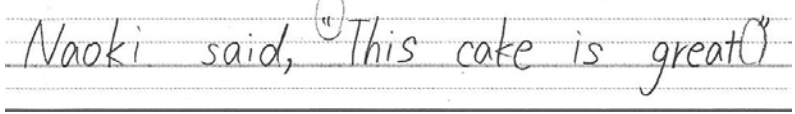
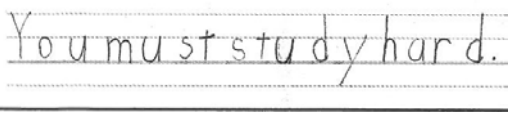
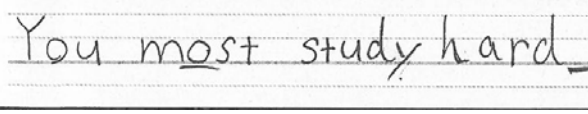
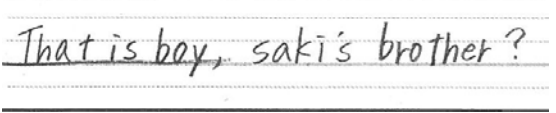
通過率 84.0%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	反応率 (%)
◎1	文字、符号、語としてのまとまりについて、正確に筆記しているもの	55.3
○2	文字や符号の形に正確さを欠くところがあるもの	25.5
○3	文字や符号の大きさや高さが不適切であるもの	2.2
○4	類型2及び3の両方に該当するもの	1.0
5	大文字・小文字の書き分けその他文字の筆記が不正確なもの	3.6
6	符号の筆記が不正確なもの	7.2
7	語としてのまとまりが不明瞭であるもの	1.2
8	類型5～7の2以上に該当するもの	0.8
9	上記以外の解答	1.1
0	無解答	2.1

通過率 84.0%のうち、正答と準正答はそれぞれ 55.3%、28.7%であった。

【解答類型ごとの解答例 問題11】

類型番号	解答例 (◎：正答，○：準正答) 判断の視点
◎1	 <p>与えられた英文に対して、文字や符号の形が正しく書き写されており、語と語の間のスペースが明瞭である。また、4線紙に対する全体的な位置が適切である。</p>
○2	 <p>与えられた英文を書き写しているが、「a」や「?」の形は正確(分かりやすい形)とはいえない。4線紙に対する位置や語としてのまとまりなど全体的なバランスは適切である。</p>
○3	 <p>与えられた英文に対して、文字や符号の形が正しく書き写されており、語と語の間のスペースが明瞭であるが、4線紙に対して上にずれている。</p>
○4	 <p>与えられた英文を書き写しているが、「y」が4線紙に対して小さく位置がずれており、かつ「d」や「j」の形が正確(分かりやすい形)とはいえない。</p>
5	 <p>与えられた英文を書き写しているが、「Y」や「d」の4線紙に対する位置が不正確である。</p>

6	 <p>与えられた英文を書き写しているが、文中の符号「“」「”」の形が不適切であり、文末の符号「!」が欠落している。</p>
7	 <p>与えられた英文を書き写しているが、文字間と単語間のスペースにほとんど差がない。</p>
8	 <p>与えられた英文を書き写しているが、must のつづりに誤りがあり、文末の符号「.」が欠落している。</p>
9	 <p>与えられた語の順序を入れかえている。</p>

問題1を通して文字・符号等の判断基準は上例と同様とする。ただし問題1 2及び3については、1とは出題意図が異なることから、文字や符号等の形に正確さを欠くところがあるもの（くせ字等）をもって誤りとししない。

② 問題12

【内容A】

文字や符号などに注意して、英語の文として正しい形になるように書き直しなさい。その際、必要に応じて、下の の中から適切な符号を選んで加えること。また、1文とすること。

(1) its an interesting story

【内容B】

文字や符号などに注意して、英語の文として正しい形になるように書き直しなさい。その際、() には、下の の中から適切な符号を選んで加えること。また、1文とすること。

(1) it()s an interesting story()

<符号>

. , ? ' " " !

【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 72.9%，内容B 71.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	文字、符号について、正確に筆記しているもの	72.9	71.7
2	文中の符号「'」を正しい位置に筆記していないもの	7.7	0.7
3	文末の符号「.」又は「!」を正しい位置に筆記していないもの	1.6	1.4
4	類型2及び3の両方に該当、又はその他符号の筆記が不正確であるもの	0.2	0.3
5	文頭の文字が大文字でないもの	1.3	9.8
6	類型5のほか大文字・小文字の書き分けが不正確なもの	0.1	0.1
7	類型2～4のいずれかに該当し、かつ類型5、6のいずれかに該当するもの	1.5	1.5
9	上記以外の解答	11.3	11.8
0	無解答	3.3	2.7

通過率は、内容Aでは72.9%、内容Bでは71.7%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例
2	Its an interesting story. / Its an interesting story!
3	It's an interesting story? / It's an interesting story

<p>【内容A】</p> <p>(2) what are you reading tomoko</p> <p>【内容B】</p> <p>(2) what are you reading () tomoko ()</p>

【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 12.3%，内容B 41.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	文字、符号について、正確に筆記しているもの	12.3	41.7
2	文中の符号「,」を正しい位置に筆記していないもの	27.7	1.3
3	文末の符号「?」を正しい位置に筆記していないもの	0.2	1.3
4	類型2及び3の両方に該当、又はその他符号の筆記が不正確であるもの	2.9	5.1
5	文頭の文字が大文字でないもの	0.0	0.8
6	固有名詞の初めの文字が大文字でないもの	4.1	22.4
7	類型5及び6の両方に該当、又はその他大文字・小文字の書き分けが不正確であるもの	0.1	4.2
8	類型2～4のいずれかに該当し、かつ類型5～7のいずれかに該当するもの	41.1	10.8
9	上記以外の解答	8.3	9.3
0	無解答	3.3	3.1

通過率は、内容Aでは12.3%、内容Bでは41.7%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Aの類型2、類型8はそれぞれ27.7%、41.1%であり、内容Bの類型6は22.4%であった。内容Aの類型2では、reading後の「,」（コンマ）を付けていない解答が目立った。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例
2	What are you reading Tomoko?
3	What are you reading, Tomoko.

③ 問題13

【内容A】

ルーシー (Lucy) とジョン (John) の会話です。[] 内の全ての文字を順番をかえずに用いて、英語の文として正しい形になるように書き直さない。その際、必要に応じて、下の [] の中から適切な符号を選んで加えること。

Lucy : [doyouplaybaseball]

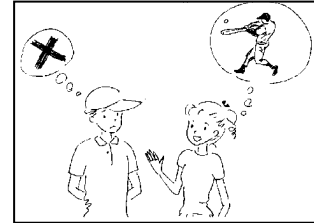
John : [noidont]

【内容B】

ルーシー (Lucy) とジョン (John) の会話です。右下のイラストを参考にしながら、[] 内の全ての文字を順番をかえずに用いて、英語の文として正しい形になるように書き直さない。その際、必要に応じて、下の [] の中から適切な符号を選んで加えること。

Lucy : [doyouplaybaseball]

John : [noidont]



<符号>

. , ? ' " " !

【解答類型ごとの反応率 (Lucy)】 通過率：内容A 83.1%，内容B 80.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	文字、符号、語としてのまとまりについて、正確に筆記しているもの	83.1	80.3
2	文末の符号「?」を正しい位置に筆記していない、又はその他符号の筆記が不正確であるもの	2.3	3.5
3	大文字・小文字の書き分けが不正確なもの	1.6	2.6
4	語としてのまとまりが不明瞭又は不正確であるもの	4.7	5.2
5	類型2～4の2つ以上に該当するもの	1.2	1.8
9	上記以外の解答	4.0	3.7
0	無解答	3.2	2.9

通過率は、内容Aでは83.1%，内容Bでは80.3%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例
2	Do you play baseball.
3	do you play baseball?

【解答類型ごとの反応率 (John)】

通過率：内容A 76.2%，内容B 70.2%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎ 1	文字、符号、語としてのまとまりについて、正確に筆記しているもの	76.2	70.2
2	文中の符号「,」を正しい位置に筆記していないもの	2.2	2.1
3	文中の符号「'」を正しい位置に筆記していないもの	3.2	2.5
4	文末の符号「.」を正しい位置に筆記していないもの	6.9	9.2
5	類型2～4の2以上に該当、又はその他符号の筆記が不正確であるもの	1.4	1.8
6	大文字・小文字の書き分けが不正確なもの	1.1	1.5
7	語としてのまとまりが不明瞭又は不正確であるもの	0.1	0.4
8	符号について不正確であるもの類型2～5のいずれか、文字について不正確であるもの類型6、語としてのまとまりについて不正確であるもの類型7の2つ以上に該当するもの	4.6	5.9
9	上記以外の解答	1.3	3.5
0	無解答	3.2	2.8

通過率は、内容Aでは76.2%，内容Bでは70.2%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例
2	No I don't. / No' I don't.
3	No, I dont. / No, I do'nt.
4	No, I don't

2 問題2における調査結果

解答類型と結果

① 問題2-1

<p>【内容A】 文の意味が通るように（ ）内にあてはまる最も適切な語をそれぞれア～エの中から<u>一つ</u>選び、その記号を書きなさい。</p> <p>(1) I like dogs, () I don't have a dog.</p> <p>ア and イ because ウ but エ if</p> <p>【内容B】 文の意味が通るように（ ）内に適切な語を<u>一つずつ</u>入れなさい。</p> <p>(1) I like dogs, () I don't have a dog.</p>
--

【解答類型ごとの反応率 内容A】

通過率：89.0%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率(%)
1	アと解答しているもの (and)	3.5
2	イと解答しているもの (because)	4.8
◎3	ウと解答しているもの (but)	89.0
4	エと解答しているもの (if)	1.6
9	上記以外の解答	0.0
0	無解答	1.1

【解答類型ごとの反応率 内容B】

通過率：75.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	内容B 反応率(%)
◎1	but と解答しているもの	62.0
○2	but と解答しているが、つづりや大文字・小文字の書き分けが誤っているもの	13.3
3	and と解答しているもの	0.8
4	because と解答しているもの	0.6
5	if と解答しているもの	0.0
6	その他の接続詞の機能を有する語句を解答しているもの	3.0
7	接続詞の機能を有する語句以外の語句を解答しているもの	8.9
9	上記以外の解答	0.7
0	無解答	10.8

通過率は、内容Aでは89.0%、内容Bでは75.3%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Bの無解答は10.8%であった。

<p>【内容A】</p> <p>(2) I study English hard () I want to go to America.</p> <p>ア because イ but ウ or エ when</p> <p>【内容B】</p> <p>(2) I study English hard () I want to go to America.</p>
--

【解答類型ごとの反応率 内容A】 **通過率：79.0%**

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)
◎1	アと解答しているもの (because)	79.0
2	イと解答しているもの (but)	5.2
3	ウと解答しているもの (or)	3.8
4	エと解答しているもの (when)	10.8
9	上記以外の解答	0.0
0	無解答	1.1

【解答類型ごとの反応率 内容B】 **通過率：50.2%**

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	内容B 反応率 (%)
◎1	because と解答しているもの	41.0
○2	because と解答しているが、つづりや大文字・小文字の書き分けが誤っているもの	9.1
3	but と解答しているもの	0.9
4	or と解答しているもの	0.0
5	when と解答しているもの	3.3
6	その他の接続詞の機能を有する語句を解答しているもの	14.8
7	接続詞の機能を有する語句以外の語句を解答しているもの	13.0
9	上記以外の解答	0.6
0	無解答	17.3

通過率は、内容Aでは79.0%、内容Bでは50.2%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Aの類型4は10.8%であり、内容Bの類型6、類型7、無解答はそれぞれ14.8%、13.0%、17.3%であった。内容Bの類型6では、and/so/that といった解答が目立ち、類型7では、to/is といった解答が目立った。

<p>【内容A】</p> <p>(3) Let's go to the beach tomorrow () it's sunny.</p> <p>ア and イ if ウ or エ that</p> <p>【内容B】</p> <p>(3) Let's go to the beach tomorrow () it's sunny.</p>

【解答類型ごとの反応率 内容A】

通過率：70.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率(%)
1	アと解答しているもの (and)	5.0
◎2	イと解答しているもの (if)	70.6
3	ウと解答しているもの (or)	5.6
4	エと解答しているもの (that)	17.5
9	上記以外の解答	0.0
0	無解答	1.3

【解答類型ごとの反応率 内容B】

通過率：39.5%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	内容B 反応率(%)
◎1	if と解答しているもの	38.5
○2	if と解答しているが、つづりや大文字・小文字の書き分けが誤っているもの	1.0
3	and と解答しているもの	1.6
4	or と解答しているもの	0.1
5	that と解答しているもの	0.8
6	その他の接続詞の機能を有する語句を解答しているもの	12.7
7	接続詞の機能を有する語句以外の語句を解答しているもの	24.0
9	上記以外の解答	0.9
0	無解答	20.3

問題の通過率は内容Aでは70.6%、内容Bでは39.5%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Aの類型4は17.5%であり、内容Bの類型6、類型7、無解答はそれぞれ12.7%、24.0%、20.3%であった。内容Bの類型6では、because/when/so といった解答が目立ち、類型7では、will の解答が目立った。

② 問題22

文章の意味が通るように（ ）内にあてはまる最も適切な文をそれぞれア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

(1) Tokyo is a big city. () I want to go there someday.

- ア I live there.
- イ I've never been there.
- ウ I go there every day.
- エ I don't like big cities.

【解答類型ごとの反応率】

通過率：79.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	反応率 (%)
1	アと解答しているもの (I live there.)	9.9
◎2	イと解答しているもの (I've never been there.)	79.1
3	ウと解答しているもの (I go there every day.)	6.9
4	エと解答しているもの (I don't like big cities.)	3.2
9	上記以外の解答	0.0
0	無解答	1.0

通過率は79.1%であった。

(2) Ken lost his tennis racket last Monday. () He'll buy a new one if he can't find it.

- ア He's still looking for it.
- イ He found it.
- ウ He has it now.
- エ He'll give it to his friend.

【解答類型ごとの反応率】

通過率：56.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	反応率 (%)
◎1	アと解答しているもの (He's still looking for it.)	56.1
2	イと解答しているもの (He found it.)	16.2
3	ウと解答しているもの (He has it now.)	14.9
4	エと解答しているもの (He'll give it to his friend.)	11.6
9	上記以外の解答	0.0
0	無解答	1.1

通過率は56.1%であった。誤答のうち、類型2, 類型3, 類型4はそれぞれ16.2%, 14.9%, 11.6%であった。

(3) Keiko was in New York last week. () She showed them to her family after she came back to Japan.

- ア She wrote a letter there.
- イ She met some Japanese there.
- ウ She went to a park there.
- エ She took many pictures there.

【解答類型ごとの反応率】

通過率：61.9%

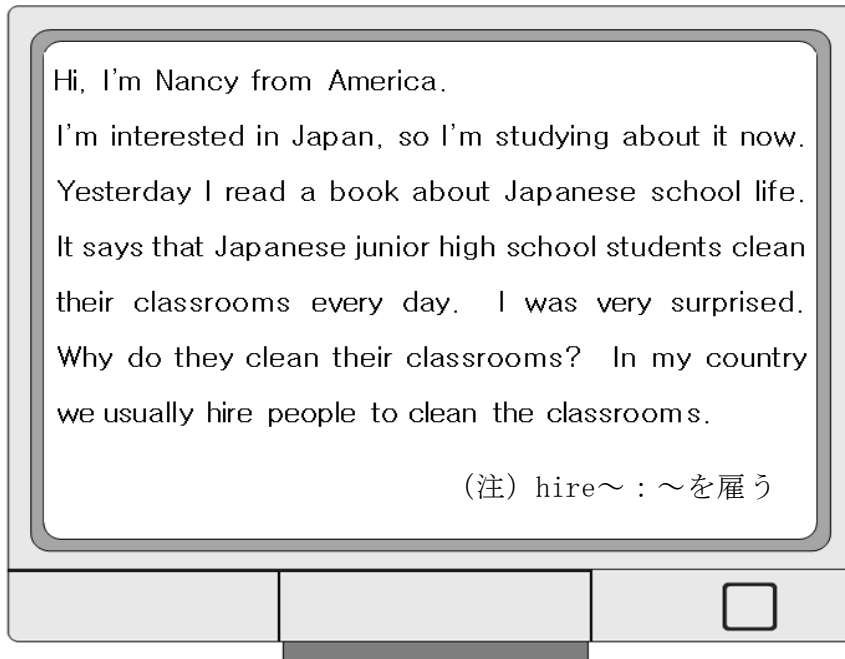
類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	反応率 (%)
1	アと解答しているもの (She wrote a letter there.)	15.3
2	イと解答しているもの (She met some Japanese there.)	13.2
3	ウと解答しているもの (She went to a park there.)	8.5
◎4	エと解答しているもの (She took many pictures there.)	61.9
9	上記以外の解答	0.0
0	無解答	1.1

通過率は61.9%であった。誤答のうち類型1と類型2はそれぞれ15.3%、13.2%であった。

3 問題3における調査結果

解答類型と結果

あなたは、インターネットの意見交換の掲示板に、アメリカ人の中学生ナンシー（Nancy）による次のような書き込みを見つけました。これをよく読んで、あとの問いに答えなさい。



- (1) この英文の内容に関する次の質問に日本語で答えなさい。
 [質問] ナンシーは日本の中学校での生活のどんなことに驚いたのですか。

【解答類型ごとの反応率】

通過率：58.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	反応率 (%)	
◎1	「毎日」「生徒が」「教室を」「掃除する」の要素を全て記述しているもの	42.6	55.0
◎2	「生徒が」「教室を」「掃除する」の要素を全て記述しているもの	12.4	
○3	「生徒が」「教室を」「掃除する」の要素を全て記述しているが、「毎日」の要素が不適切であるもの	0.1	
○4	「生徒が」「掃除する」の要素を記述しているが、「教室を」の要素は記述していないか不適切であるもの	3.2	
5	「教室を」「掃除する」の要素を記述しているが、「生徒が」の要素は記述していないか不適切であるもの	18.3	
6	「掃除する」の要素を記述しているが、「生徒が」「教室を」の要素は記述していないか不適切であるもの	2.6	
7	本文に関連する内容を記述しているが、ナンシーが驚いたことは何かという問いに対して不適切な内容を記述しているもの	2.7	
9	上記以外の解答	7.5	
0	無解答	10.5	

通過率 58.3%のうち、正答と準正答はそれぞれ 55.0%、3.3%であった。誤答のうち、類型 5 と無解答はそれぞれ 18.3%、10.5%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例（◎：正答，○：準正答） 判断の視点
◎1	日本の中学生は、毎日自分たちの教室を掃除すること 日本の掃除の様子が分かる全ての要素が「毎日」も含めて記述している。
◎2	中学生が自分たちの教室をそうじしていること 日本の掃除の様子が分かる全ての要素が記述している。
○3	日本の生徒は、教室のそうじを最後の日に自分達でやることに驚いた 日本の掃除の様子として「毎日」の意味を誤って記述している。
○4	クラスメイト皆で毎日そうじをしていたこと 日本の掃除の様子として、「誰が」の要素は明確であるが、「どこを」が記述していない。
5	何故教室をきれいにするのか？ 日本の掃除の様子が分かる要素での1つである「誰が」が記述されていないが、その他の必要な要素は記述している。
6	毎日そうじをすること 「誰が」、「どこを」の要素が記述していない。
7	そうじをする人をやとっていること 日本の中学生の生活の記述ではない。
9	日本の学校に生徒の教室がたくさんあること 本文に記述がない。

(2) ナンシーが掲示板に書いていることについて、あなたはどんな感想や意見を持ちましたか。15語以上の英語で書きなさい。文の数はいくつになってもかまいません。ただし、符号は語数に数えないこととします。

【解答類型ごとの反応率】

通過率：40.2%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	反応率 (%)
◎1	英文の内容に関連した意見や感想を15語以上で書いているもの	10.8
○2	英文の内容に関連した意見や感想を15語以上で書いているが、文法・語法等の誤りがみられる(文構造等の誤りはみられない)もの	29.4
3	英文の内容に関連した意見や感想を14語以下で書いているもの	0.8
4	英文の内容に関連した意見や感想を14語以下で書いているが、文法・語法等の誤りがみられる(文構造等の誤りはみられない)もの	2.3
5	英文の内容に関連はしているが意見や感想ではないことを書いているもの	0.9
6	英文の内容と関連のないことや矛盾することを書いているもの、又は書いていることの内容が矛盾しているもの	6.2
7	15語以上で書いているが、文構造等の誤りがみられるもの	14.0
8	14語以下で書いており、文構造等の誤りがみられるもの	4.5
9	上記以外の解答	1.5
0	無解答	29.5

通過率40.2%のうち、正答と準正答はそれぞれ10.8%、29.4%であった。誤答のうち、類型7と無解答はそれぞれ14.0%、29.5%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型 番号	解答例 (◎ : 正答, ○ : 準正答) 判断の視点
◎ 1	We clean our classroom every day. I think that cleaning our classroom is very important for us. (17 語) 17 語(15 語以上)で本文の内容に対する自分の考えを含めた英文を記述している。
○ 2	I was very surprised. Because she says America is hire people to clean the classrooms. 15 語(15 語以上)で本文の内容に対する感想を記述している。ただし、2文目に不適切な主語や unnecessary be 動詞の追加など、文法・語法等の誤りがある
3	I think Japanese school life is better than American school life. (11 語) 本文の内容に対する自分の考えを記述しているが、11 語(14 語以下)である。
4	I was very suprised. I think good idea it. (9 語) 単語のつづり誤りは不問。9語(14 語以下)で本文の内容に対する感想と自分の考えを記述している。また、2文目の I think 以降に文構造の誤りがある。
5	I'm interested in America. So I'm studying about it now. I read a book yesterday. It says that Japanese junior high school students clean then classrooms everyday. (26 語) 本文をほぼ書き写しており、本文の内容に対する意見や感想とはいえない。
6	I read it. I was very surprised at American students usually clean the classrooms. I think that it's important for us to clean the classrooms. (25 語) 2文目の内容が本文の内容に反している。
7	I like the classroom. So I clean the classroom. Because after clean make me happy. (15 語) 15 語(15 語以上)で記述しているが、3文目に主語がないなどの文構造の誤りがある。
8	I don't know hire people to clean the classrooms. (9 語) 9語(14 語以下)で記述しており、I don't know 以降に主語がないなどの文構造等の誤りがある。
9	ナンシーは日本の学校生活に驚いていました。 日本語で記述している。

4 問題4における調査結果

解答類型と結果

あなたは自分の友達のことを英語クラブで発表することになりました。その原稿を I have a friend. に続けて、4文以上のまとまった内容の英語でできるだけたくさん書きなさい。ただし、I have a friend. の文は1文として数えません。

【解答類型ごとの反応率】

通過率：48.0%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	反応率 (%)	
◎1	5文以上書いてあり，文章の内容のつながりがよいもの	4.5	9.1
◎2	4文書いてあり，文章の内容のつながりがよいもの	4.6	
○3	5文以上書いてあり，文章の内容のつながりがよいが，文法・語法等の誤りがみられるもの	24.7	38.9
○4	4文書いてあり，文章の内容のつながりがよいが，文法・語法等の誤りがみられるもの	14.2	
5	5文以上書いているが，文章のつながりにおいて適切さを欠いているもの	3.6	
6	4文書いているが，文章のつながりにおいて適切さを欠いているもの	4.1	
7	4文以上書いているが，文構造等の誤りがみられるもの	13.3	
8	3文以下で書いているもの	10.7	
9	上記以外の解答	0.2	
0	無解答	20.1	

通過率 48.0%のうち，正答と準正答はそれぞれ 9.1%，38.9%であった。誤答のうち類型 7，類型 8，無解答はそれぞれ 13.3%，10.7%，20.1%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答，○：準正答) 判断の視点
◎1	(I have a friend.) Her name is Nancy. She is from America. She likes singing very much. And she can sing very well. She wants to be a singer. I like her very much. (6文) 6文(5文以上)で友達の紹介文を記述している。友達の特徴等を述べており，文章の内容のつながりがよい。
◎2	(I have a friend.) We are good friends. His name is Jack. He is very kind. He plays tennis well. (4文) 4文で友達の紹介文を記述している。友達の特徴等を述べており，文章の内容のつながりがよい。
○3	(I have a friend.) She like the cute cat. She have a three cats. She have three dogs, too. It is a very cute!! She play basketball. She don't like study. She is a best friend!!! (7文) 7文(5文以上)で友達の紹介文を記述している。友達の特徴等を述べており，文章の内容のつながりがよい。ただし，三単現の s の欠落や代名詞の誤用など，文法・語法等の誤りがある。
○4	(I have a friend.) My friend is soccer player. He play soccer very well. When he play soccer, he is very cool. Also he is good at baseball. (4文) 4文で友達の紹介文を記述している。友達の特徴等を述べており，文章の内容のつながりがよい。ただし，三単現の s の欠落など，文法・語法等の誤りがある。

5	<p>(I have a friend.) They are very important for me. It is fan to play sports with friends. My friends are kind and funny. So always we are smile. I think that I should have friend. (5文)</p> <p>特定の友達の紹介文になっておらず, I have a friend. に続く文章の内容において適切さを欠いている。</p>
6	<p>(I have a friend.) I like a friend. I have a friend very kind. I love a friend. I have a friend very interesting. (4文)</p> <p>同じ内容の文を無用に繰り返しており, 内容のつながりにおいて適切さを欠いている。</p>
7	<p>(I have a friend.) I talk a longtime with friend every day. It's very fun. I when cry, always near the side. I have a nicetime with friend. Thankyou. (5文)</p> <p>5文(5文以上)で友達の紹介文を記述しているが, 3文目で語順や文の構成上の誤りなど, 文構造等の誤りがある。</p>
8	<p>(I have a friend.) My friend is very kind. My friend is interesting. I like my friend. (3文)</p> <p>3文(3文以下)で友達の紹介文を記述している。</p>
9	<p>(I have a friend.) I love do in 3年3組 gairs. I like Very Very frend.</p> <p>英語と日本語が混ざって記述している。</p>

5 問題5における調査結果

解答類型と結果

① 問題5 1

<p>【内容A】 AとBの会話が成り立つように、それぞれ [] 内に与えられた語句を並べかえて () 内に入る英語を完成させ、それを書きなさい。ただし、文頭に来るものも小文字になっています。</p> <p>(1) A: Let's play basketball in Sakura Park. B: OK. ()? [that park / is / where]</p>

【解答類型ごとの反応率】

通過率：91.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	内容A 反応率 (%)
◎1	Where is that park と解答しているもの	74.1
○2	Where is that park と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	16.9
3	Where that park is と解答しているもの	0.4
4	That park is where と解答しているもの	1.1
5	Is that park where と解答しているもの	0.4
6	類型5までとは異なる順に並べ替えているもの	4.0
9	上記以外の解答	0.9
0	無解答	2.3

通過率 91.1%のうち、正答と準正答はそれぞれ 74.1%、16.9%であった。

<p>【内容A】 (2) A: How long were you in Kyoto, Mr. Smith? B: (). [I / for a week / there / stayed]</p>

【解答類型ごとの反応率】

通過率：67.0%

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	内容A 反応率 (%)	
◎1	I stayed there for a week と解答しているもの	64.3	66.3
◎2	For a week I stayed there と解答しているもの	2.0	
○3	I stayed there for a week と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	0.7	0.7
○4	For a week I stayed there と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	0.0	
5	I stayed for a week there と解答しているもの	12.6	
6	I there stayed for a week と解答しているもの	10.5	
7	There I stayed for a week と解答しているもの	1.8	
8	類型7までとは異なる順に並べ替えているもの	4.0	
9	上記以外の解答	1.7	
0	無解答	2.4	

通過率 67.0%のうち、正答と準正答はそれぞれ 66.3%、0.7%であった。誤答のうち、類型5と類型6はそれぞれ 12.6%、10.5%であった。

【内容 A】

- (3) A: It was sunny all morning here.
 B: Really? It was ().
 [left my house / raining / I / when]

【解答類型ごとの反応率】**通過率 : 58.5%**

類型番号	解答類型 (◎ : 正答, ○ : 準正答)	内容 A 反応率 (%)
◎ 1	raining when I left my house と解答しているもの	54.8
○ 2	raining when I left my house と解答しているが, つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	3.7
3	when I left my house raining と解答しているもの	1.5
4	raining I left my house when と解答しているもの	0.5
5	when raining I left my house と解答しているもの	0.9
6	類型5までとは異なる順に並べ替えているもの	33.2
9	上記以外の解答	2.1
0	無解答	3.3

通過率 58.5%のうち, 正答と準正答はそれぞれ 54.8%, 3.7%であった。誤答のうち, 類型6は 33.2%であった。類型6では, when I raining left my house の解答が目立った。

【内容 A】

- (4) A: Your bag looks heavy.
 B: Yes. () read.
 [have / a lot of / to / I / books]

【解答類型ごとの反応率】**通過率 : 59.2%**

類型番号	解答類型 (◎ : 正答, ○ : 準正答)	内容 A 反応率 (%)
◎ 1	I have a lot of books to と解答しているもの	58.4
○ 2	I have a lot of books to と解答しているが, つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	0.9
3	I have to a lot of books と解答しているもの	14.8
4	I have to books a lot of と解答しているもの	2.7
5	I have books a lot of to と解答しているもの	1.5
6	I have books to a lot of と解答しているもの	1.4
7	I have a lot of to books と解答しているもの	11.9
8	類型7までとは異なる順に並べ替えているもの	2.0
9	上記以外の解答	3.6
0	無解答	2.7

通過率 59.2%のうち, 正答と準正答はそれぞれ 58.4%, 0.9%であった。誤答のうち類型3と類型7はそれぞれ 14.8%, 11.9%であった。

<p>【内容A】 (5) A: Excuse me. Who wrote this book? B: Let me see. (). [Natsume Soseki / written / it / by / was]</p>
--

【解答類型ごとの反応率】 **通過率：85.0%**

類型 番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	内容A 反応率(%)
◎1	It was written by Natsume Soseki と解答しているもの	74.8
○2	It was written by Natsume Soseki と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	10.2
3	It was by Natsume Soseki written と解答しているもの	0.1
4	It was Natsume Soseki written by と解答しているもの	0.0
5	Natsume Soseki was written by it と解答しているもの	0.4
6	Natsume Soseki was written it by と解答しているもの	0.1
7	類型6までとは異なる順に並べ替えているもの	9.2
9	上記以外の解答	2.1
0	無解答	3.2

通過率 85.0%のうち、正答と準正答はそれぞれ 74.8%、10.2%であった。類型7では、It was by written Natsume Soseki / Was it written by Natsume Soseki といった解答が目立った。

<p>【内容B】 AとBの会話が成り立つように、それぞれ [] 内に与えられた語句を並べかえて () 内に入る英語を完成させ、それを書きなさい。ただし、文頭に来るものも小文字になっています。 (1) A: When do you usually play soccer? B: () on Sunday. [it / play / we]</p>
--

【解答類型ごとの反応率】 **通過率：75.4%**

類型 番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	内容B 反応率(%)
◎1	We play it と解答しているもの	72.4
○2	We play it と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	3.0
3	We it play と解答しているもの	9.2
4	It we play と解答しているもの	11.1
5	It play we と解答しているもの	1.2
6	類型5までとは異なる順に並べかえているもの	0.3
9	上記以外の解答	1.2
0	無解答	1.6

通過率 75.4%のうち、正答と準正答はそれぞれ 72.4%、3.0%であった。誤答のうち、類型4は 11.1%であった。

【内容B】
 (2) A: Look! () cute.
 B: Oh, it's my cat.
 [under the tree / that cat / is]

【解答類型ごとの反応率】 **通過率：40.2%**

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	内容B 反応率 (%)
◎1	That cat under the tree is と解答しているもの	32.3
○2	That cat under the tree is と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	7.9
3	That cat is under the tree と解答しているもの	38.3
4	Under the tree that cat is と解答しているもの	7.1
5	Under the tree is that cat と解答しているもの	2.7
6	類型5までとは異なる順に並べ替えているもの	6.7
9	上記以外の解答	3.2
0	無解答	1.8

通過率 40.2%のうち、正答と準正答はそれぞれ 32.3%、7.9%であった。誤答のうち、類型3は 38.3%であった。

【内容B】
 (3) A: Tomorrow is Risa's birthday.
 B: Really! ().
 [give / her / some flowers / I'll]

【解答類型ごとの反応率】 **通過率：71.0%**

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	内容B 反応率 (%)
◎1	I'll give her some flowers と解答しているもの	67.9
○2	I'll give her some flowers と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	3.1
3	I'll give some flowers her と解答しているもの	11.4
4	I'll her some flowers give と解答しているもの	1.3
5	I'll some flowers her give と解答しているもの	0.4
6	I'll some flowers give her と解答しているもの	2.7
7	Some flowers I'll give her と解答しているもの	0.0
8	類型7までとは異なる順に並べ替えているもの	9.4
9	上記以外の解答	1.6
0	無解答	2.2

通過率 71.0%のうち、正答と準正答はそれぞれ 67.9%、3.1%であった。誤答のうち、類型3は 11.4%であった。類型8では、I'll her give some flowers の解答が目立った。

【内容B】

- (4) A: It's cold today.
 B: How about some hot tea? ().
 [you / it'll / warm / make]

【解答類型ごとの反応率】**通過率：44.7%**

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	内容B 反応率 (%)
◎1	It'll make you warm と解答しているもの	40.6
○2	It'll make you warm と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	4.1
3	It'll make warm you と解答しているもの	7.5
4	You make it'll warm と解答しているもの	1.9
5	It'll you make warm と解答しているもの	25.0
6	It'll warm make you と解答しているもの	4.7
7	類型6までとは異なる順に並べ替えているもの	12.0
9	上記以外の解答	1.1
0	無解答	3.2

通過率 44.7%のうち、正答と準正答はそれぞれ 40.6%、4.1%であった。誤答のうち、類型5と類型7はそれぞれ 25.0%、12.0%であった。類型7では、You it'll make warm / It'll you warm make といった解答が目立った。

【内容B】

- (5) A: I forgot our new English teacher's name.
 B: Me, too. ().
 [difficult / it's / English names / remember / to]

【解答類型ごとの反応率】**通過率：42.4%**

類型番号	解答類型 (◎：正答, ○：準正答)	内容B 反応率 (%)
◎1	It's difficult to remember English names と解答しているもの	35.5
○2	It's difficult to remember English names と解答しているが、つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるもの	6.8
3	It's difficult English names to remember と解答しているもの	8.0
4	It's difficult remember to English names と解答しているもの	11.5
5	It's English names to remember difficult と解答しているもの	1.4
6	It's English names difficult to remember と解答しているもの	1.8
7	English names it's difficult to remember と解答しているもの	0.4
8	類型7までとは異なる順に並べ替えているもの	26.7
9	上記以外の解答	3.7
0	無解答	4.0

通過率 42.4%のうち、正答と準正答はそれぞれ 35.5%、6.8%であった。誤答のうち、類型4と類型8は 11.5%と 26.7%であった。類型8では、It's remember to difficult English names の解答が目立った。

② 問題52

中学生のコウジ (Koji) と日本に来たばかりのカナダ人の留学生マイク (Mike) の会話です。それぞれく > 内に示された場面での会話で、イラストはその様子を表したものです。



【内容A】

(1)～(3)については、()内の指示にしたがって_____の引かれた文を書きかえ、会話が成り立つようにしなさい。なお、解答用紙には文の一部がすでに書かれています。

(4)・(5)については、_____に必要な英語を書き、会話が成り立つようにしなさい。その際、()内の語を適切な形で用いること。

(1) <休憩時間に教室で>

Koji: You speak Japanese very well. You studied it in Canada.
(疑問文にしなさい。)

Mike: Yes. I studied it every day.

【内容B】

(1)・(2)については、()内の指示にしたがって_____の引かれた文を書きかえ、会話が成り立つようにしなさい。なお、解答用紙には文の一部がすでに書かれています。

(3)～(5)については、_____に必要な英語を書き、会話が成り立つようにしなさい。その際、()内の語を適切な形で用いること。

(3) <休憩時間に教室で>

Koji: You speak Japanese very well. _____ it in Canada?
(study)

Mike: Yes. I studied it every day.

【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 48.9%，内容B 22.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	Did you study と解答しているもの(つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるものを含む)	48.9	22.6
2	一般動詞の過去時制の疑問文としているが、誤っているもの	20.7	6.3
3	一般動詞の現在時制の疑問文としているもの	5.7	8.1
4	be 動詞を用いた過去時制の疑問文としているもの	8.3	2.2
5	be 動詞を用いた現在時制の疑問文としているもの	1.0	1.2
6	類型5までとは異なる疑問文としているもの(「疑問文としている」の要件を満たしているもの、ただし、疑問詞を用いている文を除く)	2.1	2.1
7	疑問詞を用いた文としているもの	3.4	2.0
8	疑問文となっていないもの	2.5	46.5
9	上記以外の解答	0.8	0.6
0	無解答	6.6	8.4


通過率は、内容Aでは48.9%、内容Bでは22.6%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Aの類型2は20.7%であり、内容Bの類型8は46.5%であった。

「疑問文としている」(疑問形を取り入れている)の判断基準は、「主語及び動詞(助動詞)があり、主語が動詞又は助動詞の後におかれているもの」とする。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)
◎1	Did you study
2	Do you studied / Did you studied
3	Do you study / Does you study
4	Are you studied / Were you studied
5	Are you study
6	Studied you / Have you studied
7	When did you study / What study / How long did you study
8	You studied / Studied
9	Stayed / Speak

【内容A】
 (2) <図書室で>
 Mike: That woman is reading an English book.
She is our English teacher.
 (疑問文にしないで。)
 Koji: Yes. She is Ms. Suzuki.



【内容B】
 (4) <図書室で>
 Mike: That woman is reading an English book. _____ our
 English teacher?
 Koji: Yes. She is Ms. Suzuki.

【解答類型ごとの反応率】 通過率：内容A 76.3%，内容B 28.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	Is she《内容Bについては、「Is that/the person 又は Is that」を付加》と解答しているもの(つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるものを含む)	76.3	28.7
2	《内容Aについては、「Is that/the person , 」を付加》Is that/the woman, 又は Is that/the teacher 《内容A については、「Is that/the teacher , 又は Is that」》と解答しているもの	0.3	1.6
3	be が適切な形ではない疑問文にしているもの(「疑問文としている」の要件を満たし、be を含む(助動詞は含んでいない)が、適切な形ではないもの)	0.4	1.9
4	助動詞 do を用いた疑問文としているもの(「疑問文としている」の要件を満たすが、do を用いている(be の有無は問わないが、その他の助動詞は含んでいないもの)	7.1	2.0
5	類型4までとは異なる疑問文としているもの(「疑問文としている」の要件を満たしているもの、ただし、疑問詞を用いている文を除く)	0.2	2.3
6	疑問詞を用いた文としているもの	4.4	2.5
7	疑問文となっていないもの	2.6	38.6
9	上記以外の解答	0.6	7.8
0	無解答	8.1	14.5

通過率は、内容Aでは76.3%、内容Bでは28.7%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Bの類型7と無解答はそれぞれ38.6%、14.5%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)
◎1	【内容A】 Is she 【内容B】 Is she / Is that
2	【内容A】 Is that woman / Is that 【内容B】 Is that woman
3	Was she / Are you / Is she be
4	Does she / Does she is
5	Is her / Will she be
6	Who is she / Who is
7	She is / She was / Is / Are
9	She / You / That woman

【内容A】

(3) <歌舞伎公演のポスターを見て>

Koji: Do you know about *kabuki*?

Mike: Yes, but I have seen it.

(否定文にしなさい。)

Koji: Really! Then you should see it. Let's go together.

【内容B】

(5) <歌舞伎公演のポスターを見て>

Koji: Do you know about *kabuki*?

Mike: Yes, but _____ it.

(see)

Koji: Really! Then you should see it. Let's go together.



【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 65.3%，内容B 24.5%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	I have never seen (I've never seen) 又は I have not seen (I haven't seen) と解答しているもの(つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるものを含む)	65.3	24.5
2	完了形の否定文としているが、誤っているもの(「否定文としている」の要件を満たし、have/had/has, seen を含む(助動詞 do/be は含んでいない)が、正答ではないもの)	2.4	0.8
3	否定文としているが、完了形にする際に不適切な助動詞 do/be を加えているもの(「否定文としている」の要件を満たし、have/had/has, seen を含むが、助動詞 do/be を用いているもの)	12.2	0.4
4	否定文としているが、完了形にする際に動詞を過去分詞としていないもの(「否定文としている」の要件を満たし、have/had/has を含むが、seen 以外の形で see を用いているもの)	5.0	2.1
5	否定文としているが、完了形にする際に助動詞 have を用いていないもの(「否定文としている」の要件を満たし、seen を含むが、have/had/has を用いていないもの)	1.0	2.8
6	類型5までとは異なる否定文としているもの(「否定文としている」の要件を満たしているもの)	1.6	15.6
7	否定文となっていないもの	2.7	35.7
9	上記以外の解答	0.5	4.7
0	無解答	9.3	13.3

通過率は内容Aでは65.3%、内容Bでは24.5%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Aの類型3は12.2%であり、内容Bの類型7と無解答はそれぞれ35.7%、13.3%であった。

「否定文としている」(否定形を取り入れている)の判断基準は、否定語(not, never, no 等)を用いているものとする。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)
◎1	I have never seen / I've never seen / I haven't seen / I have not seen
2	I have seen not / I haven't never seen / I have no seen
3	I don't have seen / I have don't seen
4	I haven't see / I have not saw / I have never see / I have never saw
5	I don't seen / I never seen / Never seen
6	I don't have / I haven't / I have never / I don't see, don't see
7	I have seen / seen / saw
9	Sea / seen't / seet / said

【内容A】

(4) <昼休みに校庭で>

Mike: Do you play soccer?

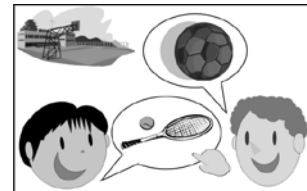
Koji: No. _____ it. But I like tennis.
(like)

【内容B】

(1) <昼休みに校庭で>

Mike: Do you play soccer?

Koji: No. I like it. But I like tennis.
(否定文にしなさい。)



【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 59.4%，内容B 72.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	I don't like (I do not like) 《内容Aについては、「I don't like playing 又は I don't like to play」を付加》と解答しているもの(つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるものを含む)	59.4	72.6
2	助動詞 do を用いた否定文としているが、誤っているもの(「否定文としている」の要件を満たし、助動詞 do 及び like を含む(be やその他の助動詞は含んでいない)が、正答ではないもの)	9.3	3.3
3	否定文としているが、不適切な助動詞 be を用いているもの(「否定文としている」の要件を満たし、like を含むが、助動詞 be を用いている(do 以外の助動詞は含んでいない)もの)	0.5	0.3
4	否定文としているが、助動詞 do を用いていないもの(「否定文としている」の要件を満たし、like を含むが、do その他助動詞を用いていないもの)	2.3	5.6
5	類型4までとは異なる否定文としているもの(「否定文としている」の要件を満たしているもの)	2.9	7.9
6	否定文となっていないもの	13.3	1.8
9	上記以外の解答	1.3	1.6
0	無解答	11.0	6.9

通過率は、内容Aでは59.4%、内容Bでは72.6%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Aの類型6と無解答はそれぞれ13.3%、11.0%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)
◎1	【内容A】 I don't like / I don't like playing 【内容B】 I don't like
2	I don't like soccer / Don't like
3	I 'm not like
4	I not like / I like not
5	I don't / I don't like play soccer
6	I do / I likes / I liked / I like / I like soccer / I like tennis
9	I / I do / I play

【内容A】

(5) <放課後音楽室で>

Koji: You play the piano very well! _____ it for a long time?
(play)

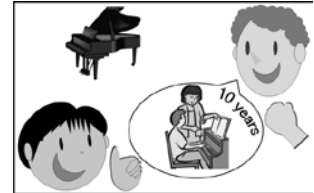
Mike: Yes. For ten years. I practice it every day.

【内容B】

(2) <放課後音楽室で>

Koji: You play the piano very well!
You have played it for a long time.
(疑問文にしてください。)

Mike: Yes. For ten years. I practice it every day.



【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 15.9%，内容B 66.5%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎ 1	Have you played と解答しているもの(つづりの誤りや大文字・小文字の書き分けに不正確なところなどがみられるものを含む)	15.9	66.5
2	完了形の疑問文としているが、誤っているもの(「疑問文としている」の要件を満たし, have/had/has, played を含む(助動詞 do/be は含んでいない)が、正答ではないもの)	0.2	0.1
3	疑問文としているが、完了形にする際に不適切な助動詞 do/be を加えているもの(「疑問文としている」の要件を満たし, have/had/has, played を含むが、助動詞 do/be を用いているもの)	0.1	5.2
4	疑問文としているが、完了形にする際に動詞を過去分詞としていないもの(「疑問文としている」の要件を満たし, have/had/has を含むが、played 以外の形で play を用いているもの)	5.7	12.5
5	疑問文としているが、完了形にする際に助動詞 have を用いていないもの(「疑問文としている」の要件を満たし, played を含むが、have/had/has を用いていないもの)	0.4	0.5
6	類型5までとは異なる疑問文としているもの(「疑問文としている」の要件を満たしているもの、ただし、疑問詞を用いている文を除く)	23.8	0.9
7	疑問詞を用いた文としているもの	20.1	4.2
8	疑問文となっていないもの	18.4	2.4
9	上記以外の解答	0.9	0.3
0	無解答	14.6	7.3

通過率は、内容Aでは15.9%、内容Bでは66.5%であり、内容A・Bで差がみられた。誤答のうち、内容Aの類型6、類型7、類型8、無解答はそれぞれ23.8%、20.1%、18.4%、14.6%であり、内容Bの類型4は12.5%であった。

【解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)
◎ 1	Have you played
2	Has you played / Had you played
3	Do you have played / Are you have played / Have you boon played
4	Have you play / Do you have play / Did you have play
5	Do you played / Are you played
6	Do you play / Are you play / Did you play
7	How long have you played / How long play / What have you played
8	Playing / Played / You have played / You played
9	very good / 10 years

6 問題6における調査結果

解答類型と結果

あなたのところに、近所に住んでいる友人のキム・メイソン (Kim Mason) さんから、次のようなお茶会 (tea party) への招待カードが届きました。
<キム・メイソンさんからの招待カード>



しかし、その日は理由があって行けません。

【内容A】

「あなたからの返事の手紙」を、(1)~(3)の にそれぞれ適切な英語を書いて完成させなさい。その際、() 内の指示にしたがうこと。また、行けない理由は自分で考えること。

<あなたからの返事の手紙>

November 30, 2010
Dear Kim,
Thank you for inviting me to your tea party.
It sounds great, but <input type="text"/> (1) <input type="text"/> . (行けないことを伝える。)
On that day, <input type="text"/> (2) <input type="text"/> . (行けない理由を伝える。)
<input type="text"/> (3) <input type="text"/> next time. (次回は行きたいというような内容を伝える。)
Thank you. Your friend, ○○○

(注) ○○○にはあなたの名前が書いてあるものとします。

【内容B】

「あなたからの返事の手紙」を、(1)～(3)の にそれぞれ適切な英語を書いて完成させなさい。その際、行けない理由は自分で考えること。
 <あなたからの返事の手紙>

November 30, 2010

Dear Kim,

Thank you for inviting me to your tea party.

It sounds great, but (1) .

On that day, (2) .

(3) next time.

Thank you.
 Your friend, ○○○

(注) ○○○にはあなたの名前が書いてあるものとします。

【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 45.7%，内容B 32.8%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	内容A 反応率 (%)	内容B 反応率 (%)
◎1	(1)～(3)の全てについて適切な内容をおおむね正確な英語で書いており、かつ、全体に適切であるもの	28.3	16.8
○2	(1)～(3)のいずれも不適切ではない内容をおおむね正確な英語で書いているが、招待カードへの返事の手紙の表現として不十分あるいは不適切なところが1箇所以上みられ、全体においては内容の矛盾や重複等の不適切なところはみられないもの	17.5	16.0
3	(1)～(3)の全てについて適切な内容をおおむね正確な英語で書いているが、全体においては内容の矛盾や重複等の不適切なところがみられるもの	1.9	0.4
4	(1)～(3)のいずれも不適切ではない内容をおおむね正確な英語で書いているが、招待カードへの返事の手紙の表現として不十分あるいは不適切なところが1箇所以上みられ、全体においても内容の矛盾や重複等の不適切なところがみられるもの	1.3	1.1
5	(1)～(3)のうち2つについて、不適切ではない内容をおおむね正確な英語で書いているもの	16.7	19.2
6	(1)～(3)のうち1つについて、不適切ではない内容をおおむね正確な英語で書いているもの	10.5	12.4
9	上記以外の解答	7.4	8.7
0	無解答	16.4	25.4

内容A・Bの通過率で差がみられた。内容Aの通過率45.7%のうち、正答と準正答はそれぞれ28.3%、17.5%であった。内容Bの通過率32.8%のうち、正答と準正答はそれぞれ16.8%、16.0%であった。誤答のうち、内容Aの類型5、類型6、無解答はそれぞれ16.7%、10.5%、16.4%であり、内容Bの類型5、類型6、無解答はそれぞれ19.2%、12.4%、25.4%であった。

【解答類型ごとの解答例 問題6】

類型 番号	解答例 (◎ : 正答, ○ : 準正答) 判断の視点
◎ 1	<p>It sounds great, but (1) I can't go there. On that day, (2) I have many things to do. (3) I would like to go next time.</p> <p>(1)に「そこに行くことができない」、(2)に「することがたくさんある」、(3)に「行きたいと思います」と記述している。指示した内容及び前後の英語に対して適切な内容を正確な英語で書いており、かつ、全体に適切である。</p> <p>It sounds great, but (1) I am busy on that day. On that day, (2) I have to go to the dentist. (3) I hope that you will invite me next time.</p> <p>【内容B】(1)に「その日は忙しい(その日の自分の状態)」、(2)に「私は歯医者に行かなくてはならない(行けない理由)」、(3)に「あなたが私を招待することを願っています」と記述している。前後の英語に対して適切な内容を正確な英語で書いており、かつ、全体に適切である。</p>
○ 2	<p>It sounds great, but (1) I don't go to there. On that day, (2) we will hold my sister's birthday party. (3) I join your party next time.</p> <p>(1)に「そこに行かない」、(2)に「私たちは妹の誕生日会を開きます」、(3)に「あなたのパーティーに参加します」と記述している。指示した内容及び前後の英語に対して適切な内容を正確な英語で書いているが、(1)の英文は読み手に伝わる表現としては不適切である。</p> <p>It sounds great, but (1) I must play tennis. On that day, (2) It is important game. (3) Sorry. See you next time.</p> <p>【内容B】(1)に「テニスをしなければならない(行けない理由)」、(2)に「大事な試合である(詳しい内容)」、(3)に「ごめんなさい、また」と記述している。前後の英語に対して適切な内容を正確な英語で書いているが、(3)の英文は手紙であること等を考慮すると、表現が不十分である。</p>
3	<p>It sounds great, but (1) I can't join it. On that day, (2) I have piano concert. (3) I want to go there next time.</p> <p>(1)に「それに参加することができない」、(2)に「ピアノの発表会がある」、(3)に「そこに行きたい」と記述している。指示した内容及び前後の英語に対して適切な内容を正確な英語で書いているが、全体を通すと(3)の there の意味する場所が不明瞭である。</p> <p>It sounds great, but (1) I'm sorry. On that day, (2) I'm going to Kim's house. (3) If I will have free time, I will want to go there next time.</p> <p>【内容B】(1)に「すみません(お詫び)」、(2)に「キムさんの家に行くでしょう」、(3)に「時間があるならば、そこに行きたいと思います」と記述している。前後の英語に対して適切な内容を正確な英語で書いているが、(2)の英文は内容と矛盾している。</p>
4	<p>It sounds great, but (1) I don't come it. On that day, (2) My family are going to go to Okinawa . (3) I will go that next time.</p> <p>(1)に「そこに行かない(動詞の語法の誤り)」、(2)に「私の家族は沖縄に行く予定です」、(3)に「私は行くつもりです(代名詞の誤り)」と記述している。指示した内容及び前後の英語に対して適切な内容を記述しているが、全体を通すと(3)の that の意味する場所が不明瞭である。</p>

	<p>It sounds great, but (1) I busy this day. On that day, (2) I'm busy. (3) I'm free next time.</p>
	<p>【内容B】(1)に「この日は忙しい(行けない理由)」, (2)に「忙しい」, (3)に「自由です」と記述している。前後の英語に対して適切な内容を記述しているが, (1)に be 動詞の欠落など, 文法・語法等の誤りがあり, かつ全体を通して(1)と(2)が重複している。</p>
5	<p>It sounds great, but (1) I will not go to Tea Party. On that day, (2) I will been Tokyo with family. (3) I think go to next time.</p>
	<p>(3)に一般動詞が2つ以上続くなど, 文構造等の誤りがある。</p>
	<p>It sounds great, but (1) I should go to hospital. On that day, (2) don't go to Kim's house. (3) Let's will do party next time.</p>
	<p>【内容B】(1)で自分の予定, (2)でパーティーには行けないということを記述しているが, (3)に主語がないなど, 文構造等の誤りがある。</p>
6	<p>It sounds great, but (1) go to not. On that day, (2) is school and play the soccer. (3) Let's go next time.</p>
	<p>(1), (2)に主語がないなど, 文構造等の誤りがある。</p>
	<p>It sounds great, but (1) I'll study English. On that day, (2) I like Tea Party. (3) It's next time.</p>
	<p>【内容B】(1)で自分の予定を記述しているが, (2), (3)は前後の英語に対して不適切な内容であり, 全体として意味が不明確である。</p>

7 問題7における調査結果

解答類型と結果

日本を訪れるとしたら夏と冬のどちらがよいかを、イギリスの友人にメールで尋ねられました。あなたならどちらの季節を勧めますか。

【内容A】

解答用紙にある英文 I think (summer / winter) is better. の () 内のどちらかの季節を○で囲み、そのあとに続けて、あなたの考えを3文以上のまとまった内容の英語でできるだけたくさん書きなさい。ただし、I think (summer / winter) is better. の文は1文として数えません。

【内容B】

解答用紙にある英文 I think (summer / winter) is better. の () 内のどちらかの季節を○で囲み、そのあとに続けて、あなたの考えを3文以上のまとまった内容の英語でできるだけたくさん書きなさい。ただし、I think (summer / winter) is better. の文は1文として数えません。なお、必要があれば下の中の語句を使ってもかまいません。

camp (キャンプ/キャンプをする)	swim (泳ぐ)
ski (スキー/スキーをする)	
skate (スケート/スケートをする)	
fish (魚/魚釣りをする)	enjoy (楽しむ) eat (食べる)
tree (木)	flower (花) snow (雪)
sea (海)	beach (砂浜) mountain (山)
food (食べ物)	
cold (寒い)	hot (暑い)
fireworks (花火)	festival (祭り)
rice cake (もち)	shrine (神社) temple (寺)
the U.K. (イギリス)	Japan (日本)

【解答類型ごとの反応率】

通過率：内容A 38.2%，内容B 40.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答，○：準正答)	内容A 反応率 (%)		内容B 反応率 (%)	
◎1	3文以上で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考えが書いてあり、文と文のつながりを工夫して展開しているもの	0.7		1.3	
○2	3文以上で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考えが書いてあり、文法・語法等の誤りがみられるが、文と文のつながりを工夫して展開しているもの	12.6	37.5	11.6	39.5
○3	3文以上で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考えが書いてあり、文と文のつながりを工夫して展開しているとはいえないが、適切さを欠いているところはないもの	1.1		1.3	
○4	3文以上で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考えが書いてあり、文法・語法等の誤りがみられ、また、文と文のつながりを工夫して展開しているとはいえないが、適切さを欠いている(一貫性を欠いたり、同じ内容の文を無用に繰り返したりしているなど)ところはないもの	23.8		26.5	

5	3文以上で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考えを書いているが、適切さを欠いている(一貫性を欠いたり、同じ内容の文を無用に繰り返したりしているなど)もの	6.4	5.5
6	3文以上で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考え、あるいはそれと思われる文を書いているが、文構造等の誤りがみられる	24.3	27.3
7	2文以下で夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考え、あるいはそれと思われる文を書いているもの	7.7	6.2
8	(全体的にみて)夏又は冬のどちらの季節を勧めるかについての自分の考えとは関係のない英文を書いているもの(書いている文の数が全体で3文以上か2文以下かは問わず)	1.2	0.8
9	上記以外の解答	7.7	5.8
0	無解答	14.5	13.7

内容Aの通過率 38.2%のうち、正答と準正答はそれぞれ 0.7%、37.5%であった。
 内容Bの通過率 40.7%のうち、正答と準正答はそれぞれ 1.3%、39.5%であった。誤答のうち、内容Aの類型6と無解答はそれぞれ 24.3%、14.5%であり、内容Bの類型6と無解答はそれぞれ 27.3%、13.7%であった。

【解答類型ごとの解答例】

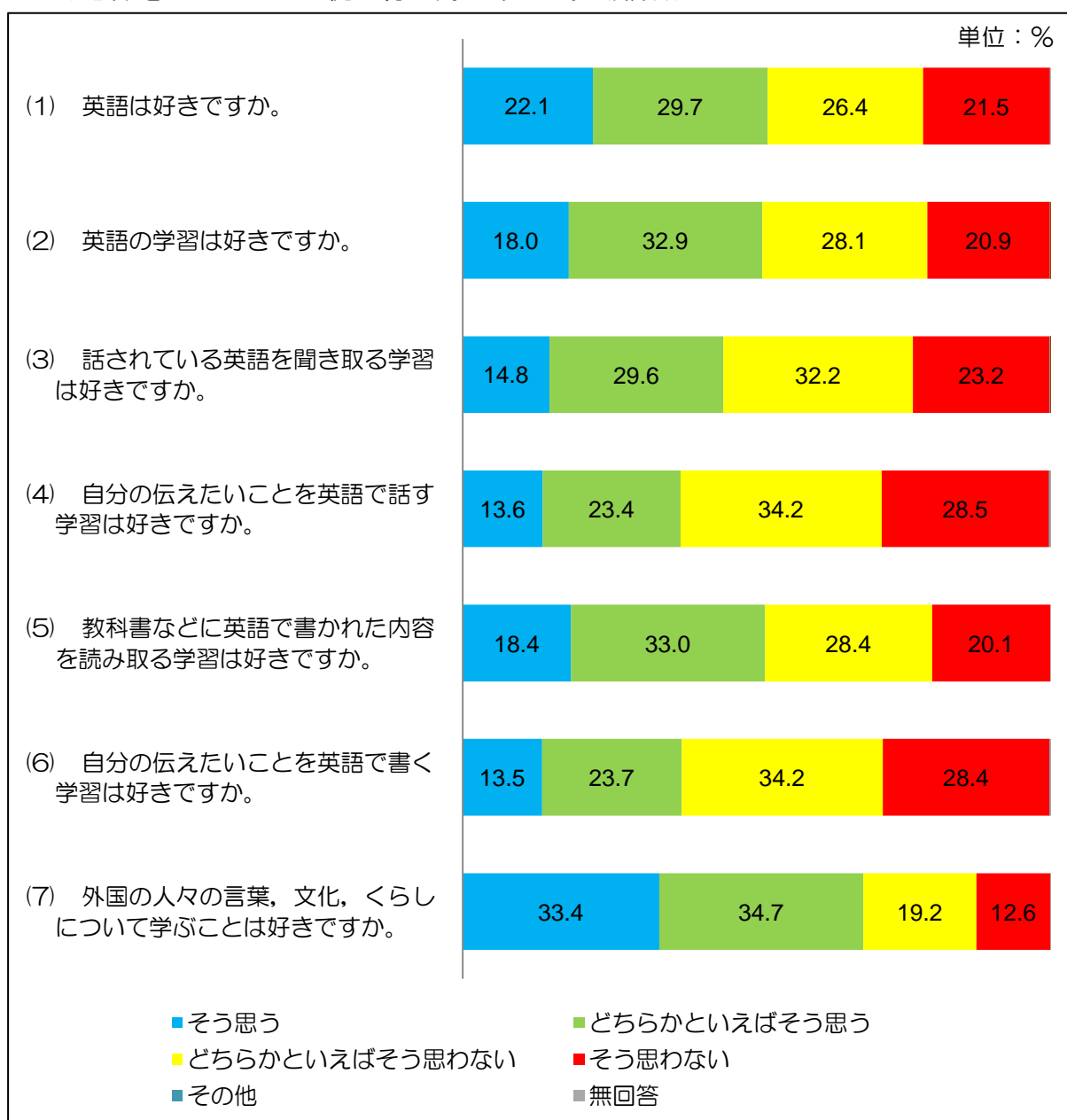
類型番号	解答例 (◎ : 正答, ○ : 準正答)	判断の視点
◎1	(I think summer is better.) If you visit Japan in summer, you will be able to swim in the beautiful sea in Japan. Also, you can go camping in the mountains full of nature. Moreover, many festivals will be held. You can see brilliant fireworks at the festivals. (4文)	日本の夏を勧める内容を4文(3文以上)で記述している。moreover を効果的に使い、文と文のつながりを工夫している。
	(I think winter is better.) You can enjoy skiing and skating in winter. The mountains like Mt. Fuji, which is covered with snow are very beautiful. Japanese people often visit shrines or temples on January 1, so you may be able to understand Japanese culture, too. Judging from these, you had better visit Japan in winter. (4文)	単語のつづり誤りは不問。日本の冬を勧める内容を4文(3文以上)で記述している。また、特徴を記述した後に judging from を使い、全体をまとめており、文と文のつながりを工夫している。
○2	(I think summer is better.) If you visit in summer, you can swim in the sea. Swimming in the sea is very fun. And you can see fireworks. It's very beautiful. There are many festival in summer. It hold in each shrines. If you can visit to Japan, come on in summer. (6文)	日本の夏を勧める内容を6文(3文以上)で記述している。また、前文の内容を受けて次の文が続いており、文と文のつながりを工夫している。ただし、動詞の活用の誤りや前置詞の誤りなど、文法・語法等の誤りがある。
○3	(I think winter is better.) Japanese summer is very hot. You can ski and skate in winter. And you can sea snow festival. (3文)	日本の冬を勧める内容を3文(3文以上)で記述しているが、特徴の羅列であり、文と文のつながりを工夫しているとはいえない。

○4	(I think summer is better.) You can camp. You should swim. You going to go to beach. You enjoying it. (4文)
	日本の夏を勧める内容を4文(3文以上)で記述しているが、特徴の羅列であり、文と文のつながりを工夫しているとはいえない。また、3・4文目に動詞の不適切な活用での使用など、文法・語法等の誤りがある。
5	(I think summer is better.) I go to the ocean. I go to the summer festival. I eat a Kakigori. (3文)
	自分が夏に行う行為のみを3文(3文以上)で記述しており、日本の夏を勧める理由としては不十分であり、適切さを欠いている。
6	(I think winter is better.) I like snow. I like food eat to. I like not hot. (3文)
	日本の冬の特徴を3文(3文以上)で記述しているが、2文目に語順の誤りなど、文構造等の誤りがある。
7	(I think summer is better.) We can swim in the sea. It is sunny and hot every day. (2文)
	日本の夏の特徴を記述しているが、2文(2文以下)である。
8	(I think summer is better.) Because I want fish the U.K. I want camp the U.K. I want swim the sea and beach the U.K. I want seen fireworks. I want go to the U.K. festival. So I think summer is better. (6文)
	日本の夏を勧める文になっていない。
9	(I think winter is better.) Because Natuwa atuisi. (1文)
	文のほとんどをローマ字表記で記述している。

V 生徒質問紙調査における調査結果

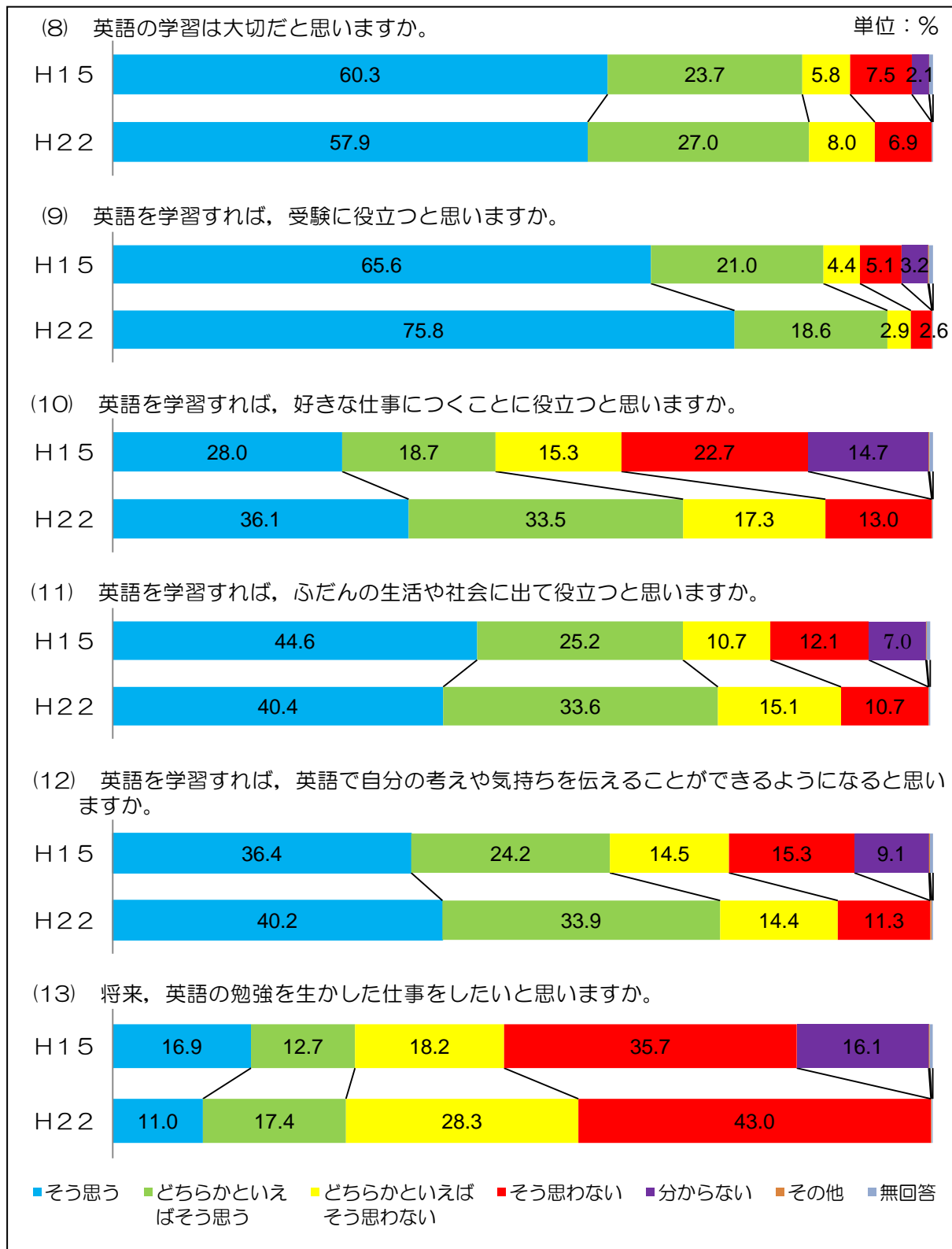
1 英語学習に関する意識調査の結果

- 英語及び英語の学習に好意的な意識をもっている生徒は約5割であった。(質問(1)(2))
- 英語の学習において、発信的な学習(「話すこと」「書くこと」)に好意的な意識をもっている生徒は、受容的な学習(「聞くこと」「読むこと」)に好意的な意識をもっている生徒より少ない。(質問(3)~(6))
- 英語の学習において、外国の人々の言葉、文化、暮らしについて学ぶことに好意的な意識をもっている生徒は約7割であった。(質問(7))



○ 平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査の質問紙調査の類似質問※での経年比較では、「英語を学習すれば、好きな仕事につくことに役立つと思いますか。」において肯定的な回答をした生徒の割合が大きく増加している。(質問(10))

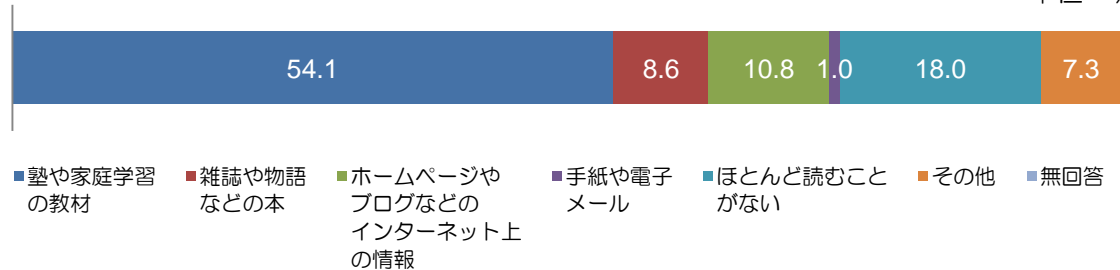
※類似質問：質問の文言や選択肢に一部変更が見られるもの。



2 主として「書くこと」に関する意識調査の結果

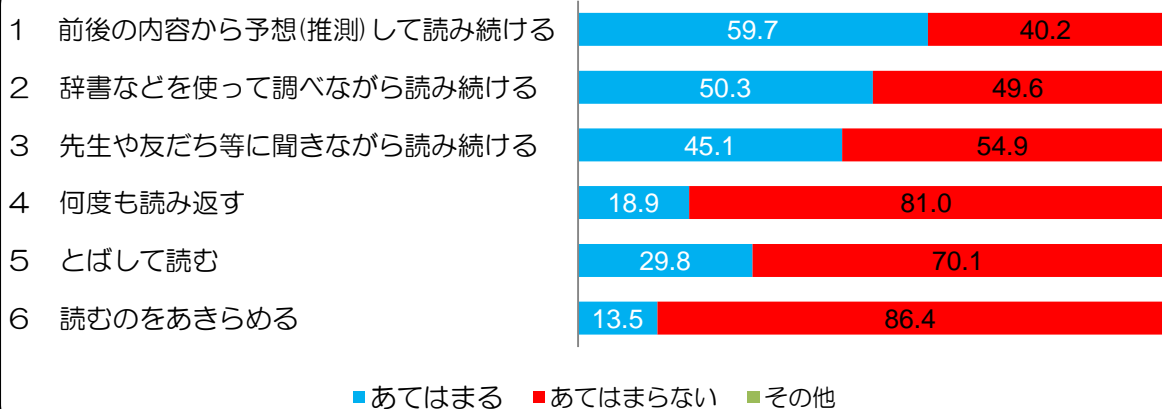
(1) 日常生活の中で、教科書以外で英文を読むことが最も多いのは次のどれですか。

単位：%



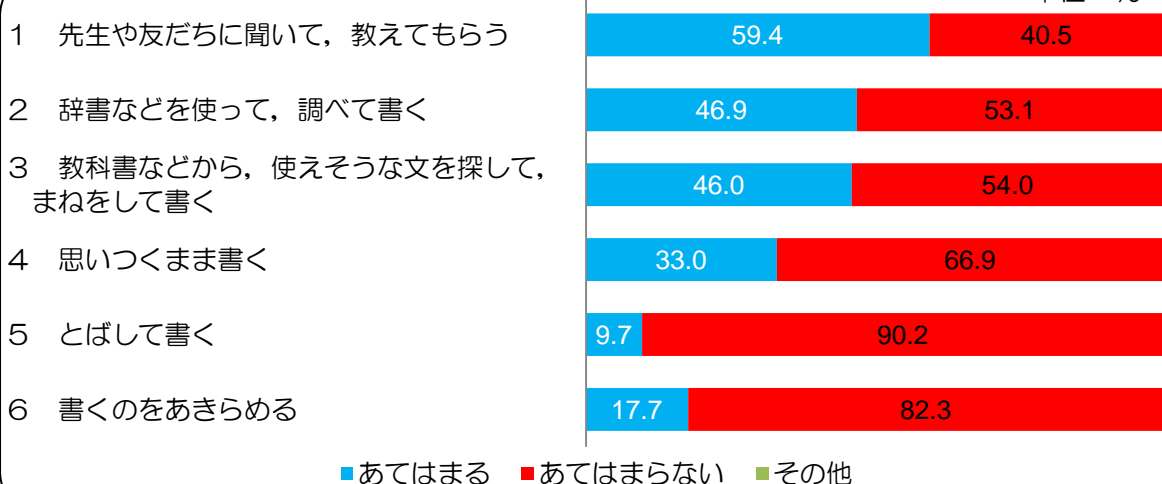
(2) 英文を読むとき、分からない語や表現があったらどうしますか。(複数回答可)

単位：%

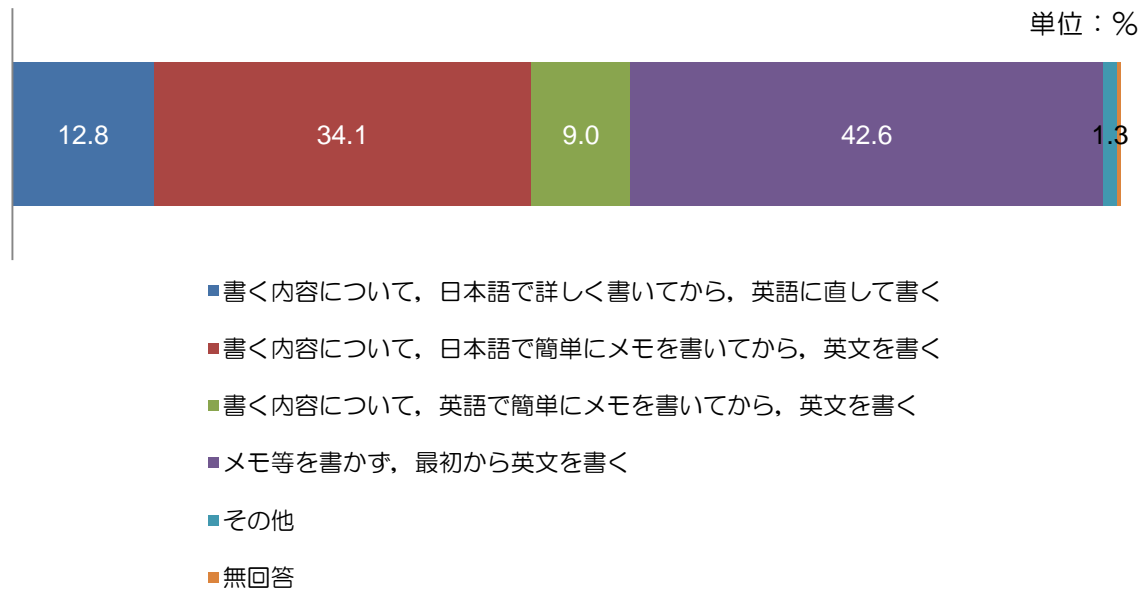


(3) 英文で自分の考えや意見を書くとき、書きたい表現が分からなかったらどうしますか。(複数回答可)

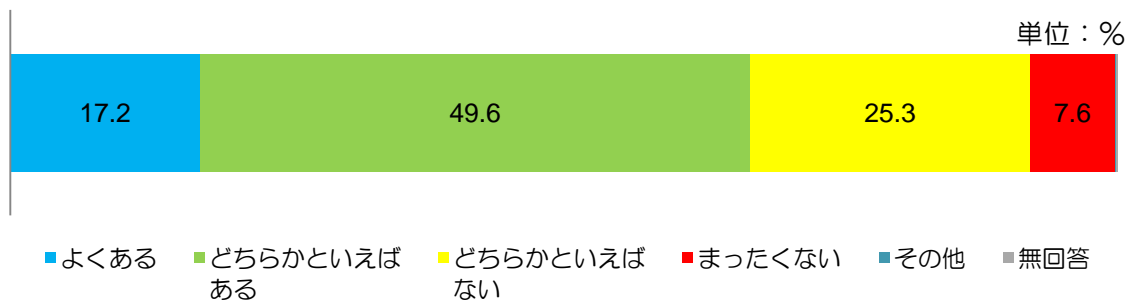
単位：%



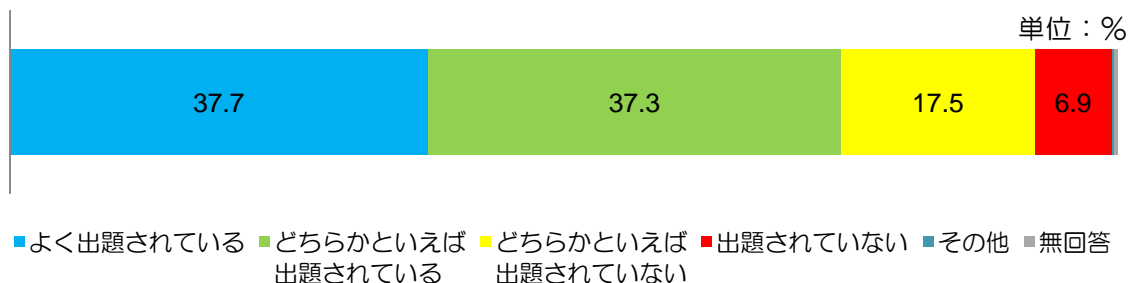
(4) 英文で自分の考えや意見を書くとき、どのような手順で書きますか。



(5) 英語の授業で、自分で考えたことを英文で書く活動はどのくらいありますか。

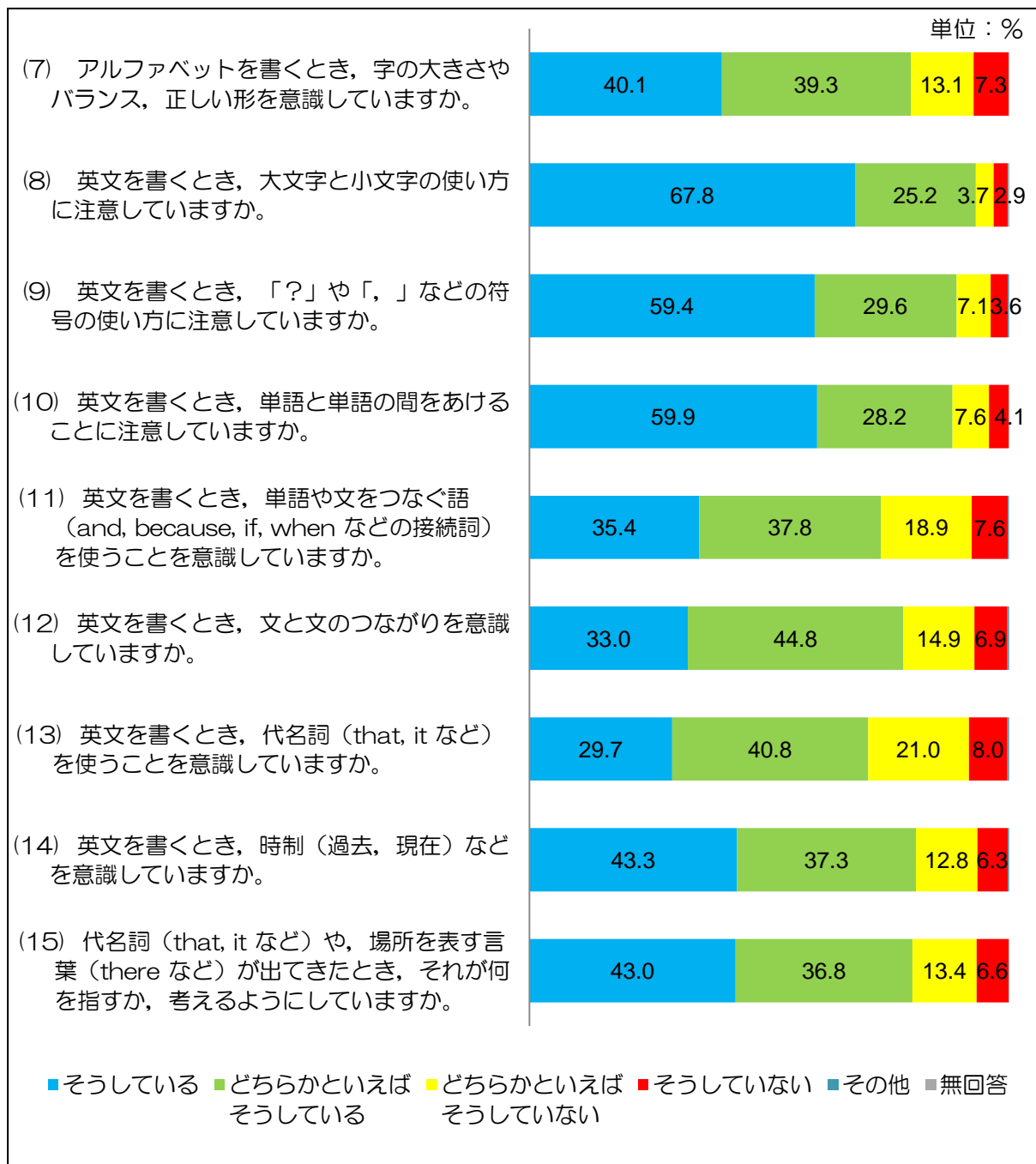


(6) 自分の考えや気持ちなど（自己紹介、日記、他の人物紹介、与えられた条件での英作文など）を書く問題は、定期試験などで出題されますか。



○ 英文を書くとき、大・小文字や符号の使い方に注意している生徒は約9割であった。
 (質問(7))

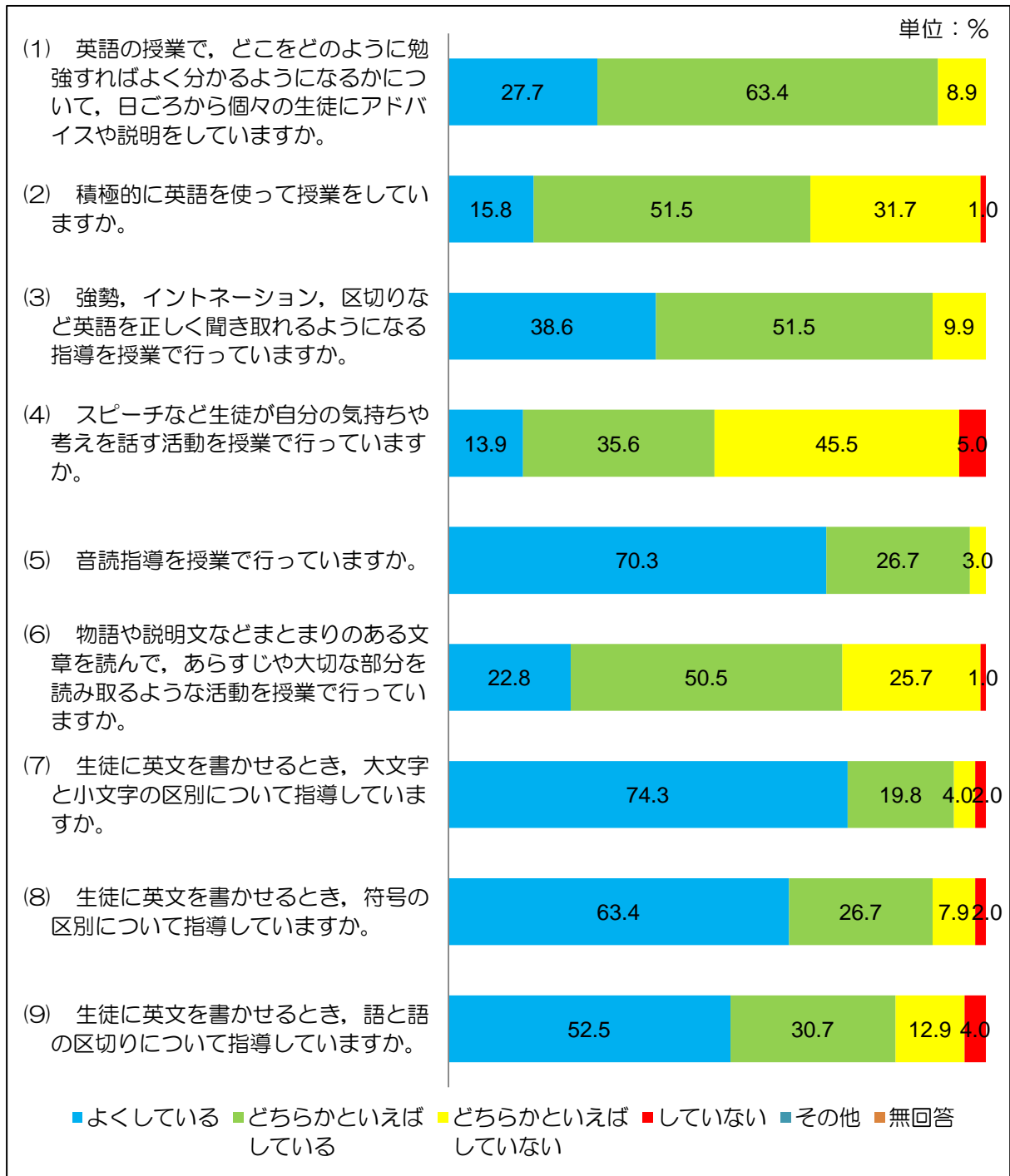
○ 英文を書くとき、文と文のつながりを意識している生徒は約8割であった。(質問(12))



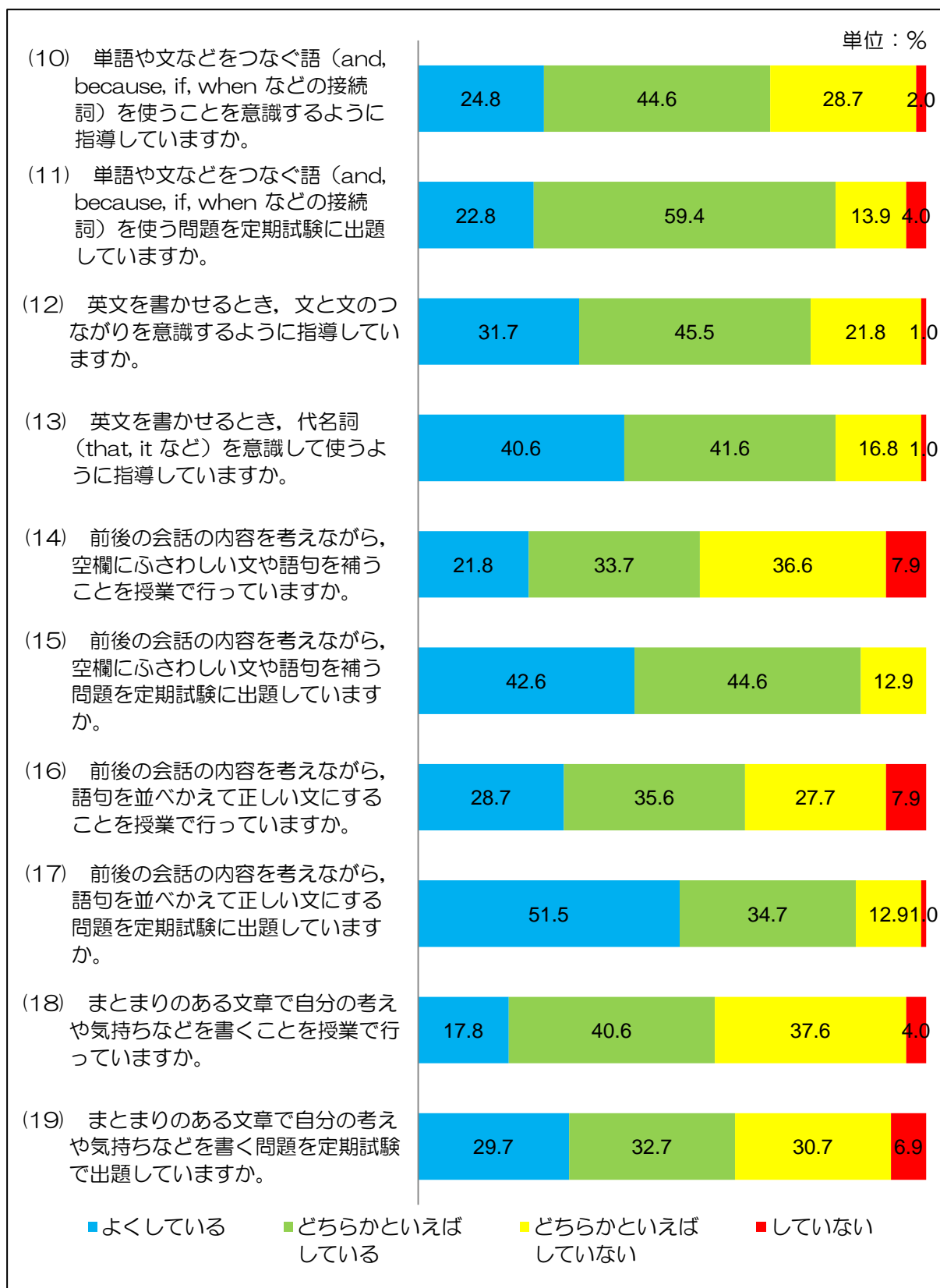
VI 学校質問紙調査における調査結果

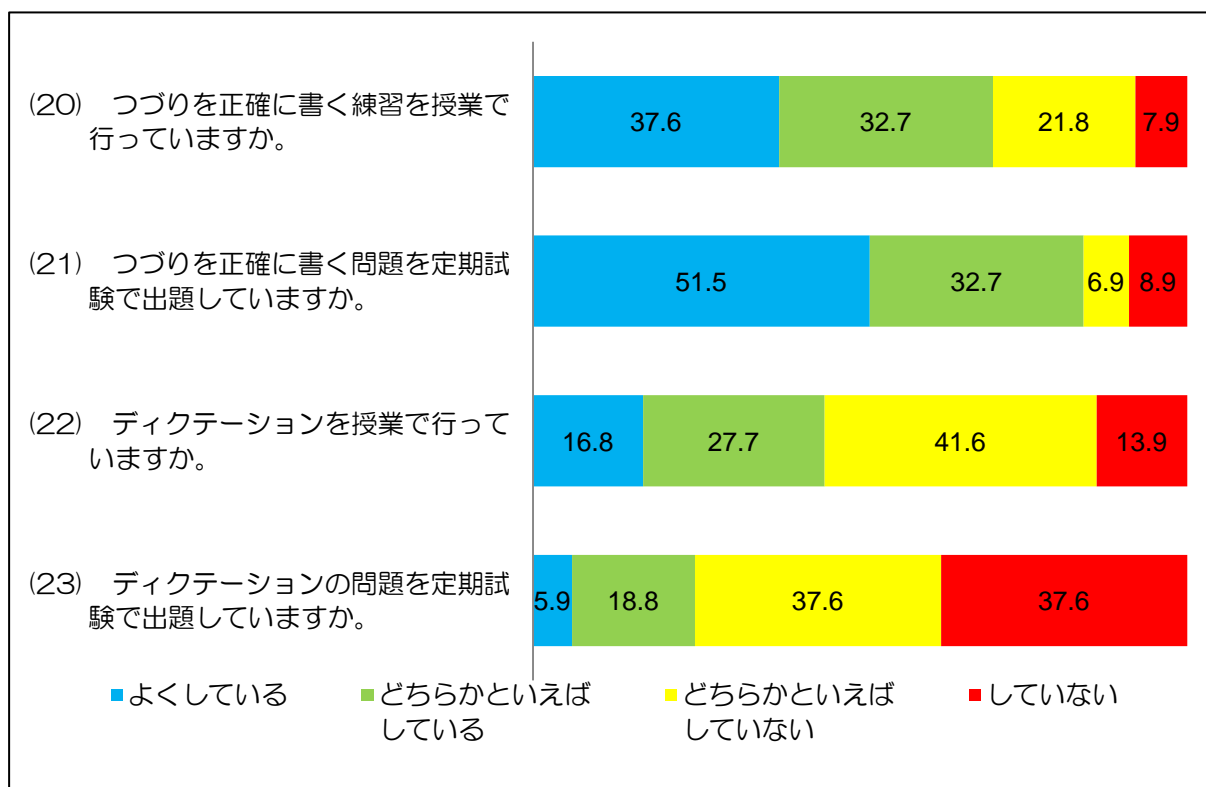
1 英語の指導に関する調査の結果

- 積極的に英語を使って授業をしている学校は約7割であった。（質問(2)）
- スピーチなど生徒が自分の気持ちや考えを話す活動を授業で行っている学校は約5割であった。（質問(4)）



○ 授業での指導を十分行わないまま、定期試験で出題する傾向がある。（質問(10)(11), (14)～(19)）

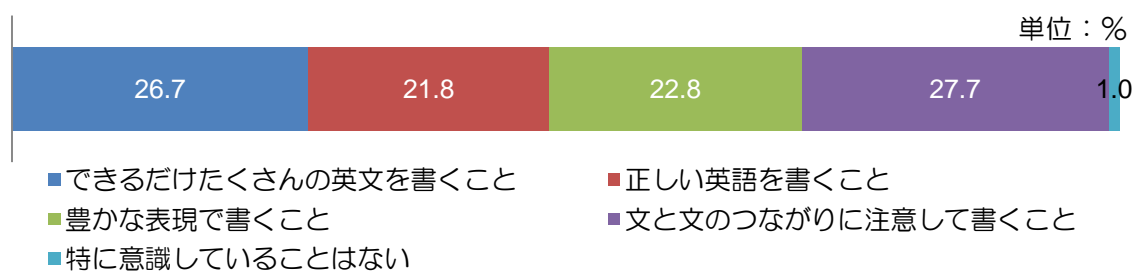




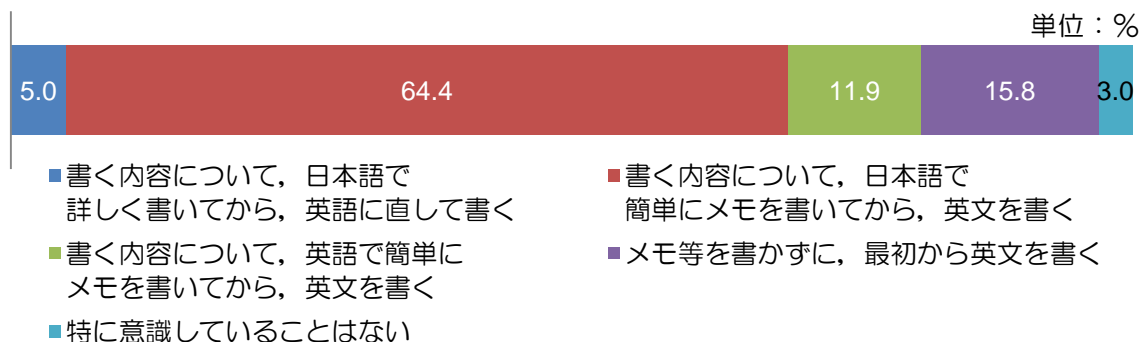
2 まとまりのある内容の文章を書くことに関する調査の結果

○ まとまりのある内容の文章を書かせるとき、書く内容について、日本語で簡単にメモを書いてから、英文を書くように指導している学校が6割以上であった。(質問(2))

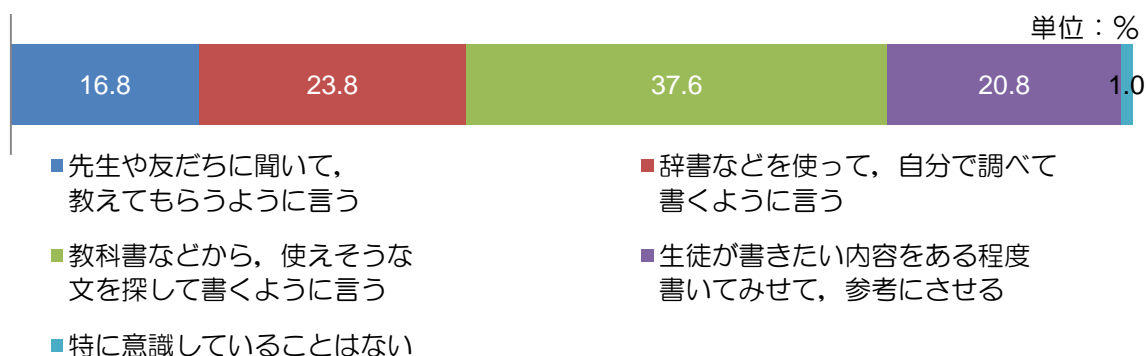
(1) まとまりのある内容の文章で自分の考えや意見を書かせるとき、最も意識して指導しているのはどのようなことですか。



(2) まとまりのある内容の文章で自分の考えや意見を書かせるとき、どのような手順で書くよう指導していますか。

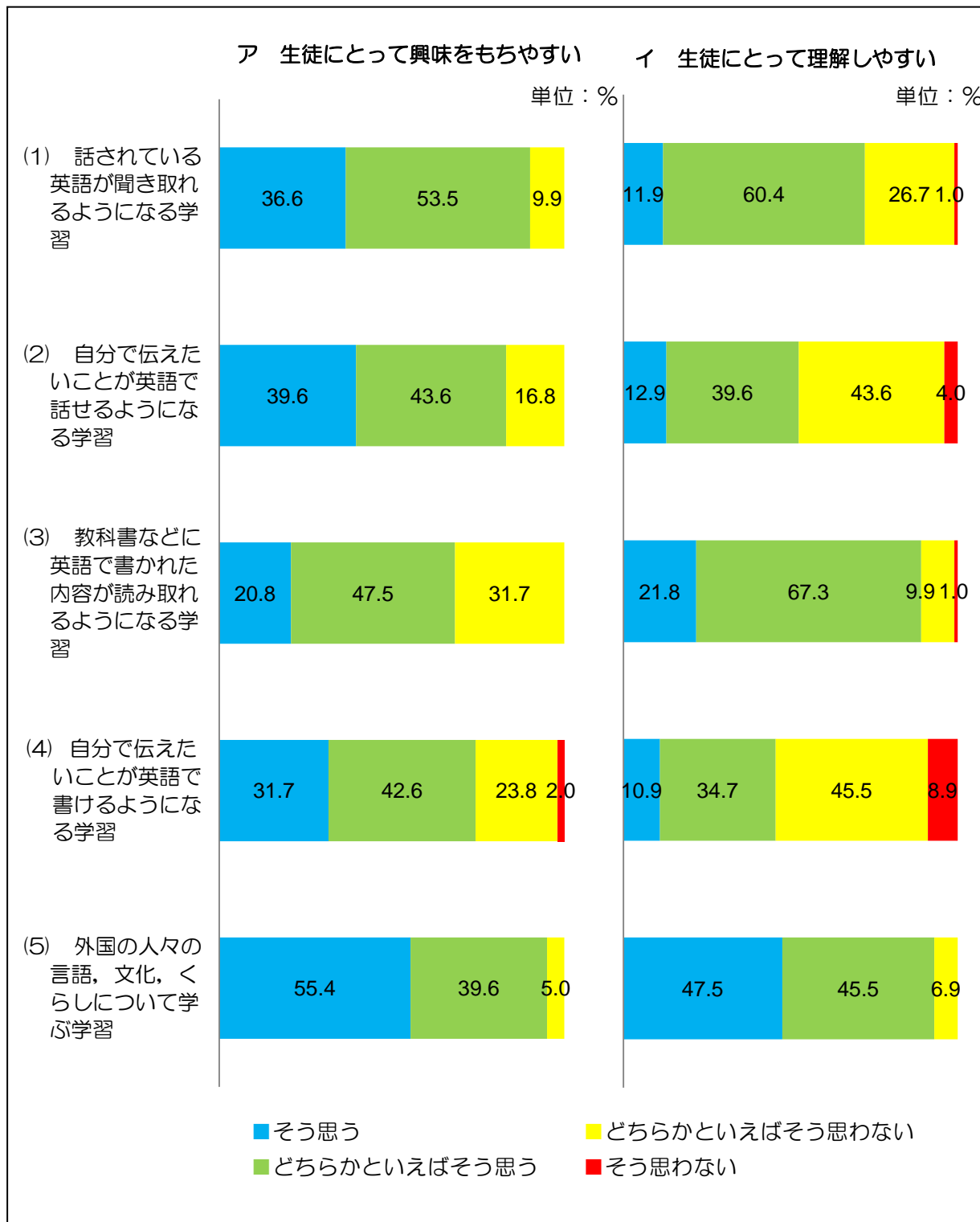


(3) まとまりのある内容の文章で自分の考えや意見を書かせるとき、適切な表現が分からない生徒に対して、どのように指導していますか。



3 学習状況に関する調査の結果

- 「書くこと」における学習は、他の学習と比べ、生徒にとって興味をもちにくく、理解しにくいと感じている。（質問(4)）



【特定の課題に関する調査問題作成委員会委員（中学校外国語（英語））】（五十音順）
（平成 23 年 3 月末現在）

※は結果分析委員会委員と兼務

青野 保	埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当指導主事（※）
井添 純一郎	岐阜県高山市立日枝中学校教諭（※）
大井 恭子	千葉大学教育学部教授／大学院教育学研究科教授（※）
加瀬 政美	千葉県旭市立第二中学校教諭（※）
金子 朝子	昭和女子大学人間文化学部教授/大学院文学研究科教授（※）
齋藤 勝彦	千葉県千葉市立緑町中学校教諭（※）
関 友彦	愛知県立東郷高等学校教諭（※）
関川 充代	千葉県いすみ市立大原中学校教諭（※）
千賀 秀樹	愛知県東海市教育委員会学校教育課指導主事（※）
豊田 尚正	埼玉県深谷市教育委員会副参事／指導主事（※）
根岸 雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授（※）
若本 綾子	広島県竹原市立賀茂川中学校教諭（※）

この他、問題作成に当たっては以下の方の協力を得た。

太田 光春	文部科学省初等中等教育局視学官
Robson, Gordon	昭和女子大学人間文化学部英語コミュニケーション学科教授

【特定の課題に関する調査結果分析委員会委員（中学校外国語（英語））】（五十音順）
（平成 23 年 12 月末日現在）

青野 保	埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当指導主事
井添 純一郎	岐阜県高山市立日枝中学校教諭
大井 恭子	千葉大学教育学部教授／大学院教育学研究科教授
加瀬 政美	千葉県教育庁北総教育事務所指導主事
金子 朝子	昭和女子大学人間文化学部教授/大学院文学研究科教授
齋藤 勝彦	千葉県千葉市立緑町中学校教諭
関 友彦	愛知県立東郷高等学校教諭
関川 充代	千葉県いすみ市立大原中学校教諭
千賀 秀樹	愛知県知多郡南知多町立内海中学校教頭
豊田 尚正	埼玉県深谷市教育委員会次長／指導主事
根岸 雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
前田 啓朗	広島大学外国語教育研究センター准教授
若本 綾子	広島県竹原市立賀茂川中学校教諭

この他、結果分析に当たっては以下の方の協力を得た。

太田 光春	文部科学省初等中等教育局視学官
-------	-----------------

国立教育政策研究所においては、以下の者が本調査を担当した。

平木	裕	教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
向後	秀明	教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
直山	木綿子	教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
笠原	一	教育課程研究センター研究開発部学力調査課専門職

(平成 23 年 3 月 31 日まで)

この他、本調査の全般にわたり、国立教育政策研究所において以下の者が担当した。

神代	浩	教育課程研究センター長
作花	文雄	教育課程研究センター長 (平成 22 年 7 月 30 日まで)
角屋	重樹	教育課程研究センター基礎研究部長
工藤	文三	教育課程研究センター基礎研究部長 (平成 22 年 3 月 31 日まで)
萩原	康仁	教育課程研究センター基礎研究部研究員
宮内	健二	教育課程研究センター研究開発部長
梅澤	敦	教育課程研究センター研究開発部長 (平成 23 年 3 月 31 日まで)
大内	克紀	教育課程研究センター研究開発部研究開発課長
稲葉	敦	教育課程研究センター研究開発部研究開発課長

(平成 23 年 3 月 31 日まで)

澤田	佳代	教育課程研究センター研究開発部研究開発課長補佐
----	----	-------------------------

(平成 23 年 3 月 31 日まで)

今岡	二郎	教育課程研究センター研究開発部研究開発課企画係長
小田	孝仁	教育課程研究センター研究開発部研究開発課専門職
廣田	雅明	教育課程研究センター研究開発部研究開発課専門職

(平成 22 年 3 月 31 日まで)